

卵巢ノ病理解剖學的並ニ組織學的研究

其ノ三、病の人卵巢殊ニ其ノ所謂格子 狀纖維ニ就テ

(昭和三年九月十一日受附)

金澤醫科大學病理學教室(主任中村教授)

專攻生 小 山 正 直

目 次

緒 論	ニ. 纖維筋腫
第一章 材料並ニ検査方法	第九節 皮様囊腫(囊狀畸形腫)
第二章 所見概括並ニ考按	第十節 卵巢炎症
第一節 囊狀腺腫	イ. 卵 巢 炎
第二節 Krukenberg 氏腫瘍	ロ. 結 核 症
第三節 癌 腫	第十一節 黃體囊胞
第四節 肉 腫	第十二節 化骨及石灰沈着
第五節 纖維腫	第十三節 卵巢莖捻轉
第六節 内被細胞腫	第十四節 血栓形成
第七節 粘液腫並ニ石灰化セル粘液纖維腫	第十五節 卵巢固有組織ト疾病トノ關係
第八節 混合腫瘍	結 論
イ. 筋・粘液・上皮腫	文 獻
ロ. 筋・粘液・纖維腫	附圖及附圖説明
ハ. 淋巴管筋腫	

緒 論

各種臟器ノ病的組織ノ格子狀纖維ニ就テハ、微ニ入り細ニ涉リテ多數ノ研究者(Russakoff⁽¹⁴⁷⁾, 今⁽⁶⁸⁾, Rössle-吉田⁽¹⁴⁴⁾, 松井⁽⁹⁷⁾, 藤井⁽³⁴⁾, 横尾⁽¹⁹⁹⁾, 松田⁽⁸⁸⁾等)ニヨリテ記載報告セラレタリ。而シテ久留⁽⁷⁴⁾ハ格子狀纖維ノ染色法ヲ應用シ、惡性腫瘍ノ鑑別ニ資セリ。翻ツテ婦人科方面ヲ觀ルニ、黃體ニ就テハ荻野⁽¹¹⁸⁾, 廣瀬⁽⁴⁸⁾等ノ報告アリ。一般卵巢ノ間質纖維殊ニ格子狀纖維ノ研究ヲナセルモノハ甚少ク、僅ニ Hörmann⁽⁵²⁾⁽⁵³⁾ノ報告アルニ過ギズシテ、氏ハ生理的狀態ノ少數例ニ就テノミ記セルモノナリ。然ルニ病的卵巢組織殊ニ實質ニ關シテハ、各種ノ疾患ニ就テ詳細ニ記載セラレタルモノ舉ゲテ數フ可カラズ。如斯單ナル組織の所見ニ就テハ多數報告アリト雖モ、其等卵巢ノ病的狀態ニ於ケル間質殊ニ格子狀纖維ノ態度ニ就テハ未ダ詳細ナル記載ニ接セズ。

余⁽⁸⁶⁾⁽⁶⁷⁾ハ先ニ胎生期ヨリ老年期ニ亘ル生理的人卵巢ノ格子狀纖維ヲ觀察セシニ、纖維ト實質組織トノ關係ハ實ニ密接ナル狀態ニ置カレタルヲ知レリ。更ニ卵巢ノ病的狀態ニ於テ、

間質ヲ形成セル格子狀纖維及膠基纖維ハ病的機轉ニ對シテ如何ナル態度ヲ示スモノナルカニ就テ檢索スル事ハ實質組織ノ觀察ト共ニ甚興味アル事ト信ジ、各種疾患ニ就テ觀察セリ。茲ニ其實質ノ組織所見ト合セテ之ヲ記述シ、卵巢ノ病理組織學的知見ニ補遺セントス。

第一章 材料及検査方法

本研究ニ供セシ人體卵巢ノ大部分ハ、當病理學教室ニ於テ剖檢ニヨリ得タルモノ又ハ貯藏標本ヨリ採取シタルモノナレドモ、卵巢腫瘍ノ一部ハ中井助教ノ好意ニヨリ本學產科婦人科學教室ノ貯藏標本中ヨリ一部惠與セラレタリ。其他ノ一部ハ長野赤十字社支部病院婦人科ニテ手術的ニ別出シ得タル新鮮標本ヲ惠與セラレタルモノニシテ、茲ニ各主任ノ御好意ニ對シ厚ク感謝ノ意ヲ表ス。

斯クシテ得タルモノ總數101例ナリ。病理解剖ヲ經タル屍體ヨリ得タル材料及婦人科ニテ手術的ニ別出シ得タル比較的新鮮ナル材料ニテハ、各種染色法ニヨリ佳染スレドモ、長期ニ亘レル貯藏標本ヨリノモノハ往々ニシテ染色悪ク、殊ニ鍍銀標本ニ於テ著明ナリ。依ツテ貯藏標本ヨリノ材料採取ニ當リテハ可成新鮮ナルモノヲ選ビタリ。

貯藏標本ヨリ得タル此等材料ハ使用前10%「フォルマリン水(Merck)ニ入レ、又新鮮ナルモノハ其中央ニ割テ入レ、直ニ「フォルマリン水ニ投ジ固定セリ。主トシテ凍結法ヲ用ヒテ10乃至15μノ厚サニ切レリ。尙其一部ハ「ツェロイデン包埋切片及福士法ニヨル「ゲラチン包埋凍結切片トナセルモノアリ。

染色法トシテハ余ハ⁽⁶⁶⁾特ニ松田氏法ヲ少シク改良セル Bielschowsky 氏鍍銀法ヲ用ヒタリ。切片ハ主トシテ凍結切片ヲ用ヒタレドモ、亦「ツェロイデン切片ヲ用ヒタルモノモ多シ。上記鍍銀法ノ外ニ各切片ニ就テ「ヘマトキシリン」—「エオジン重染色法、Weigert 氏鐵ヘマトキシリン」—van Gieson 氏結締織重染色法、Weigert 氏彈力纖維染色法及之ト van Gieson 氏結締織重染色法、「ズダンIII—「ヘマトキシリン重染色法ヲ施シテ檢索セリ。

尙必要ニ應ジテハ、Mallory 氏結締織染色法、Turnbulls「ブラウ(鐵)反應、「ニールブラウ、スルファート染色法ヲ施シ又分極光裝置ヲ用ヒテ重屈折性物質ヲ檢セリ。其他 Mayer 氏「ムチカルミン染色法及保々氏⁽⁵⁴⁾「ムチカルミン染色法ヲ使用セルモノアリ。

第二章 所見概括並ニ考按

第一節 囊狀腺腫

肉眼的所見

検査番號	年齢	臨床的診断	大サ(糎), 性状 其他
1	18	右側卵巢囊腫	過手拳大, 透明粘稠ノ液ヲ容ル. 單房性.
2	18	右側卵巢囊腫	兒頭大, 多房性, 「コロイド様粘稠ノ液ニテ充サル.
3	20	右側卵巢假性粘液囊腫	大人頭大, 多房性, 透明ノ粘稠ノ液ヲ容ル.
4	23	左側卵巢囊腫 (右側卵巢囊腫)	左ハ胎兒全身大, 右ハ小鷄卵大. 多房性. 透明粘稠ナル液ヲ容ル.

5	23	右側卵巢囊腫	鵝卵大, 多房性, 稍黃味ヲ帶ヘル白色粘稠ナル膠様物質ヲ容ル。
6	24	左側卵巢囊腫	小兒頭大, 單房性, 稀薄透明ノ液ヲ容ル。
7	25	乳嚙性卵巢囊腫	鵝卵大, 單房性, 透明稀薄ノ液ヲ僅ニ容ル。
8	27	左側卵巢囊腫	2倍大人頭大, 多房性, 一部ニハ透明稀薄ノ液ヲ一部ニハ膠様ヲ呈スル液ヲ容ル。
9	27	右側卵巢囊腫	大人頭大, 多房性, 白色透明粘液様ヲ呈シ, 一部ハ膠様ヲ示セル内容アリ。
10	28	左側卵巢囊腫 右側卵巢囊腫	左ハ大人頭大, 右鵝卵大, 透明黃色稀薄ノ液ヲ容ル。
11	29	左側卵巢囊腫	胎兒頭大, 多房性, 稀薄透明ノ液ヲ容ル。
12	31	左側卵巢囊腫	過鵝卵大, 單房性, 稀薄透明ノ液ヲ容ル。
13	34	左側卵巢囊腫 胃小彎膠様痛 腹膜轉移	左鵝卵大, 右指頭大, 左ニテハ多房性囊胞アリ。内ニ膠様物質ヲ容ル。
14	41	兩側卵巢囊腫 (左ハ廣韌帶 内發育)	左ハ約2倍鵝卵大, 右小兒頭大, 透明粘稠ノ液ヲ容ル。
15	43	左側卵巢囊腫	小兒頭大, 多房性, 稀薄透明ノ液ヲ容ル, 莖捻轉約120度ヲ示ス。
16	43	右側卵巢囊腫	鵝卵大, 單房性, 内腔稀薄透明ノ液ヲ容ル。
17	45	右側卵巢囊腫	2倍大人頭大, 單房性, 帶黃褐色ノ水様ノ液ヲ容ル。
18	46	右側卵巢囊腫	林檎大, 多房性, 透明稀薄黃色ノ液ヲ容ル。
19	47	左側卵巢囊腫	過大人頭大, 單房性, 稀薄透明ノ液ヲ容ル(廣韌帶内發育)。
20	47	右側卵巢囊腫	約3倍大, 多房性, 粘稠ナル膠様物質ヲ容ル。
21	47	左側卵巢囊腫	過手掌大, 單房性, 稀薄透明ノ液ヲ容ル(廣韌帶内發育)。
22	49	右側卵巢囊腫	小兒頭大, 多房性, 透明濃厚ナル粘稠物質, 又一部ハ膠様, 一部ハ暗赤色汚穢ノ液ヲ混セリ。
23	51	兩側卵巢囊狀 腺腫	左ハ鵝卵大, 右ハ胡桃大, 剖面質實シ, 之ヲ精査スルニ大サ略等シキ極メテ小ナル囊胞多數密集セリ。
24	55	卵巢囊腫	約2倍小兒頭大, 單房性, 腹腔内臟器ト癒着高度ノタメ, 別出困難ナリ。黃色汚穢ノ液狀物ヲ容ル。
25	63	左側卵巢囊腫	過大人頭大, 單房性, 稀薄透明ノ液ヲ容ル。
26	35	卵巢囊狀腺腫	手掌大, 單房性, 稀薄透明ノ液ヲ容ル。
27	27	右側卵巢囊腫	鵝卵大, 單房性, 半透明, 血様ノ液ヲ容ル。

28	28	右側卵巢嚢腫	小兒頭大，單房性，稀薄透明ノ液ヲ容ル。
----	----	--------	---------------------

顯微鏡的所見

胚上皮 一般ニ胚上皮ハ認メ得ラズ。只第13例ニテハ胚上皮ハ比較的多ク認メラレ、「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテ佳染ス。第23例ニテハ胚上皮ハ皮質表層ノ凹陷部ノ一部ニ附着セリ。

嚢狀腺腫

第23例ニテハ大部分ハ小ナル嚢狀腺腫ナレドモ、尙一部ニハ腺腔ノ小ナル腺腫組織ヲ認メ得ルモノアリ。間質結締織間ニハ一般ニ大サ略一定セル單層圓柱上皮ヲ以テ被覆セル小嚢胞多數ニ密集シ、其或部ハ甲状腺ノ組織像ニ似タルアリ。核分割ヲ示セルモノアリ。核ハ小圓形ニシテ「クロマチン」ニ富ミ細胞ノ基底部分ニ存ス。胚狀細胞多ク、「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテ原形質ハ顆粒狀ニ赤染シ、胚狀細胞ノ上端ニハ滴狀ノ「エオジン」ニ染ラザル物質ヲ有セリ。腺管ノ内腔ニハ「エオジン」ニ赤染セル無構造ノ物質及脱落變性セル上皮細胞アリ。上皮中ニハ「ズダンIII染色標本ニテ「リボイド」ノ顆粒狀沈着多キヲ認ム又間質結締織中ニハ微細顆粒ヲ有スル細胞アリ。「ムチカルミン染色法ニテハ管腔内ニハ多ク、上皮細胞中ニハ少シク紅染物質ヲ有スルモノアルモ、一般ニ明ナラズ。鍍銀標本ニテハ小嚢胞ハ細キ帶褐黑染纖維ヨリナル粗綱ヲ以テ圍繞セラル、モ、一般ニ顆粒狀沈着ヲ示セルモノ多シ。或部ニテハ一部ニ尙黑染セル細キ纖維ヲ以テ圍繞セラル、モノアリ。嚢胞ノ稍大トナレルモノニテハ、嚢胞内壓ニヨリ壓迫セラレ、間質ニ乏シキ部ニハ細キ膠基纖維モ顆粒狀沈着ヲ示シ、纖維ハ變性セリ。

甲. 假性粘液性嚢腫

假性粘液性嚢腫ニ在テハ、嚢胞ノ内面ハ一般ニ規則正シキ單層圓柱上皮ヲ以テ被覆セラレタル大小ノ嚢胞多數ヨリナル。上皮細胞ハ原形質ニ富ミ、「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテ赤ク顆粒狀ヲ示シ、細胞ノ基底部分ニハ「クロマチン」ニ富メル橢圓形ノ小核ヲ有ス(第2例)。而シテ其染色狀態ハ分泌ノ時期ニヨリテ様ナラザルモ、靜止狀態ニアル細胞ハ比較的低キ圓柱狀ヲナシ、分泌狀態ニアル細胞ハ丈高ク核ノ上方原形質内ニ硝子様透明ニシテ、普通染色法ニテハ着色セザル物質ヲ有シ、胚狀細胞ノ外觀ヲ呈ス。一般ニ大嚢胞ノ上皮ハ小嚢胞ノ其ヨリモ細胞ノ脊低シ(第2, 3ノ各例)。第4例(左側卵巢)ニテハ大小種々ノ嚢胞アリテ、分泌ハ著明ナリ。右側卵巢ニモ小嚢胞數個アリ。第5例ノ大ナル嚢胞ノ上皮基底部分ニ結締織ハ一般ニ「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテ核染色悪ク赤染セリ。又2例(第8, 9例)ニテハ嚢胞壁ノ上皮細胞ハ一般ニ膨大シ、核染色悪ク、殊ニ第9例ニテハ剝脱シ認メラレザル部アリ。間質結締織モ赤染シ、核染色弱シ。又第13例ニテハ小嚢胞多數ニアリテ、嚢胞ハ結締織ヲ以テ境セラル。斯ル部ハ鍍銀標本ニテハ一般ニ細キ帶褐黑染纖維トシテ認メラレ、格子狀纖維ヲ混ヘズ。上皮細胞ニハ「リボイド」沈着無キモ、此等嚢胞ノ中隔ヲナセル間質結締織中ニハ核ノ周圍「ズダン」ニ黄赤色ニ染レル滴狀ノ「リボイド」ヲ多量ニ沈着ス。右側卵巢ニ於テモ嚢胞ハ中等數ニ認メ得ラル。第14例ニテハ多房性ニシテ、上皮細胞ハ脊高ク一部ニハ壓平セラレタル上皮ノ被覆アル嚢胞モ認メラル。鍍銀標本ニテハ嚢胞周圍ニ帶褐黑染纖維アリテ、該纖維ハ一般ニ鬆粗ニシテ顆粒狀沈着ヲ示セリ又第17例ニテハ上皮ノ内面ニハ「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテ赤染セル粘液様ノ物質ヲ附着ス。鍍銀標本ニテハ嚢胞上皮下ニハ一般ニ帶褐黑染纖維存シ嚢胞ヲ圍繞セルヲ認メシム。又4例(第10, 18, 20, 22ノ各例)ニテハ上皮細胞間ニハ胚狀細胞ノ混在セルヲ認メシメ、核ハ萎縮シ、一般ニ核染色悪ク(第10例)、細胞基底部分ニアリ。原形質中ニハ「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテ染マラザル透明ノ滴狀物ノ存スルヲ認メシム。嚢胞周圍ニ認メラル、鬆粗ナル

結締織ハ鍍銀標本ニテハ太キ褐染乃至帶褐染ノ纖維ニシテ、上皮ニ接シテ囊胞ヲ輪狀ニ圍繞セリ。然レドモ第22例ニテハ大囊胞ノ内腔ニ向ヒ乳嘴狀ニ突出セル部ノ基質結締織中ニハ少數ノ格子狀纖維ヲ認メシメ、之ニ反シ囊胞間ノ間質結締織ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテハ核ニ乏シク鬆粗ニシテ赤染シ、鍍銀標本ニテハ多クハ褐染纖維トシテ認メラル。第26例ニテハ單層圓柱上皮ヨリナル中等大ノ囊胞ニシテ、間質結締織中ニハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテハ小管様ヲ呈セルモノ多數ニアリテ、其上皮細胞境界分明ナラズシテ瀰漫性ニ赤染シ、核ハ相集リ、所謂巨大細胞様ヲナセルモノアリ。間質内小血管ノ周圍ニハ小圓形細胞等多數ニ密集セル部アリ。Weigert氏法ニテ茲ニ少シク彈力纖維ヲ認メシム。第27例ニテハ囊胞内壁ノ上皮ハ大部分脱落シテ認メラレズ。殘レルモノハ扁平ニシテ、尙僅ニ皮質中ニ埋没セル小囊胞ノ内壁ニ骰子形ノ單層圓柱上皮ヲ以テ被覆セラル。上皮下ノ間質纖維ハ一般ニ太クシテ、鍍銀標本ニテハ、纖維ハ一般ニ帶褐黑染ス。格子狀纖維ハ認メラレズ。

間質組織 (殊ニ鍍銀標本)

一般ニ間質ハ少ク、「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテハ核ニ乏シキ結締織アリ。此部ハ鍍銀標本ニテ波狀ヲ示セル太キ褐染纖維ニテ緻密ナル層ヲナス。一部ニテハ鬆粗ナル褐染纖維ヨリナル部モアリ(第2例)。4例(第3, 4, 5, 6ノ各例)ニテハ間質ハ比較的細キ帶褐黑染纖維ヨリナリ。格子狀纖維ハ認メラレズ。第26例ニテハ太キ帶褐黑染纖維ニシテ、其一部ハ顆粒狀沈着ヲ示シ、變性セリ。第8及第9例ニテハ帶褐黑染シ、纖維ハ顆粒狀沈着ヲ示シ、膨化變性セリ。又第10, 11ノ2例ニテハ、囊腫壁ヲナセル皮質間質ハ厚ク存セル部ニテハ比較的核染色佳キ結締織纖維アリテ、鍍銀標本ニテハ帶褐黑染乃至褐染セル纖維アルノミニシテ、格子狀纖維ヲ認メシメズ。第13例ニテハ(右側卵巣)略普通健康卵巣ニ於ケルガ如キ狀態ニシテ、細キ帶褐黑染纖維ハ種々ノ方向ニ走レドモ、其皮質表層ノ一部ハ顆粒狀沈着ヲ示セルモノモアリ。然レドモ小囊胞ノ多數ニ發生セル左側卵巣ニ在リテハ囊胞ノ中隔間質ハ一般ニ細キ帶褐黑染纖維トシテ認メラレ、格子狀纖維ヲ混ヘズ。第14例ニテハ間質組織ハ一般ニ鬆粗ニシテ、核ニ乏シク、太キ帶褐黑染纖維トシテ觀ラレ、一部ハ膨化變性シ、顆粒狀沈着ヲ示セルモノアリ。又第18例ニテハ稀ニ或部位ニ細キ黑染纖維アリテ太キ膠基纖維中ニ混セルモノアリ。

乙. 漿液性卵巣囊腫

一般ニ囊胞ノ内面ヲ被ヘルハ一層ノ規則正シキ圓柱上皮ナリ。細胞ハ假性ムチン性囊胞ニ於ケルガ如ク丈高カラズ。平等顆粒狀ナル原形質ノ中央ニ「クロマチン」ニ富メル比較的大ナル核ヲ有ス。特ニ本腫瘍ニ特有ナルハ短キ毳毛ヲ有スルコトナリ。腫瘍表面ニ乳嘴ヲ有スルモノハ多クハ腹水ヲ伴ヒ又腹膜上ニ移植スルコトアリ。解剖的ニハ良性ノ腫瘍ナルモ、悪性ノ態度ヲ示スコト假性ムチン性囊胞ヨリモ著明ナリト言ハル。

余ノ檢索セル第1例ニテハ、鷄卵大ノ本囊胞ハ單層ノ圓柱上皮ヲ以テ被覆セラル。内腔ニハ「エオジン染色ニテ赤ク染レル無構造ノ物質ヲ容ル。上皮細胞ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテハ核染色悪ク、骰子形ニシテ、周圍ニハ核ニ乏シキ結締織アリテ、鍍銀標本ニテハ太キ褐染纖維トシテ認メラレ、囊胞ノ周邊ヲ圍繞ス。第6例ニテハ上皮細胞ノ核ハ橢圓形ニシテ細胞ノ中心部ニアリ。核染色一般ニ悪ク、囊胞内壁ニハ少シク乳嘴狀ニ突起ヲ出セルモノアリ。間質結締織ハ一般ニ鬆粗ニシテ、核染色悪ク、纖維ハ膨化セリ。第7例ニテハ乳嘴狀ヲナセル間質結締織ノ表面ヲ單層ノ圓柱上皮ヲ以テ被覆スルコト喇叭管粘膜ニ於ケルガ如シ。間質中ニハ血球ヲ容ル、小血管諸所ニ認メラル。鍍銀標本ニテハ細キ帶褐黑染纖維ノ網絡ヲ營ミ、皺襞狀又乳嘴狀ヲナセル基質ノ基底部分ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテハ少シク膨

化シ赤染セル結締織アリ。鍍銀標本ニテスル部ニハ波状ヲ示セル帶褐黒染纖維ニテ比較的緻密ナル纖維排列ヲナセリ。又第11例ニテハ間質ハ鍍銀標本ニテ太キ帶褐黒染乃至褐染纖維ヨリナリ、囊胞上皮下ニテ周圍ヲ圍繞セルモ、格子狀纖維ハ認メラズ。第12例ニテハ上皮ノ核染色悪ク、囊胞壁ノ間質結締組織ハ「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテ鬆粗ナル纖維排列ヲ示シ鍍銀標本ニテハ太キ帶褐黒染纖維モアレドモ、一般ニ褐染シ、部位ニヨリテハ顆粒狀沈着ヲ示シ、膨化變性ヲ認メシム。第15例ニテハ1個ノ大ナル囊胞ニシテ、上皮核ハ細胞ノ基底部ニアリ。間質結締組織ハ「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテハ一般ニ太クシテ赤染シ、一部ハ鬆粗ニシテ、一部ハ緻密ニ排列シ、鍍銀標本ニテハ囊胞ノ周圍ニハ波状ヲ示セル太キ帶褐染纖維アリテ、ソノ一部ハ膨化肥厚セリ。本例ニ於テハ莖捻轉ヲナセリト雖、血行障礙ヲ來サザリシ爲ニ本組織ニハ變性又ハ壞死等ノ所見ヲ缺ケリ。又第25例ニ於テハ上皮ハ變性脱落セリ。只一部ニ變性上皮少シクアリシノミニシテ、一般ニ認メ難シ。囊腫壁ハ極メテ菲薄ニシテ、周圍間質組織ハ少ク、此部ニハ鍍銀標本ニテ太キ帶褐染纖維アルモ、一般ニ顆粒狀沈着ヲ示シ、變性セリ。又第24例ハ單房性ニシテ、囊胞ノ内壁組織ハ核染色悪ク一部ハ壞死ニ陥リ、顆粒狀ニ赤染セリ。其間ニ中等大ノ圓形核ヲ有スル原形質ノ透明ナル大ナル細胞アリ。斯ル細胞ハ「ズダンIII染色標本ニテ「リポイド」多量ニ沈着スルヲ認メシム。鍍銀標本ニテハ帶褐染纖維少シク認メラル、モ、一般ニ粗ニシテ膨化シ、顆粒狀沈着ヲ示セリ。間質組織モ「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテ鬆粗ニシテ諸所ニ「プラズマ細胞及圓形ノ核ヲ有スル大小ノ單核細胞多數ニアリ。「ズダンIIIニテハ多量ニ「リポイド」ヲ沈着セル細胞アリ。結締織細胞中ニ微細「リポイド顆粒アリ。此部ノ血管ハ少シク擴張シ、血球ヲ充セルモノアリ。鍍銀標本ニテハ此部ハ顆粒狀沈着ヲ示セル膨化セル褐染纖維ヨリナレリ。

卵巢固有組織

原始濾胞 第11例ニテハ中等數ニ認メラレ、第1例ニアリテハ多數ニ存セリ。

發育濾胞 第10例ニテハ中等大ニ發育セル濾胞ヲ有シ、3例「第1, 11, 13(右側)ノ各例」ニテハ發育セル小濾胞數個ヲ認メシム。

閉鎖濾胞 3例(第1, 4, 10ノ各例)ニテハ夫々第1期閉鎖濾胞アリ。内莖膜ノ内壁ニハ僅ニ硝子膜ヲ有シ、纖細ナル格子狀纖維網ヲ認メシム。又第13例ノ右側卵巢ニテハ第1期及第2期閉鎖濾胞アリ。

成熟濾胞 第11例ニテハ中等數ニ、第1例ニテハ少數ニ認メラル。

黃體 第4例ノ大ナル囊胞ヲ作ラザル右側卵巢ニ在リテハ1.2種大ノ開花期黃體アリ。

白體 4例(第1, 11, 14, 19ノ各例)ニテハ小ナルモノ僅ニ認メラル、モ、他ノ2例(第10, 13(右側)ノ各例)ニテハ數個存在セリ。

血管

3例(第1, 19, 20ノ各例)ニテハ血管ハ尋常ナレドモ、6例(第4, 6, 11, 14, 17, 18ノ各例)ニアリテハ管腔稍廣キモノアリ。血球ヲ容ル、事少シ。又第6例ニテハ血管壁ハ少シク肥厚シ、血球ヲ充シ、擴張セルモノアリ。而シテ或例(第13例ノ右側)ニテハ血管壁ノ肥厚及硝子樣變性ハ高度ニシテ、其或モノハ全ク腔ノ閉塞セラレタルモアリ。

彈力纖維

11例(1, 2, 5, 10, 15, 17, 18, 22, 23, 25, 26ノ各例)ニテハ囊胞周圍ノ間質中ニハ彈力纖維ヲ認メシメズ。然レドモ第18例ニテハ部位ニヨリテ、囊胞上皮下ニ短キ彈力纖維ノ數條ヲ認メ得ルモノアリ。又第1例ニテハ上述ノ如ク囊胞間ニハ彈力纖維ハ認メラザルモ、卵巢門部ニ近キ皮質結締織中ニハ纖細ナ

ル彈力纖維ヲ少シク認メシムル部アリ。又2例(第2, 26ノ各例)ニテハ囊胞壁ヨリ隔リタル皮質間質中ニハ屈曲セル細キ彈力纖維ヲ比較的多數ニ認メシムル部アリ。而シテ他ノ2例(第5, 10ノ各例)ニテハ囊胞間質中ノ何處ニモ彈力纖維ヲ認メシメズ。

血管壁(動脈管)ノ彈力纖維ハ第25例ニテハ尋常ナリ。6例(第1, 2, 5, 10, 15, 18ノ各例)ニアリテハ血管壁ニハ纖細ナル彈力纖維アリテ, 一般ニ尋常ナル構造ヲ呈セルモノアレドモ, 或血管壁ニテハ彈力纖維ハ帶狀, 結節狀又ハ顆粒狀ニ肥厚變性セルモノアリ。

考 按

囊狀腺腫トハ上皮ノ増殖ニヨリテ先ヅ腺管ヲ形成シ, 分泌物ノ滯溜, 頸部ノ閉鎖ニヨリテ囊腫狀ニ擴大セルモノヲ言ヒ, 腺腔ノ小ナル腺腫組織ヲ見ル事ハ極メテ稀有ニシテ, 殆ド總テハ囊狀化セル腺腫ナリ。

上皮ノ腺性増殖力ハ囊腫ノ種類ニヨリテ一定セザレドモ, 一般ニ甚旺盛ナリ。卵巣囊腫ハ上皮細胞ノ増殖型及内容ノ粘稠ナル假性ムチン」ナルカ將又水様ナル漿液ナルカニヨリテ通常二種ニ大別セラル。

1. 殊ニ甚キ外發性腺性増殖ヲナシ, 其内容ノ假性ムチン」ナルモノ(腺性)假性ムチン」性囊狀腺腫

2. 多クノ場合乳嚙性増殖ヲ有シ, 其内容ノ漿液ナルモノ(乳嚙性)漿液性囊狀腺腫

又Waldeyer(1870)⁽¹⁸³⁾ハ上皮性卵巣腫瘍ニ就テ記シ, 卵巣囊腫ハ粘液様囊腫ト皮様囊腫ト二種ニ區別シ得ト言ヘリ。

如斯囊狀腺腫ニハ二種アリト雖, 腺性増殖及乳嚙性増殖ハ常ニ單獨ニ行ハル可キ特有ノモノナラズシテ, 稀ニ兩者相混ズルコトアリ。故ニ全ク特異ナル内容ニ重キヲ置キテ普通一般ニハ假性ムチン」性囊腫及漿液性囊腫ト呼バル。余ハ所見記載ニ當リ, 兩囊腫ノ區別ハ専ラ内容ニ重キヲ置キ, 且肉眼的, 組織學的所見ヲ参照シ, 可成正鵠ヲ期シタリ。

假性ムチン」性囊腫ノ大多數ハ一側ニ發生シ, 且有莖ナリ。兩側ニ發生スルカ又ハ靱帶内發育ヲナスモノハ, 甚少數ニシテ, Pfannenstiel⁽¹²⁹⁾ノ統計ニヨレバ, 一側ニシテ有莖ナルモノハ88.9%, 兩側ナルモノハ17.7%, 靱帶内(少クトモ部分的)ニ發育ヲナスセルモノ9.65%ナリト言フ。

余ノ檢索セル所ニヨレバ, 全卵巣囊腫28例中兩側ニ囊胞ノ發生セルモノハ4例(14.2%)ヲ認メシメタルノミナリ。

假性ムチン」性囊腫ノ上皮ハ殆ド無限ニ増殖ヲ反復スルモノナルガ故ニ, 稀ニ甚シク大ナル腫瘍ヲ見ルコトアリ。其巨大ナル囊腫ニ就テMaritan⁽⁸²⁾ハ體重117斤ノ患者ヨリ80斤ノ囊腫ヲ, Kaufmann⁽⁶²⁾ハ體重163磅ノ患者ヨリ93磅ノ囊腫ヲ剔出シ, Bullitt⁽¹³⁾ハ1900年迄ニ巨大腫瘍中最大ナリシハ245磅ナリシト言ヘリ。

Gloekner(1907)⁽⁴¹⁾ハ63歳ノ老年婦人ノ左側卵巣ニ發生セル液量30立(比重1030)ヲ容レタル大卵巣囊腫ニ就テ報告セリ。

如斯本腫瘍ハ旺盛ナル増生發育ヲナス性質ヲ有スルヲ以テ, 手術的治療ノ發達セザリシ往

時ニ於テハ上述ノ如ク屢巨大ナルモノヲ認メラレシモ、手術的處置ニ於テ隔世ノ感アル今日ニ於テハ、斯ル巨大嚢腫ヲ觀ル事ハ稀有トナレリ。

卵巢腫瘍ノ頻度

假性ムチン性嚢腫ハ最も多數ニ見ル卵巢腫瘍ニシテ、全卵巢腫瘍ノ約3分ノ2ヲ占ムルト稱セラレ、Lippert⁽⁸⁷⁾ハ60038例ノ卵巢腫瘍中ニ於テ約53.6%ヲ見タリト言フ。

全卵巢腫瘍ニ對スル卵巢嚢腫ノ100分率ハStauder(1902)⁽¹⁷⁰⁾ハ69.49%、Martin⁽⁹³⁾ハ59%、Leopold⁽⁸⁴⁾ハ62%、Schauta-Herzfeld⁽¹⁵⁹⁾ハ52.5%ナリト言フ。

上皮性卵巢腫瘍ノ發生ニ就テ、Waldeyer(1870)⁽¹⁸⁸⁾ハ上皮性卵巢腫瘍殊ニ嚢腫ハ一般ニ上皮ノ増生ニヨリテ作ラレ、一方膠様嚢腫ハ卵巢基質ノ結締組織細胞ヨリ來ルモノナリト言ヒ、Steffeck(1890)⁽¹⁷³⁾ハ上皮性卵巢腫瘍ハ濾胞上皮ヨリ生ズルノミナラズ胚上皮ヨリ又ハ遺殘セル上皮管(Epithelschläuche)ヨリ生ズト言ヘリ。即チ胚上皮ノ沈下ハ腫瘍ノミニ存シ、成熟セル正常卵巢ニハ決シテ觀ラレズ。又嚢腫ノ癌變性ノ際ニハ長ク殘存セリ。而シテ濾胞變性ノ最初期ニ於テハ尙卵ヲ證明シ得ト言ヘリ。安藤⁽⁶⁾ハ腫瘍ノ一部殊ニ卵巢門部ニ濾胞又ハ黄体ヲ有スル卵巢組織ヲ認ムルコトアリト言ヘリ。

余ノ檢索セル所ニヨレバ、卵巢嚢狀腺腫ヲ形成セル卵巢ニ於テモ經閉期前ノ年齢ノ者ニテハ、濾胞壁ノ一部ニハ原始濾胞、發育濾胞、成熟濾胞、閉鎖濾胞、開花期黄体及白體等ノ卵巢固有組織ヲ認メ得ルモノアルコト既述セルガ如シ。

格子狀纖維

卵巢嚢腫ニ於ケル格子狀纖維及膠基纖維ニ就テハ所見ニ於テ詳述セリ。茲ニ上述セル所ヲ總括スルニ、卵巢嚢腫ハ其假性ムチン性ナルト、漿液性ナルトヲ問ハズ、濾胞壁ヲ圍繞セル間質纖維ハ膠基纖維ヨリナリ、格子狀纖維ヲ混ヘザルヲ特徴トシ、纖維ト上皮細胞トノ境界ハ明ニシテ、其ヨリ上皮細胞間ニ纖維ノ侵入存在ヲ認メシメズ。鍍銀標本ニテ稀ニ膠基纖維ノ間ニ比較的細キ黒染纖維ヲ混ゼルコトアリ。一般ニ大ナル嚢胞壁ニアリテハ周圍ヲ圍繞セル間質膠基纖維ハ嚢胞ノ壓迫ニヨリ伸展セラレ、核染色性ヲ失ヒ、顆粒狀沈着ヲ示ス事多ク、又「ヘマトキシリン」「エオジン染色ニテ一般ニ核染色悪ク、變性セル部ノ膠基纖維ハ肥厚變性シ、且ツ膨化汚染シ、纖維構造著明ナラズ。嚢腫内腔ニ向ヒ乳嘴性増殖ヲナスモノノ基質ニ於テハ、少數ノ格子狀纖維ヲ認ムル部アリ。

本節ノ總括

1. 卵巢嚢腫28例中嚢狀腺腫1例、假性粘液嚢腫16例ニシテ、他ノ11例ハ漿液性嚢腫ナリ。
2. 假性粘液嚢腫、漿液性嚢腫及嚢狀腺腫ニテハ、上皮細胞基底部ノ周圍ニハ鍍銀標本ニテ一般ニ褐染乃至帶褐黒染纖維ヲ認メシメ、此等纖維ノ多クハ膨化・變性シ、顆粒狀沈着ヲ示セリ。纖維ト上皮細胞トノ境界ハ明ニシテ、其ヨリ上皮細胞間ニ纖維ノ侵入ヲ認メシメズ。
3. 嚢胞周圍ノ間質中ニハ一般ニ彈力纖維ヲ認メシメザルモ、卵巢基底部ニ近キ皮質結締

織中ニハ纖維ナル彈力纖維ヲ少シク認メシムルモノアリ。

第二節 Krukenberg 氏腫瘍

肉眼的所見

検査 番號	年齢	卵巣ノ大サ (種), 性状並ニ備考
1	38	左側卵巣 5.0—6.0—8.0, 右側卵巣 6.0—8.0—14.0, 手術時腹水 (約 2 立)ヲ認メシメ, 腹膜其他骨盤腔ニ播種性轉移ヲ認メシム。胃, 幽門部ニ硬キ小腫瘤ヲ觸ル。
2	39	左右兩側共ニ小兒頭大 (左側ハ廣靱帶内發育)。剖面質實ニシテ, 殊ニ左側ニテハ暗赤色ノ斑點ヲ所々ニ認メシム。
3	—	左側卵巣ハ小兒頭大, 表面平滑。剖面質實ニシテ灰白色ヲ呈セリ。
4	—	左右兩側卵巣共ニ小兒頭大ニシテ, 橢圓形ヲ帶ビ, 剖面質實ニシテ, 肉様ヲ示セリ。
5	35	左側卵巣 15.0—10.0—6.0, 右側卵巣ハ 9.0—6.5—5.0, 表面平滑ニシテ色淡ク, 剖面質實ニシテ, 顆粒狀斑狀ヲ示セリ。病理解剖上ノ診斷 胃癌腫, 胃大彎部淋巴腺轉移癌。
6	38	左右兩側ハ小兒頭大, 表面滑澤, 剖面質實ニシテ, 白色ヲ呈ス。
7	48	左側ハ小兒頭大, 右側ハ拳大, 兩側共ニ表面ニハ凹凸不平アリ。剖面質實性ナリ。
8	—	左側卵巣ハ小兒頭大, 右側卵巣ハ大人頭大, 共ニ表面平滑ニシテ, 剖面質實ナリ。
9	—	左側卵巣ハ小兒頭大, 右側卵巣ハ胎兒頭大ニシテ, 表面滑澤, 剖面質實ニシテ肉様ヲ呈ス。
10	—	一側卵巣ハ鷄卵大, 表面凹凸不平, 剖面質實ニシテ肉様ヲ示ス。
11	—	右側卵巣ハ大人頭大, 表面平滑, 剖面質實ニシテ肉様ヲ呈ス。
12	—	兩側卵巣共ニ鷄卵大, 剖面質實性ニシテ, 硬度中等度ナリ。

顯微鏡的所見

胚上皮細胞 各例共ニ一汎ニ無シ。只第 2 例ノ左側卵巣ニハ單層ノ上皮アリテ, 細胞核ハ橢圓形ニシテ原形質ニ富ム。「リボイド」沈着無シ。又第 9 例ニテハ左右卵巣共ニ小ナル圓柱上皮細胞少シクアレドモ, 一汎ニハ認メラレズ。皮質表層ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ, 比較的核ニ乏シキ赤染セル太キ纖維ヨリナリ, 比較的厚キ層ヲ作ル。此部ニハ腫瘍細胞ヲ認メシメズ。van Gieson 氏法ニテハ紅染セル太キ纖維ヲ認メシメ, 鍍銀標本ニテハ波狀ヲ示セル太キ褐染纖維層ヨリナル。只第 3 例ノ所謂白膜ノ部ニハ格子狀纖維ヲ少シク混セル太キ帶狀黑染纖維アリ。第 7 例ニテハ皮質表層ノ部ニハ一汎ニ稍太キ褐染纖維ノ中ニ少シク格子狀纖維ヲ混セルモノアリ。「ズダン III 染色標本」ニテ檢シテハ一汎ニ「リボイド」沈着ハ陰性ナルモ, 或モノ (第 1 例)ニハ少シク微細顆粒狀ニ沈着セルモノアリ。又 4 例 (第 2, 5, 7, 11 ノ各例)ニテハ左右卵巣共ニ結締織細胞中ニ「リボイド」ノ沈着セルモノト, 無キモノトアリ。

腫瘍組織

皮質深部ニハ一般ニ核染色比較的佳キ結締織細胞多ク, 其間ハ核染色佳キ腫瘍細胞, 印環狀細胞等種々

ナル移行像ヲ示セル腫瘍細胞ニテ占メラル。腫瘍細胞ハ多數群在シ、胞巢狀構造ヲ示シ、間質結締織ニテ包圍セラレテ存ス。又或部ニテハ腫瘍細胞ハ數個又ハ十數個連珠狀ヲナシ、又ハ細胞索狀ヲナシテ間質結締織ノ間ニ侵入セルモノアリ。此細胞列ノ間ニ幼若細胞ヨリ印環狀細胞ニ移行セル像ヲ示セルモノモ認メラル。印環狀細胞ハ原形質ニ富ミ、肥大シ、核ハ扁平ニ壓平セラレテ、細胞ノ邊緣ニ存シ、原形質ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ顆粒狀・塊狀ヲ示シ、膨大シ、或モノハ細胞變性シ、崩壞セルモノアリ（第1例）。

腫瘍細胞ハ一汎ニハ大サ等シキモ、部位ニヨリテハ大小不同ニシテ、1乃至2個ノ著明ナル核小體ヲ有セルモノアリ。印環狀細胞ノ原形質ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ赤染セル細顆粒狀ヲ示シ、或モノハ大ナル淡赤染セル又透明ノ滴狀物質ヲ認メシムルモノアリ。腫瘍細胞ハ原形質ニ富ミ、核分割ヲ示シ、2個ノ核ヲ有セルモノアリ（第1例左側）。又2乃至3個ノ核ヲ有シ、核分割ヲ諸所ニ認メシム（第3, 4, 6, 7, 9ノ各例）。又4核ヲ有セル腫瘍細胞アリ（第8例ノ右側）。第5例ニテハ核分割ハ新生シツツアル幼若腫瘍細胞ニ認メラルノミナリ。而シテ第2例ニテハ腫瘍細胞ハ間質ノ増生ト共ニ多數ニ増加シ明ニ胞巢狀ヲナセルモノアリ。又ハ間質組織ノ間ニ浸潤性ニ侵入ス（第1及第6例ノ左側卵巢ノ所見亦第2例ノ如シ）。而シテ核分割多ク原形質ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ赤色ニ濃染シ、數個ノ核ヲ有セルモノアリ。

又間質中腫瘍細胞ノ密集セル部ノ中心ニ當リ、小ナル腔洞ヲ形成セルモノアリ。之ヲ精査スルニ、斯ル部ニハ境界鋭利ナル小管腔ヲ認メシメ、直接腫瘍細胞ニ被ハレ、内腔空虚ナレドモ他ノ部ヲ觀ルニ尙「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ淡染シ、細胞ノ崩壞セルガ如キ状態ヲ呈シ、周圍腫瘍細胞ト接セルモノモ認メラル。第10例及第6例左側卵巢腫瘍中ニモ一部腫瘍細胞ノ變性消失シ、周圍腫瘍細胞ヲ以テ壁トナセル小管様ヲ示セル部アリ。又第5例ニテハ左右共ニ多數腫瘍細胞ハ密集シ、胞巢狀ヲナシ又ハ連珠狀ヲナシテ長キ腫瘍細胞柱ハ間質結締織中ニ並列セルモノアリ。又諸所ニ散在又ハ數個孤在セルモノアリ。其集簇セルモノハ、細胞ハ緻密ニ並列シ、中心部ノ細胞ハ膨化變性脱落シ、周圍ハ腫瘍細胞ヲ以テ輪狀ニ圍マレタル小管様ヲ呈セルモノ所々ニアリ。其或モノハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ瀰漫性ニ赤色顆粒狀ヲ示セル物質ヲ以テ充サレタルモノアリ。之ヲ精査セルニ、此部ハ核ヲ認メシメザルモ、附近ニ存在セル變性膨大セル印環狀細胞ノ原形質ニ酷似セリ。本例ニハ「ズダンIII染色標本ニテハ印環狀細胞ハ勿論、一汎ニ腫瘍細胞中ニハ「リボイド」ノ沈着無ク、僅ニ間質中ノ小腫瘍細胞中ニハ認メシムルモノアリ。

「ズダンIII染色標本ニテ一汎ニ印環狀細胞ニハ「リボイド」沈着無キモ、其幼若腫瘍細胞ニハ「リボイド」ハ顆粒狀及小滴狀沈着多シ（第1, 6, 7, 8, 9, 10ノ各例）。然レドモ部位ニヨリテハ全ク「リボイド」ノ沈着無シ。又一部紡錘形乃至星芒狀ノ細胞ヲ有スル鬆粗ナル結締織組織中ニモ印環狀細胞及他ノ腫瘍細胞ハ散在性ニ又ハ小群ヲナセルモノ認メラル。是等印環狀細胞ハ鍍銀標本ニテ格子狀纖維ヲ以テ圍マル（第2, 5, 6, 8, 9ノ各例）。

又2, 3小血管壁ノ外壁ニ接シテ其一部ニ印環狀細胞及他ノ腫瘍細胞ノ密集セルモノアリ（第2例左側卵巢）。又擴張シ、血球ヲ容ル、毛細血管ノ周圍ニ腫瘍細胞ノ數個ヲ認メシムルモノアリ。之ヲ精査スルニ、内被細胞ハ整然トシテ内壁ニ存シ、腫瘍細胞トハ全ク關係無キヲ認メシム。斯ル部ノ腫瘍細胞ニハ「リボイド」沈着多シ。又肉眼のニ所々暗赤色ヲ示セル部ハ顯微鏡的ニハ血液溢出アリテ、其部ハ核染色悪ク、「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ赤ク顆粒狀ニ染レリ。斯ル部ニハ「ズダンIII染色標本ニテ帶黃赤色ノ

「リポイド」が多量ニ顆粒狀ニ沈着シ、鍍銀標本ニテハ比較的纖細ナル格子狀纖維ノ粗網ヲ認メシム（第2例ノ左側卵巣）。

所謂白膜下ニハ之ト比較的境界銳利ニ接セル印環狀ヲ示サザル腫瘍細胞及印環狀細胞多數ニアリ。核分割少シク認メラル、モ一汎ニ核染色弱シ。皮質表層ニ近ク胞巢狀ヲナセル部ニテハ細胞崩壞シ、核染色無ク、細胞境界無キモノ集團ヲナセル部アリ。一部印環狀細胞ニハ「リポイド」ノ微細顆粒狀沈着多キモノアリ。第1例ニ比シ印環狀細胞ハ多シ。數個ノ細胞ハ連珠狀ヲナシ、間質中ニ侵入シ、「リポイド」沈着多ク周圍ハ格子狀纖維ニテ圍繞セラレ（第4例左側卵巣）。又2例（第7, 8例）ニテハ皮質深部ニハ腫瘍細胞及印環狀細胞多數ニ群ヲナシテ存シ、一部ハ諸所ニ散在シ、一部ハ連珠狀ノ細胞柱ヲナシテ間質結締織中ニ侵入セルモノアリ。其群ニセルモノハ一汎ニ胞巢ヲ形成シ、左右共ニ間質ノ一部ハ鬆粗ニシテ、紡錘形乃至星芒狀細胞アル幼若結締織ヲ認メシムル部アリ。此間質中ニ印環狀細胞ニ化セザル比較的幼若ナル腫瘍細胞ヲ散在性ニ認メシム。又2例（第9, 10ノ各例）ニテハ腫瘍細胞及少數ノ印環狀細胞ハ群集ニ多數集リ、諸所ニ核分割ヲ認メシム。腫瘍細胞ノ核ニハ核小體ヲ認メ得ルモノアリ。又第11例ニテハ腫瘍細胞ハ群在又ハ散在シ、其間ニ印環狀細胞モアリ。原形質ハ破壊シ核染色佳カラズ。一汎ニ印環狀細胞ニハ「リポイド」陰性ナレドモ、其或部ニテハ印環狀細胞ニモ「ズダンIII」ニテ黄赤色ニ染レル微細顆粒ヲ沈着セルモノアリ。又所ニヨリ紡錘形乃至星芒狀細胞ヲ有スル鬆粗ナル組織アリテ、斯ル部ハ van Gieson 氏法ニテハ細キ紅染纖維トシテ認メラレ、鍍銀標本ニテハ多數ニ細キ格子狀纖維及褐染纖維アリテ、或モノニハ少シク顆粒狀沈着ヲ示セリ。

「ムチカルミン染色法」ニテハ、各例共ニ印環狀細胞ニハ微細顆粒狀乃至滿狀ノ紅染物質ヲ多量ニ有スルモノ又ハ少量ニ有スルモノアリテ、殊ニ第4例ニテハ腫瘍細胞多數ニ密集シ、各細胞ハ破壊シ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ淡赤染シ、網狀ヲナセル部ニテハ本法ニヨリ瀰蔓性ニ紅染セル滴狀乃至顆粒狀ノ物質ヲ以テ充滿セラレ、部多シ。從ツテ斯ル部ハ細胞ノ境界全ク不明ナリ。

保々氏「ムチカルミン染色法」⁽⁵⁴⁾ニヨリテ、腫瘍細胞ノ周圍ニハ青染セル細キ纖維多數ニアルモ、腫瘍細胞集團部ニテハ細胞群周圍ヲ圍繞シ胞巢狀ヲナシ細胞間ニ纖維ノ侵入ヲ認メシメズ。腫瘍細胞間質ノ鬆粗ナル部ニテハ青染纖維ヲ以テ鬆粗ナル網絡ヲ營ミ、纖維自己ノ粘液變性ヲナセルモノヲ認メシメズ。

格子狀纖維

腫瘍細胞ノ胞巢狀排列ヲナセル部ニテハ、纖細ナル格子狀纖維ハ胞巢周圍ヲ圍繞セリ。其ノ他腫瘍細胞排列ノ胞巢狀ヲ明ニ示サザル部ニ在リテハ一汎ニ腫瘍組織ノ間質ハ纖細ナル格子狀纖維ヲ以テ形成セラレ、緻密ナル纖維網ヲナセル部ト鬆粗ナル纖維排列ヲ示セル部トアリ。故ニ間質中ニ飛散シ、孤在セルモノ、又ハ連珠狀ヲナシテ數個又ハ十數個ノ腫瘍細胞ノ間質中ニ侵入セル部ニテハ腫瘍細胞ハ格子狀纖維ヲ以テ個々又ハ數個圍マレタルガ如キ所見ヲ示スモノアリ。又腫瘍組織間ニハ帶褐黑染纖維ト纖細ナル格子狀纖維トヲ以テ密網ヲナシ數個ノ腫瘍細胞ヲ圍繞シ、格子狀纖維ト膠基纖維トハ漸次移行セル部多シ（第2例）。第4例（左側）ニテハ腫瘍間質ニハ一汎ニ帶褐黑染纖維多ク間ニ細キ格子狀纖維ヲ混ジテ主トシテ腫瘍細胞集團ヲ圍繞ス。又左右共ニ諸所ニ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ紡錘形、星芒狀、長圓形細胞ヲ有スル粗ナル組織中ニ所々ニ大ナル腫瘍細胞アリ。殊ニ右側ニテハ群在又ハ散在セルモノ多シ。腫瘍細胞ハ細キ格子狀纖維ト太キ褐染纖維トニテ作レル網眼中ニ存在ス。一汎ニ腫瘍間質ハ稍太キ帶褐黑染纖維ヲ以テ腫瘍細胞數個ヲ圍繞セルモ、個々ニ圍マレタルモノ無シ。而シテ管腔ヲ示セル部及細胞ノ多數密集シテ胞巢狀ヲナセル部ニテハ、周圍ハ帶褐黑染纖維ニテ圍繞セラレ、細胞間ニ纖維ヲ認メシメズ

(第5, 6, 7ノ各例). 又繊細ナル格子狀纖維及膠基纖維ト共ニ粗又ハ密ナル纖維網ヲナシテ腫瘍集團ヲ圍繞シ, 細胞個々ヲ圍繞セズ. 間質中ニ連珠狀ヲナシテ細胞柱ヲ認ムル部ニテハ周圍ニ繊細ナル格子狀纖維網アリテ, 又間質中ニ飛散セルモノアルモ, 細胞個々ヲ圍繞セルモノヲ認メシメズ.

血 管

血管ニハ各例ニヨリテ多少ノ相違アレドモ, 一汎ニ少シク擴張シ血球ヲ充セルモノモアリ, 壁又ハ内腔ニ腫瘍細胞ヲ認メシムルモノ無シ. 血管壁ニハ「リポイド」ノ沈着無ク, 鍍銀標本ニテハ繊細ナル格子狀纖維アリ(第7, 8, 9, 10ノ各例). 又4例(第2, 4, 8, 9ノ各例)ニテハ腫瘍組織間ニハ小血管及毛細血管所々ニアリテ, 或モノハ腫瘍細胞ト密接シテ存スルモノアリト雖モ, 壁内被細胞ノ増生ヲ認メシメズ. 又第6例ニテモ, 腫瘍組織間ニハ小血管及毛細血管多數ニアリ. 或血管壁ニハ腫瘍細胞多數ニ密集セルモノアルモ, 内被細胞ニ變化ヲ認メシメズ. 壁ノ格子狀纖維ハ繊細ナル網ヲナシ, 腫瘍細胞ヲ圍繞ス(第2, 4ノ各例). 第5例ニテハ腫瘍組織間ニハ毛細血管アレドモ, 一汎ニ尋常ノモノ多ク, 其壁ニ迫リテ腫瘍細胞ヲ認メシムルモノアレドモ, 内被細胞ノ増生ヲ認メシメズ. 或一部小血管壁ノ中膜肥厚シ, 黄赤色ノ「リポイド」ヲ多量ニ沈着セルモノアリ.

卵巢固有組織及其他

第1例ノ右側卵巢皮質表層ニハ單層低圓柱上皮ヲ以テ被ヘル小囊胞アリ. 内腔ニハ「エオジン」ニテ赤ク染レル物質ヲ容ル. 上皮細胞ニハ滴狀及細顆粒狀ノ「リポイド」沈着多シ. 鍍銀標本ニテハ囊胞ノ周圍ハ粗ナル帶褐黑染纖維ニテ包圍セラル. 左側卵巢ニテハ1耗及0.3耗大ノ發育濾胞アリ. 濾胞上皮ハ數層ヲナシ核分割アリ. 濾胞腔ニハ「ヘマトキシリン」-「エオジン」染色ニテ, 赤染セル物質アリ. 濾胞ノ莢膜層ハ薄キ層ヲナシ, 茲ニ小血管ヲ有ス. 莢膜細胞ニハ所々ニ核分割ヲ認メシム. 一汎ニ是等濾胞ノ莢膜層中ニハ印環狀細胞ハ無ケレドモ, 其壁ノ一部ニハ濾胞上皮ニ近キ莢膜中ニ印環狀細胞數個ヲ認メシムル部アリ. 鍍銀標本ニテ此莢膜層中ニハ分岐吻合セル繊細ナル格子狀纖維存シ, 濾胞上皮下ニテ境界纖維網ヲ營ム. 上記2個ノ濾胞ノ上皮細胞ニハ「ズダンIII」染色標本ニテ黄赤色ニ染レル微細顆粒多量ニ沈着シ, 又莢膜細胞ニハ大ナル滴狀ノ「リポイド」ノ沈着多キモ, 之ニ接セル腫瘍細胞ニハ淡黄赤色ニ染レルモノ微細顆粒狀ヲナシテ少シク沈着セルヲ認メシム. 尙第5例腫瘍組織ノ間ニハ數個ノ原始濾胞ノ存在ヲ認メシメタリ.

彈力纖維

皮質表層間質及深部ノ腫瘍細胞間ノ結締織中ニハ彈力纖維ヲ認メシメズ(第1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12ノ各例).

腫瘍中ノ血管壁ノ彈力纖維ハ全例共ニ一汎ニ繊細ナル纖維ニシテ, 規則正シク排列シ, 只1例(第1例)ノミニハ一部血管壁ノ彈力纖維ハ帶狀, 顆粒狀, 結節狀ニ膨化セルモノヲ認メシム.

考 按

1896年 Krukenberg⁽⁷³⁾ハ臨床上及組織學上ニ特有ナル卵巢腫瘍ノ存スル事ヲ記載シ, Fibrosarcoma ovarii mucocellulare(carcinomatodes)ナル名稱ヲ附シ, 所謂 Krukenberg 氏腫瘍記載ノ嚆矢ヲナセリ. 其後之ニ關スル業績ノ發表モ亦漸次多キヲ加フルニ至レル事ハ周知ノ事ニシテ, 茲ニ其主ナルモノヲ擧グレバ Sternberg(1901)⁽¹⁷⁴⁾ハ66歳ノ婦人ニ就テ, 卵巢及胃ニハ特殊ナル所見無キモ, 骨髓ノ多發性内被細胞腫ノ1例ニ就テ Krukenberg 氏腫瘍ト等シキ組織像ヲ認メ Krukenberg 氏腫瘍ハ卵巢ニ特異ナルモノニ非ズ. 其際見ラル、印環狀

ヲ示セル細胞ハ細胞ノ粘液變性ニヨリテ生ズルモノナル事ヲ記セリ。Schenk (1904)⁽¹⁸⁰⁾ハ27歳ノ婦人ニ就テ本腫瘍ノ原發性ニ兩側卵巢ニ發生シ、手術ニヨリ卵巢腫瘍組織ヲ剔出セルニ、後ニナリ胃症狀ヲ起シ遂ニ死亡シ、剖檢シタル事ヲ記載シ、Ulesko-Stroganoff (1910)⁽¹⁸¹⁾ハ30歳及49歳ノ兩婦人ニ於テ兩側卵巢ニ本腫瘍ヲ發生セル2例ニ就テ記載シ、其際原發竈ハ胃、腸ニ存在セルモノニシテ、卵巢ニ於ケル本腫瘍要素タル印環狀細胞ノ定型的ノ粘液又ハ膠樣變性ハ膠樣癌ヲ思考セシムト述ベタリ。Fischer (1910)⁽²²⁾ハKrukenberg氏腫瘍ノ2例ニ就テ檢シ、兩側共ニ胃ニハ疾患無ク、卵巢腫瘍ヲ以テ原發性ノモノナリト言ヒ、本腫瘍ヲ以テ肉腫トシテ認メタリ。Hussy (1911)⁽⁵⁵⁾ハ胃癌腫ノタメ胃切除後5年ニシテ、惡性卵巢腫瘍即チKrukenberg氏腫瘍ノ發生セル事ヲ記シ、本腫瘍轉移ハ淋巴管ヲ通りテ胃ヨリ卵巢ニ來リタルモノニシテ、卵巢轉移ハ徐々ニ來リ、比較的良性ノモノナラント言ヘリ。Outerbridge (1911)⁽¹²⁶⁾ハKrukenberg氏腫瘍ノ發生ニ就テ粘液樣變性セル纖維肉腫ヲ以テ本態トナシ、恐ラク該變性ハ間質組織及細胞(印環狀細胞)共ニ起ルモノニシテ、本腫瘍ヲ以テ、續發性ノモノナリトノ說ニ對シテハ極力反對セリ。Marton E. Hall (1913)⁽⁹⁶⁾ハ組織學的ニ卵巢ニ定型的ノKrukenberg氏腫瘍ノ像ヲ示シ、子宮頸部、腹膜及胃淋巴腺ニ轉移セル1例ニ就テ報告シ、本腫瘍ハ卵巢ヲ以テ原發竈ナリトナシ、卵巢腫瘍部ニハ印環狀細胞存シ、結締織ハ肉腫樣ヲ示セリト記セリ。

又本邦ニ於テ貴家(明治45年)⁽¹⁵⁴⁾ハ本腫瘍ノ2例ヲ得、1例ハ癌腫性ニシテ、1例ハ肉腫性ナリトナシ、本腫瘍ノ原發性ナルヤ將又續發性ナルヤニ就テハ不明ナリト言ヒ、大貫⁽¹¹⁸⁾ハ本腫瘍ノ2例ニ就テ檢シ、其1例ニハ胃噴門部ノ癌腫(扁平上皮癌及腺細胞癌)ヲ認メ、卵巢腫瘍ヲ以テ續發性ノモノナラント稱セリ。北川⁽⁶³⁾ハ43歳ノ婦人(手術例)ニ就テ胃癌ヲ伴ヘルKrukenberg氏腫瘍ノ1例ニ就テ記シ、田中⁽¹⁷⁹⁾ハ卵巢癌腫ヨリ胃轉移癌(共ニ腺細胞癌)ヲ發生シタル1例ニ就テ記シ、徳岡⁽¹⁸⁰⁾ハ本腫瘍ノ1例ヲ供覽シ、之ト胃癌トハ密接ナル關係ヲ有スル所以ヲ說ケリ。西岡⁽¹¹¹⁾ハ4例ノKrukenberg氏腫瘍ハ何レモ癌腫ニシテ、其際ニ見ル指環狀細胞ハ通常ノ癌腫細胞ヨリ粘液樣變性ニヨリテ生ジタルモノニシテ、且本腫瘍ニ敢テ獨特ノモノニ非ズト記シ、稻見⁽⁵⁶⁾ハ左右兩側卵巢ニKrukenberg氏腫瘍ヲ認メ、腫瘍細胞ノ密集セル部ノ周圍ノ結締織纖維ハ纖維性肉腫ノ像ヲ示シ、Krukenberg氏ノ報告セル如ク肉腫性變性ヲ思ハシムト言ヘリ。楠田⁽⁷⁶⁾ハ兩側卵巢ニ定型的ノKrukenberg氏腫瘍ノ發生セル1例ニ就テ記シ、増野⁽⁸⁵⁾ハ剖檢ノ結果Krukenberg氏腫瘍ノ1例ハ續發性ニシテ、直腸ニ原發セル腫瘍ガ卵巢、腹膜、大網、十二指腸ニ轉移セルモノニシテ、本腫瘍ニ特異ナリトセル膨大細胞ハ硬性癌ニ於ケル癌細胞ノ膠樣變性ニヨリテ成立セルモノニシテ、Glocknerノ言ヘル如ク所謂ク氏腫瘍特異ノモノニ非ザル可シト。

Kraus (1901)⁽⁷⁰⁾ハ胃癌及盲腸部ノ内被細胞癌、膽管癌等ノ11例ニ就テ、夫々卵巢ニ癌腫ノ轉移ヲ來シタル事ヲ報告セリ。小島⁽⁶⁴⁾ハ癌腫性ヲ示セルKrukenberg氏腫瘍ノ2例ヲ報告シ、内1例ハ35歳ノ女ニ見ラレシモノニテ、胃ノ硬性癌ヨリ卵巢ニ續發セルモノナリト記セリ。

本腫瘍ノ本態

肉腫性トナセルモノニ、Krukenberg⁽⁷³⁾ハ癌腫様性状ヲ有スル肉腫ナリトナシ、Stauder⁽¹⁷⁰⁾モ本腫瘍ヲ以テ肉腫ナリト記載セリ。又 Marton E. Hall⁽⁹⁶⁾、貴家⁽¹⁵⁴⁾、Outerbridge⁽¹²⁶⁾、Fischer⁽²²⁾等ハ既述ノ如ク肉腫性ナリトシ、Schenk⁽¹⁶⁰⁾、Ulesko-Stroganoff⁽¹⁸¹⁾、Hussy⁽⁵⁵⁾、北川⁽⁸³⁾、西岡⁽¹¹¹⁾、稻見⁽⁵⁶⁾、楠田⁽⁷⁶⁾、増野⁽⁹⁵⁾、徳岡⁽¹³⁰⁾、小島⁽⁶⁴⁾等ハ癌腫性ノモノニ歸セリ。足立⁽²⁾ハ本腫瘍ノ大部分ハ癌腫性ナリト言フ説ニ一致スルモノナリト言ヘリ。

上述ノ如ク本腫瘍ニ就テハ、Krukenbergノ記載以來多數研究者ニヨリテ種々記載セラレ或ハ癌腫性ナリト言ヒ、或ハ肉腫性ナリト稱シ、腫瘍細胞ノ本態ニ就テハ歸一スル所無キガ如シ。斯ル所以ハ蓋シ氏等ハ本腫瘍ノ検索ニ當リ齊シク細胞ノ形態學の方面ニノミ重キヲ置ケル結果ナリト思考セラル。腫瘍ニ關シテハ間質ノ方面ヨリノ觀察モ亦等閑ニ附セラレザル所ニシテ、此間ニ於ケル Bielschowsky 氏鍍銀法ノ應用モ亦價値アル鑑別法ナリト信ズ。

小島^(前出)ハ2例ノ本腫瘍中1例ハ組織像ニヨリ硬性癌ノ態度ヲ有スル腺細胞癌ト見ル可ク、胃癌腫ヨリ卵巣ニ續發性ニ腫瘍ヲ來シ、其細胞ガ退行性機轉ニヨリテ粘液變性ニ陥リ(亦一部ハ其母地細胞ノ特性ニヨリ)斯ノ如キ像ヲ呈セルモノト記セリ。足立^(前出)ハKrukenberg氏腫瘍ノ起源ニ就テ本腫瘍ノ中癌腫系統ニ屬スルモノハ殆ド轉移續發ニヨリ生成シタルモノニシテ、肉腫及内被細胞腫ニ屬スルモノニハ或ハ原發性ノモノアル可キヲ信ズト言ヘリ。Ulesko-Stroganoff^(前出)及西岡^(前出)等ハ腺管或ハ實性細胞索ハ結締織ノ増殖ニヨリテ漸次小ナル部ニ區分セラレ、遂ニ全ク腫瘍細胞ヲ個々ニ分離シテ單純遊離細胞ノ浸潤スル型ヲトルモノナリト言ヘリ。小島^(前出)ハ一方ニ於テ間質細胞ノ増殖アリテ、其部ニ増殖侵入セル腫瘍細胞ガ浸潤性ニ來ルモノトナシ、即チ腫瘍細胞ノ浸潤ノ態度ニ歸セントスト記セリ。

余ハ12例ノ本腫瘍ニ就テ、細胞學的方面ト間質纖維検索トヲ合セ考察スルニ、各例ニヨリテ多少ノ相違ハアレドモ、一汎ニ腫瘍細胞ハ間質結締織中ニ密集シ、集團ヲ作り、細胞ト細胞トハ相接シ(Zell an Zell)細胞間ニ細纖維ヲ認メシメズシテ、鍍銀標本ニテハ纖細ナル格子狀纖維ト膠基纖維トハ吻合交織シ、腫瘍集團ノ周圍ヲ圍繞シ、細胞個々ヲ圍繞セズ。又間質中ニ腫瘍細胞ハ數個又ハ十數個連珠狀・柱狀或ハ索狀ヲナシテ間質結締織中ノ所々ニ認メラル、部ニテハ、格子狀纖維ハ細胞個々ヲ圍マズシテ、其等細胞索ノ集團ヲ圍メリ。即チ腫瘍細胞ハ漸次増生發育シ、増生セル間質纖維間ニ浸潤性ニ侵入セルモノナリ。從ツテ其一部ニ於テ腫瘍細胞ハ多數増生シ、集簇セル部ニテハ周圍ハ格子狀纖維及膠基纖維ニテ圍マレ、胞巢狀ヲ示スニ至ルモノトス。而シテ鬆粗ナル間質結締織中ニ孤在セル腫瘍細胞ノ周圍ニハ夫々纖細ナル格子狀纖維在リト雖モ、斯ル腫瘍細胞ハ間質格子狀纖維ニヨリテ圍マルト看做スヨリモ、寧ろ間質纖維ノ網眼中ニ腫瘍細胞ノ浸潤セルモノト看做スヲ至當ト考ヘラル。

上述セル所ヲ綜合スルニ、余ノ檢セル Krukenberg 氏腫瘍ハ何レモ癌腫性ヲ示スモノニシテ、内1例ハ明ニ胃癌腫ヨリ轉移セルモノナリ。而シテ他ノ1例ハ手術時ニ胃幽門部ニ小硬結ヲ觸レタル例ニシテ、残り10例ハ原發ナルヤ將又續發性ナルヤハ剖檢材料ナラザルヲ以テ明ナラザレドモ、其組織像ヨリ推定シテ續發性ヲ拒ム能ハザルモノノ如シ。

指環狀細胞

Krukenberg^(前出)ハ指環狀ヲナセル細胞ハ肉腫細胞ノ粘液變性ニヨリテ來ルト言ヒ, Sternberg⁽¹⁷⁴⁾ハ骨髓ニ於ケル惡性内被細胞腫ニ就テ内被細胞ノ粘液變性ニヨリテ生ゼルモノナリト述べ, 足立⁽²⁾, 貴家⁽¹⁵⁴⁾等ハ癌細胞ノ營養障礙ニヨル粘液變性ナリトナシ, 増野⁽⁸⁵⁾ハ膨大細胞ハ硬性癌ニ於ケル癌細胞ノ膠樣變性ニヨリテ成立セルモノナリトナシ, Ulesko-Stroganoff⁽¹⁸¹⁾ハ腫瘍細胞ノ粘液又ハ膠樣變性ニヨルト記シ, 西岡⁽¹¹¹⁾ハ指環狀細胞ハ通常ノ癌細胞ヨリ粘液樣變性ニヨリ生ジタルモノニシテ, 管ニ營養障礙ニヨル退行性變化ヲ以テ説明シ去ル可キモノニ非ズ, 其細胞ノ本來有セシ粘液化ス可キ性質ニ重キヲ置カザル可カラズト言ヒ. 小島^(前出)ハ癌細胞ノ退行性變化殊ニ粘液變性ニヨリ發生セルモノニシテ, 一部ニ於テハ發生母地ノ細胞ノ形態學的及機能的承繼ニヨルモノナリト言ヘリ. 又小島^(前出)ハ其1例ニハ本細胞中ニ「ムチカルミン染色法ニヨリ紅色ニ, 保々氏粘液染色法ニテ紅色ニ染マレルヲ以テ, 粘液或ハ假性粘液ノ存在ヲ認ムルモノナリトナシ, 又「ズダン III ニヨリ胞體內ニ微細顆粒狀ヲ呈スル脂肪ノ存在ヲ認ムト記セリ. 大貫⁽¹¹⁸⁾ハ印環狀細胞中ニ脂肪ヲ證明セズト言ヘリ.

余ノ例ニテハ定型の印環狀細胞ノ原形質中ニハ「ズダン III 染色ニテ一汎ニ「リポイド」陰性ナレドモ, 殊ニ或未熟型ノ細胞ニハ微細顆粒ヲナセルモノヲ少シク又ハ多量ニ有セルモノアリ. 又「ムチカルミン染色法及保々氏粘液染色法^(前出)ニヨリ上述印環狀細胞體內ニハ細顆粒狀及滴狀ノ紅染セル物質ヲ或ハ少量ニ或ハ大量ニ含メルモノ多ク, 斯ル細胞ハ腫瘍細胞集團中ニ多數ニ群在セルモノ又ハ孤在セルモノ等各例ニヨリテ異ル. 又同ジク印環狀細胞ト雖, 各細胞ニヨリテ「ムチカルミン染色ニテ紅色ニ濃染シ, 或モノハ淡染シ, 又或モノハ不染性ノモノアリ.

上述ノ所見ヨリシテ, 本印環狀細胞ハ管ニ營養障礙ノミニ歸シ難シ. 癌細胞ノ退行性變性殊ニ粘液樣變性化ニヨリテ生ズルモノナレドモ, 同時ニ發生母地細胞其モノノ本來有セル粘液化シ易キ形態學的並ニ機能的性質繼承ヲモ考慮セザル可カラズ.

本腫瘍ノ發生母地

山極⁽¹⁹⁵⁾ニヨレバ一般ニ腫瘍原發ノ多キ臟器ニ於テハ比較的或ハ絶對的ニ轉移ヲ生ズル事無ク, 屢轉移ヲ發生スル臟器ニ於テハ腫瘍ヲ原發スル事稀ナリト言ヘリ. Gebhard⁽³⁸⁾ハ總テ原發性腫瘍ヲ發生スル素因ヲ有スル臟器ニ於テ轉移性腫瘍ヲ發生スル事ハ原則上稀ナレドモ, 卵巢ニ於テハ破格ナリト言ヒ, Kraus⁽⁷⁰⁾ハ卵巢癌ノ多クハ續發性ナリトナシ, 其理由トスル所ハ卵巢ニアリテハ他臟器ト異リ, 淋巴管ニ富ミ, 排卵機能ヲ有スル事等ガ與リテカアリト稱セリ. 小島⁽⁶⁴⁾ハ由來胃ニ於テハ續發性ニ腫瘍ノ發生スルコト甚稀ナルニ反シ, 卵巢ニハ原發性腫瘍ト等シク續發性腫瘍モ多キ事實ト兩側ニ發生セル事並ニ其組織的像ヲ合セ考フル時ハ胃が原發ニシテ, 卵巢ハ續發性ナリト看做シ得ベシト言ヘリ. 尙卵巢腫瘍ハ胃腸等ノ癌ヨリ卵巢ニ轉移セルモノトナセル者ニハ Ulesko-Stroganoff⁽¹⁸¹⁾, Hussy⁽⁵⁵⁾, 大貫⁽¹¹⁸⁾, 徳岡⁽¹⁸⁰⁾, 増野⁽⁸⁵⁾等アリ. 然レドモ本腫瘍ノ發生ヲ以テ原發性ノモノトナセル者ニ Schenk

(160), 田中⁽¹⁷³⁾, Fischer⁽²²⁾, Marton E. Hall⁽⁸⁹⁾等アリ.

余ノ檢セル12例ノ組織學的所見ト上述氏等ノ所見等ヲ合セ考察スルニ、小島^(前出)ノ言ヘル如ク卵巢ニ於テ發生セル本腫瘍ハ續發性ノモノト看做スヲ穩當トス.

藤浪⁽³⁸⁾ハ癌腫組織ハ多クハ細胞索ヲ形造リツ、周圍ノ組織中ニ進行スル事ハ人ノ汎ク知ル所ナリ. 此進行部ヲ一枚ノ標本ニテ見レバ孤在セル胞巢狀ヲ呈スレドモ、連續切片ニ就キ之ヲ察スレバ殆ド皆相連續シ、其孤在島嶼狀ヲナス者モ其實ハ概ネ細胞索ノ相連續セル者ナルヲ確ム可シト言ヘリ.

池松⁽⁵⁸⁾ハ2例ノ胃腸部ニ發生セル惡性腫瘍ノ發育中ニ於ケル組織形態ノ變化ニ就テ記シ、第1例ニテハ腫瘍初發部組織ニテハ一見内被細胞腫ノ觀ヲ呈シ、又續發の部位及轉移ノ一部組織ニ於テハ(中略)肉腫様ヲ呈セリ. 然レドモ腫瘍細胞ト間質纖維トノ關係ガ普通肉腫ニ見ル如ク極メテ親密ナリト言フ事能ハザル事及淋巴腺轉移組織ニヨリテ證認セシ如ク、本腫瘍細胞ハ元來殆ド間質ヲ有セザル上皮性細胞ヨリ發生セル癌腫ナル事ヲ知レリ. 第2例ハ小圓形細胞肉腫ノ像ヲ呈シ、唯一部ニ於テ不完全ナル胞巢狀ヲナスト雖、腫瘍細胞ト纖維締結トノ關係親密ニシテ、多クハ腫瘍細胞個々が格子狀纖維ヨリ包擁セラレテ、純然タル癌腫ト診斷スルニ足ラズト稱シ、特ニ細胞ト纖維トノ關係ニ就テ注意セリ. 中村⁽¹⁰⁸⁾ハ腫瘍細胞ノ排列狀態ヲ論ジテ曰ク、淋巴腺ニ於ケル殊ニ其周邊部淋巴竇ニテ轉移竈ノ一定部又胃ノ一定部位ニテ適當ノ位置即チ胞巢ヲ作ルニ足ル間隙ヲ有スル處ニ置カル、時ハ、ヨク胞巢狀ヲ示シテ上皮細胞性腫瘍ニ特殊ナル排列ヲ取ル性質アルニ拘ラズ、胃ノ粘膜下ノ如キニ於テハ多クノ所ニ瀰蔓性狀態ヲ示スモノナリト言ヒ、又小兒ニ發生セル肝臟原發癌ノ記載⁽¹⁰⁷⁾中腫瘍細胞ハ細胞索ヲ作リテ、之ヲ界スルモノハ毛細管ニシテ、而モ其細胞自己ハ其原形質ノ狀及細胞排列ノ狀肝細胞索ニ(不規則ニシテ迂曲セルトモ)多少似タル形ヲ呈スル事ハ其腫瘍細胞ガ發生原地ノ細胞ノ特性ヲ顯ハセルモノニシテ、本例ニアリテ、之ガ發生地ヲ肝臟實質細胞ナリト斷定シテ不可ナルベシト言ヘリ. 池松^(前出)ハ淋巴竇ニ於テ轉移細胞ガ偶胞巢狀ヲ形成スル所以ハ腫瘍細胞ガ自家固有ノ形成性能ヲ全ク失ハザルニ由ルコト勿論ナレドモ、茲ニハ又内被細胞ガ其腔壁ヲ被覆スルガ故ニ結締組織纖維ガ腫瘍組織内ニ向ツテ新生スルコト他ノ組織ニ於ケルガ如ク然カク容易ナラズ、轉移腫瘍組織ソノモノハ臟器ノ構造ヲ模倣スル性能ヲ有スト言ヘリ.

余ガ卵巢ニ於ケル Krukenberg 氏腫瘍ニ就テ檢セル所ト他ノ卵巢肉腫及癌腫トヲ總合觀察スルニ、本腫瘍ハ上述セル如ク卵巢ニ原發セル特殊腫瘍ニ非ズシテ、容易ニ膠様癌ヲ原發シ得ル如キ消化器系統ノ癌腫ヨリ續發性ニ卵巢ニ來リタルモノナリト信ズ.

本腫瘍ハ其多クノ部位ニ印環狀細胞ヲ伴ヘル胞巢狀構造ヲ示シ、稀ニ部位ニヨリテハ、其一部ニ腫瘍細胞ト纖維物質トハ多少密接ナル關係ヲ有シ、一見肉腫様ヲ示セルモノアルハ卵巢ノ如キ纖維物質ニ富メルモノニアリテハ、癌細胞ハ其増生セル間質結締組織間ニ細胞索ヲ形成シツ、周圍ニ浸潤性ニ進行スルガ故ニ、其横斷セラレタルガ如キ場合ニアリテハ、個々ノ腫瘍細胞間ニハ細キ纖維物質ヲ認メ得ラルル理ナリ. 然レドモ之ヲ精査スレバ、間質中ニ散

在スル小群ヲナセル腫瘍細胞ノ多クハ數個相集リ胞巢狀ヲナシ、腫瘍細胞群周圍ハ細キ黒染纖維ニテ圍繞セララル、ヲ見ル。

中村⁽¹⁰⁸⁾ハ上皮細胞ニシテ而モ排列瀰蔓性トナリ且間質ト親密ノ關係ヲ現シ、以テ肉腫様像ヲ呈スルニ至ル可キ理由ハ腫瘍細胞自己ト結締織間質ノ狀態トニ求メザル可カラズ。即チ斯ル肉腫様ノ組織像ヲ現ハスニハモトヨリ腫瘍細胞自己ノ増殖機能ノ盛ニシテ、一部細胞ノ分化ノ度低ク、圓形又ハ類圓形ヲ示ス事ガ(中略)一必要事ナリ。之ト同時ニ一方ニ於テ間質ノ關係(胞巢ヲナスニ適スルヤ否ヤノ關係)モ亦必要ナリト言ヘリ。

腫瘍細胞ト間質トノ關係ハ腫瘍其モノノ從來有スル性質ニ據リテ、各特異ナル像ヲ示スモノナリトセラレドモ、卵巢癌腫殊ニ轉移癌タル Krukenberg 氏腫瘍ニアリテハ同一組織ニ於テモ、尙一部ニ癌腫細胞ト纖維物質トノ關係密接セルヲ思ハシメ、一見肉腫様像ヲ呈スル部モアリ。斯ル部ハ腫瘍細胞自己ノ増殖旺盛ニシテ、而モ卵巢ニハ元來饒多ノ纖維物質ヲ有スルガ爲、癌腫細胞ハ纖維ノ間隙ニ浸潤侵入シ、増殖ヲ開始スルニ至ルモノニシテ、其成熟セルモノハ本腫瘍ニ特異ナル發生母細胞ノ機能繼承ニ基キテ粘液様變性ヲ示スモノナリ。

Papăioannou⁽¹²⁷⁾ハ小ナル卵巢腫瘍ノ際ニ於テモ場合ニヨリテハ腸切除ヲ要スル事アリ。從ツテ腔式手術ハ腹腔臟器殊ニ胃及腸管ヲ同時ニ腫瘍ノ原發竈ヲ檢索スルニ向ツテ十分ナラズト言ヘリ。Strickel(1906)⁽¹⁷⁷⁾ハ卵巢轉移癌ニ就テ記載シ、婦人科醫及手術者ニ對シテ乳腺・胃・膽囊又ハ腸ノ原發癌ノ際ニハ陰部持ニ卵巢ヲ檢査ス可ク、又兩側卵巢ニ癌ノ疑ノ存スル際ハ他臟器ニ於ケル其原發癌ヲ究メザル可カラズト言ヘリ。Schlagenhauser(1902)⁽¹⁸¹⁾ハ自家實驗ニヨル種々ナル年齡ニ於ケル續發性卵巢癌腫ト文獻ニヨル多數報告者ノ記載トニヨリ結論シテ曰ク、多クノ實性惡性腫瘍ノ大半ハ癌腫ニシテ、而モ轉移癌ノモノナリ。若シ乳腺、子宮及腔ガ除外シ得ラルレバ、原發性腫瘍トシテハ先ヅ胃、腸及膽道ノ癌ナリ。而シテ兩側實性卵巢癌ノ際ニハ常ニ腹腔臟器殊ニ胃ヲ充分ニ檢査セザル可カラズト言ヘリ。

故ニ臨床ト Krukenberg 氏腫瘍ノ治療ニ當リテハ、上述セル如ク本腫瘍ノ續發性轉移癌ナルベキニ鑑ミ、開腹手術ニヨリ卵巢腫瘍別出ハ勿論其際同時ニ他臟器殊ニ胃腸管ノ原發竈ノ切除ヲモ行ハザレバ完全ナル治療法ト稱スルヲ得ズ。

本節ニ於ケル總括

1. 余ノ檢セシ12例ノ Krukenberg 氏腫瘍ハ何レモ癌腫性ニシテ、本腫瘍ニ特異ナル組織像ヲ示セルモノナリ。而シテ内1例ニハ胃ノ硬性癌ヨリ卵巢ニ轉移續發セルモノナルヲ認メ得タリ。

2. 本腫瘍ノ卵巢内増殖ハ主トシテ淋巴道ヲ以テシ、一部ハ組織内侵蝕性並ニ浸潤性ニ周圍組織ニ向ツテ波及増生スル態度ヲ示セリ。

3. 本腫瘍ニアリテハ腫瘍細胞ヲ以テ胞巢狀ヲナセル部ニハ纖細ナル格子狀纖維及細キ膠基纖維ヲ以テ周圍ヲ圍繞シ、細胞間ニ纖維ノ侵入ヲ認メシメズ。間質結締織組織間ニ腫瘍細胞ノ連珠狀又ハ柱狀ヲナシテ浸潤性ニ増生ヲ示セル部ニテハ、細胞索周圍ニハ細キ黒染纖維アレドモ、細胞個々ヲ圍繞セルモノハ無シ。

4. 本腫瘍ノ間質結締織間ニハ彈力纖維ヲ認メシメズ。
5. 印環狀細胞形成ハ管ニ腫瘍細胞ノ營養障礙ノミニハ歸シ難シ。癌細胞ノ退行變性殊ニ粘液變性化ニヨリテ生ズルモノナレドモ、發生母地細胞ソノモノノ形態學的並ニ機能的性質繼承ヲモ思考シ得ラル。
6. 本腫瘍ノ治療ニ當リテハ本腫瘍ノ續發性轉移性癌ナルベキニ鑑ミ、開腹手術ニヨリ卵巢腫瘍剔出ハ勿論其際他臟器殊ニ胃・腸管ヲ検査シ、原發竈ヲモ治療セザル可カラズ。

第三節 癌 腫

肉眼的所見

検査 番號	組織的診斷	大サ(櫃)及性状
1	卵巢實性癌腫	大人頭大, 表面平滑, 剖面質實ニシテ, 帶黃白色ヲ示セリ。
2	兩側囊腫性乳嘴性癌腫	左側卵巢2.5-1.8-1.6, 剖面, 大小ノ囊胞4個アリ。 右側卵巢2倍大人頭大, 剖面 多數ノ小囊胞ヲ有シ, 内ニ粘液様稀薄ノ液ヲ容ル。
3	腺細胞癌腫	過大人頭大, 剖面 質實ニシテ, 淡黃色ヲ示セリ。
4	兩側卵巢惡性腺腫	兩側卵巢共ニ小兒頭大ノ多房性囊腫ニシテ, 間質組織多シ。
5	腺 癌 腫	過兒頭大, 橢圓形, 表面滑澤, 剖面 質實ニシテ, 極メテ小ナル囊胞ヲ認ムル部アリ。
6	實 性 癌 腫	成人腎臟大, 表面平滑, 剖面, 淡紅色ニシテ, 質實ナリ。
7	腺 癌 腫	左側卵巢約手拳大, 多房性囊腫ニシテ, 表面平滑ナリ。内ニ稀薄ノ液ヲ容ル。右側卵巢約手拳大, 同上。
8	實性髓様癌腫	大人頭大, 表面平滑, 剖面 質實ニシテ, 白色肉様ヲ呈ス。
9	癌 腫	兩側卵巢小兒頭大, 剖面 質實ニシテ部位ニヨリ小囊胞ヲ所々ニ認メシム。
10	腺 癌 腫	一側卵巢ハ鵝卵大, 表面ハ少シク凹凸不平, 剖面 質實ニシテ, 硬度稍軟。
11	冠乳嘴性囊癌腫	兩側卵巢共ニ大人頭大, 表面平滑ナレドモ, 剖面 質脆ク, 纖維様被膜ニテ包マル。

顯微鏡的所見

第1例ニテハ諸所ニ「ヘマトキシリン」-「エオジン」染色ニテ, 核染色良好ナル癌腫細胞互ニ密邇トシテ列ビ, 且ツ細胞ハ大小種々ニシテ, 核分割像ヲ示セルモノアリ。又細胞ハ變性シ, 膨大シ「エオジン」ニヨリ滿蔓性ニ赤ク染リ, 核染色無キモノ及原形質中ニハ大小ノ空胞ヲ認メシムルモノ等種々ナル像ヲ示ス。一汎ニ腫瘍細胞ハ群ニシ胞集ヲ作り, 周圍ニハ核ニ乏シキ結締織アリ。「ズダンIII」染色標本ニテハ核分割ヲ示セルモノ, 核染色佳良ナルモノニテハ「リボイド」沈着殆ド陰性ナレドモ, 染色不良ノモノニテハ多量ニ黃赤色ニ染レル「リボイド」ヲ沈着セリ。其他ノ部ノ組織ニテハ全ク核染色惡ク, 「エオジン」ニ一様ニ顆粒狀ニ赤染シ, 細胞ノ原形ヲ留メシメズ。斯ル部ニテハ「リボイド」ハ顆粒狀ヲナシ滿蔓性ニ沈着ス。第2例ニテハ兩側卵巢共ニ圓柱上皮ヲ以テ被覆セル小ナル囊腫性乳嘴性腫瘍ニシテ上皮細胞ノ核ハ基部ニ存

ス。細胞ノ大サ不同ニシテ核分割ヲ示セルモノ多數ニアリ。斯ル囊胞間ノ間質結締織ハ比較的少ク、此部ニ存スル血管ノ管腔ハ稍廣ク血球ヲ充セルモノアリ。「ズダン III 染色標本ニテハ一汎ニ上皮細胞ニハ微細顆粒狀ノ「リボイド」ノ沈着ヲ認メシムルモ、其或モノニハ主トシテ細胞ノ基底部分ニ多キモノアリ。核分割ヲ示セルモノニモ、「リボイド」ノ顆粒狀沈着ヲ僅ニ認メシムルモノアリ。「ニールブラウ・スルファート」ニテハ青染シ、單屈折性ナリ。第 3 例ニテハ卵巣皮質表層ニハ核ニ乏シキ結締織纖維（鍍銀標本ニテ褐染纖維）ニシテ、深部ニテハ數層乃至數十層ニ重疊セル腺細胞ヲ以テ被覆セラレタル僅ニ腺樣腔ヲ認メシムル癌組織アリ。而シテ其或モノニテハ細胞ノ增生ノタメ管腔認メラレズ實質性癌ノ像ヲ示セルモノアリ。又内層ノ細胞ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ核染色惡ク、「エオジン」ニ赤ク顆粒狀ニ染リ細胞ノ構造不明ノモノアリ。又内腔ニ白血球集積アルアリ。細胞ハ一汎ニ圓形又ハ橢圓形ノ核ヲ有シ「クロマチン」少クシテ、核小體ハ明ナリ。所々ニ核分割像ヲ認メシム。又間質結締織中ニ癌細胞ノ侵入シ、增生セルモノアリ。斯ル細胞ハ比較的「クロマチン」ニ富ミ、核及原形質共ニ大ナリ。「ズダン III 染色標本ニテ核染色佳良ノ癌細胞ニハ「リボイド」沈着多クハ陰性ナレドモ、染色惡キ細胞及管腔内ニ脱落セル細胞等ニハ黄赤色ニ染レル「リボイド」多量ニ沈着セリ。間質結締織ニハ「リボイド」ノ全ク無キ部ト、多量ニ沈着セル部トアリ。第 4 例ニテハ兩側卵巢共ニ單層ノ圓柱上皮ヲ以テ被覆セル小ナル囊腫性乳嚙性囊胞ニシテ、其上皮細胞ハ圓形又ハ橢圓形ノ大ナル核ヲ有シ、原形質ニ富メリ。所々ニ核分割ヲ認メシム。小ナル管腔ニハ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ同質性ニ赤染セル物質ヲ容ル。其他所々ニ核染色惡ク、「エオジン」ニ顆粒狀ニ赤染セル部アリ。表層間質中ニ腫瘍細胞ノ侵入セル部モアリ。「リボイド」ハ一汎ニ無ク、核染色惡キ部及管腔内ニ變性脱落セル細胞ニハ多量ノ「リボイド」ハ顆粒狀ニ沈着ス。殊ニ間質結締織中多量ノ「リボイド」ノ沈着セル部ニハ囊胞上皮中ニモ微細赤色ニ染リ顆粒狀ヲ呈セルモノ沈着セリ。第 5 例ニテハ癌腫細胞ハ間質結締織中ニテ不定型性ノ種々ナル細胞集ヲ示ス、即チ或モノハ小ナル腺樣構造ヲ示シ、壁ノ癌細胞ニハ核分割ヲ認メシメ内腔ニハ「エオジン」ニテ赤染セル無構造ノ物質及變性脱落細胞ヲ容ル。又或部ノ間質結締織中ニハ癌細胞ハ數個又ハ 10 數個連珠狀又ハ柱狀ニ排列シ、種々ナル方向ニ侵入シ、此等細胞素ヲ以テ近隣ノ腺樣ヲナセルモノト連レルアリ。又諸所ニ癌細胞ノ或モノハ原形質中ニ大小ノ空胞ヲ有シ、透明ニ見ユルモノアリ。甚シク大ナル核ヲ有シ、原形質ニ富メルモノ或ハ少キ小細胞トシテ認メラル。其等癌細胞ハ一汎ニ佳染セルモ、其間ニ原形質ノ「エオジン」ニ赤染シ、核萎縮ヲ示セル細胞ヲモ認メシム。癌細胞巢間ニハ多數ニ結締織アリテ、茲ニハ血球ヲ充セル小血管所々ニアリ。van Gieson 氏法ニテ腫瘍卵巣ノ表層ニハ核ニ乏シキ太キ紅染纖維多ク、又癌腫細胞群間ニハ紅染セル太キ結締織纖維ハ或ハ多ク或ハ極メテ少シ。第 6 例ニアリテハ癌腫細胞ハ大小不同ニシテ、圓形乃至橢圓形ノ核ヲ有シ、原形質ニ富ミ、互ニ密邇トシテ排列シ、核分割多數ニ認メラル。細胞ハ間質結締織中ニ數個弧在セルモノアレドモ、多クハ群在シ、中心部ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ核染色惡ク、細胞ハ赤染シテ塊狀ヲ成セルモノアリ。間質中ニハ又癌細胞素ヲ以テ近隣ノ癌細胞巢ニ連レルモノアリ。癌細胞巢間ノ核ニ乏シキ間質結締織中ニハ滴狀又ハ微細顆粒狀ノ「リボイド」沈着ス。小ナル血管所々ニアリ。第 7 例(右)ニテハ卵巣表層ニハ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ核ニ乏シク、膨化シ硬固ナル結締織纖維アリテ、其下部ニハ核染色弱ク、核小體著明ナル圓形乃至橢圓形ノ核ヲ有スル上皮細胞ノ被覆アル小囊胞多數ニアリ。斯ル囊胞ハ群在性ニ集リ、周圍ハ結締織ニテ圍繞セラレ。上皮細胞ハ大小種々ニシテ、所々ニ核分割ヲ認メシム。原形質ハ比較的少ク透明ナルモ、間ニ 2 乃至 4 個ノ大ナル核ヲ有スル大ナル癌細胞アリ。間質結締織ハ「エオジン」ニ無構造ニ赤染シ一汎ニ硝子樣ヲ呈セリ。

第8例ニテハ大ナル圓形乃至橢圓形ノ核ヲ有スル癌細胞ハ間質結締織中ニ群在又ハ孤在セリ、所々ニ核分割認メラレ、2乃至3個ノ核ヲ有スル細胞モアリ、間質ノ結締織ハ核ニ乏シク「ヘマトキシリン」-「エオジン」染色ニテ赤染シ、太ク膨化セルモノアリテ、癌細胞集ヲ圍繞シ、部位ニヨリテハ細胞群ヲ小區劃ニ分離セル部アリ。「ズダンIII染色標本ニテハ一汎ニ核染色佳キ部ニハ「リポイド」沈着無キモ、染色悪キ部ニテハ癌細胞及結締織中ニ多數ニ「リポイド」顆粒沈着セリ。左側ニ在リテハ灰白色汚穢ナル物質ヲ容レル一囊胞ニハ「ヘマトキシリン」-「エオジン」染色ニテ精査スレバ、内壁ノ一部ニ大小ノ核染色悪キ上皮細胞ヲ認メ得。周圍ノ間質ニハ單核細胞、組織球細胞ノ散在セルヲ認メシム。血管ノ小ナルモノ少シクアリ。

第9例ニテハ左右共一汎ニ大サ略同大ナル小圓形ノ核ヲ有スル癌細胞ナルモ、或モノハ橢圓形、長圓形ニシテ大ナリ。細胞群周圍ハ結締織纖維ニテ圍繞セラル。一部癌細胞ハ連珠狀又ハ柱狀ヲナシ、多數ニ間質中ニ侵入セルモノアリ。其等腫瘍細胞ノ密集セル部ニテハ内方ノ細胞ハ變性消失シ、小管腔ヲ作レルモノアリ。癌腫細胞ニハ一汎ニ多數ノ核分割像ヲ認メシム。癌細胞間ノ結締織中ニハ所々ニ小血管存ス。「ズダンIII染色標本ニテ檢スルニ核染色佳キ部ニテハ、一般ニ「リポイド」陰性ナルモ核染色悪キ部ニテハ微細顆粒狀ヲナセル「リポイド」沈着ス。「ニールブラウ・スルフェート」ニテハ帶紫青色ヲ示シ僅ニ重屈折性ヲ有ス。第10例ニテハ囊腫性ヲ示シ、一部皺襞ヲ作リテ圓柱上皮ニ被覆セラレ上皮細胞ハ圓形又ハ長橢圓形ノ核ヲ有シ數層ヲ示シ、核分割多數ニ認メラル。表層ニ存スル囊胞性腫瘍胞巢ノ周圍ニハ内英膜細胞様ノ細胞層アリテ「リポイド」ヲ多量ニ沈着セルモ、上皮細胞ニハ陰性ナリ。腫瘍細胞間ノ結締織ハ「エオジン」ニ淡赤染シ、膨化シ硝子様變性ヲ示セリ。尙深部ニテハ多數腫瘍細胞ノ密集シ、胞巢ヲ作レル部ニハ間質結締織ハ胞巢狀ヲナセル癌細胞ノ周圍ヲ包圍ス。「ズダンIII染色標本ニテハ核染色稍弱キモノニハ黃赤色ニ染メル極メテ微細ナル顆粒ヲ僅ニ認メシム。腫瘍間ノ膨大セル結締織纖維ニハ微細顆粒多量ニ沈着セリ。第11例ニテハ左右兩側共ニ小ナル乳嚙性囊腫性ノ無數ノ囊胞アリテ其内壁ハ圓柱上皮ヲ以テ被覆セラル。「クロマチン」ニ富ミ、圓形乃至橢圓形ノ種々ナル大サノ核ヲ有スル細胞ハ互ニ接シテ密集シ部位ニヨリテハ内腔ヲ充セルモノアリ。核分割多數ニ認メラル。又其等腔内ニハ核染色悪キ變性細胞ヲ以テ充サレタルモノアリ。間質結締織纖維ハ「エオジン」ニ淡赤染シ、核ニ乏シク、多クハ硝子様變性ヲ示シ無構造ヲ呈シ、膨化セルモノアリ。殊ニ左側ニテハ數個ノ核ヲ有スル大ナル癌細胞ノ認メラル部アリ。

第11例ハ「ズダンIII染色標本ニテハ核染色佳ク、又核分割像ヲ示セルモノニハ「リポイド」沈着無キモ、染色悪ク變性セル細胞ニハ黃赤色ニ染レル「リポイド」多量ニ沈着セリ。

格子狀纖維

第1例ニテハ胞巢ヲ作レル癌細胞巢ノ周圍間質中ニハ太キ褐染乃至帶褐黑染纖維アリ。癌細胞間ニハ纖維ヲ認メシメズ。「ヘマトキシリン」-「エオジン」染色ニテ、核染色悪キ部ニテハ纖維ハ太ク顆粒狀沈着ヲ示セルモノヲ僅ニ認メシム。第2例(右側)ニテハ間質ハ纖細ナル黑染纖維ヲ以テ粗又ハ密ナル網ヲナシ、上皮ノ基底ニ接スト雖モ、上皮細胞間ニハ纖維ノ侵入存在ヲ認メシメズ。又間質結締織ノ多キ部ニテハ一汎ニ波狀ヲ示セル黑染纖維トシテ認メラル、モ部位ニヨリテハ少シク褐ヲ帶ブルモノヲ混ズ。第3例ニテハ腺樣癌ノ周圍ハ一汎ニ太キ褐染乃至帶褐黑染纖維ニテ圍繞セラル。纖維ハ一汎ニ顆粒狀沈着ヲ示シ、膨化セリ。第4例ニテハ卵巢表層ニアリテハ波狀ヲ示セル太キ褐染乃至帶褐黑染纖維ヲナシ、此部ニ連珠狀又ハ柱狀ニ腫瘍細胞ノ侵入セル所ニテハ、細纖維ヲ以テ其等細胞集團ヲ圍繞ス。2例(第5、6例)ニアリテハ卵巢皮質表層ニハ褐染纖維ヲ認メシム。癌腫細胞群間ニハ細キ褐染乃至帶褐黑染セル纖維アリテ、細胞巢ヲ圍繞セルモ、腫瘍細胞個々ノ間ニハ認メシメズ。又結締織中ニ癌腫細胞ノ侵入セル部ニテモ、纖

維ハ腫瘍細胞數個ヲ圍ミ, 癌腫細胞ノ纖維間ニ侵入セルモノナリ. 第7例ニテハ(左右兩側)纖維ハ褐染又ハ帶褐黒染シ, 膨化シ, 顆粒狀沈着ヲ示セリ. 第8例(左側)ニテハ表層ニハ顆粒狀沈着ヲ示セル太キ帶褐黒染纖維アリ. 腫瘍細胞間ニハ太キ褐染纖維アリテ, 格子狀纖維ハ僅少ナリ. 間質結締織中ニ癌細胞ノ侵入セル部ニテハ, 周圍ニハ細キ黒染纖維アレドモ細胞個々ヲ圍繞セズ. 第9例ニテハ癌細胞ノ胞巢狀ニ密集セル部ニテハ, 周圍ニハ細キ褐染乃至帶褐黒染纖維ヲ以テ圍繞セルモ, 其ヨリ細胞間ニ纖維ノ侵入シ, 存在セルモノ無シ. 又間質中ニ數個又ハ多數ニ癌腫細胞ノ存在セル部ニテハ, 癌細胞ハ個々ニ圍繞セラルルモノ無クシテ, 多數集簇ノマ、圍繞サル. 第10例ニテハ腫瘍ヲ形成セル部ノ間質ニハ黒染シ顆粒狀ヲ示セル膨大纖維アリテ, 腫瘍細胞ノ基底ニ接シテ存スルモ, 其ヨリ癌細胞間ニ侵入セルモノハ認めラレズ. 卵巢深部ニテモ纖維ハ膨大シ, 顆粒狀沈着ヲ示ス. 第11例ニテハ間質結締織纖維ハ褐染シ, 顆粒狀ニ黒染シ, 表層ニテハ太ク, 深部囊胞間ノ間質ニアリテハ細キモノアレドモ, 腫瘍上皮細胞間ニハ纖維ヲ認めシメズ.

卵巢固有組織

9例ニテハ卵巢ハ殆ド全ク腫瘍組織ニテ占メラレ, 固有組織ヲ認めシメズ(第1, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 11ノ各例). 只第2例ノ癌腫變性ヲ示サル左側卵巢ニアリテハ原始濾胞, 發育濾胞, 白體及數個ノ第3期乃至第4期ノ退化黃體ヲ認めシム. 第10例ニテハ腫瘍卵巢ノ皮質表層ニ胚上皮細胞ヲ少シク附着セル部アレドモ, 其他ノ例ニアリテハ全ク認めル事ヲ得ズ.

彈力纖維

2例(第4, 7ノ各例)ニテハ皮質表層及間質結締織中ニハ彈力纖維ヲ認めシメズ. 然レドモ3例(第7, 9, 11ノ各例)ニテハ一部ニ腫瘍細胞以外ノ間質皮質表層結締織中ニハ纖細ナル彈力纖維ヲ少シク認めシムルモノアリ. 一況ニ各例共ニ腫瘍細胞間ノ結締織中ノ血管壁ノ彈力纖維ハ纖細ナル纖維ヲ以テ圍繞セラレ, 尋常ナル構造ヲ認めシムレドモ第9例ニテハ腫瘍間質結締織中ノ血管壁彈力纖維ハ不規則ニ肥厚變性セル事高度ナリ.

考 按

全卵巢腫瘍ニ於ケル卵巢癌腫ノ100分率ニ就テ, Stauder⁽¹⁷⁰⁾ハ13.56%, Leopold⁽⁸⁴⁾ハ21.8%, Martin⁽⁹³⁾ハ13.5%, Lippert⁽⁸⁶⁾ハ10.66%, Schauta-Herzfeld⁽¹⁵⁹⁾ハ14.5%ナリト言ヘリ.

Voigt(1903)⁽¹⁸⁴⁾ハ卵巢ノ濾胞樣癌腫ニ就テ記シ, Ulesko-Stroganowa⁽¹⁸²⁾ハ良性又ハ惡性ノ上皮性卵巢腫瘤ハ胎生期管(Granulosastränge Waltherdts)ノ上皮ノ遺殘物ヨリ生ジ得ルモノニシテ, 氏ハ此上皮ヨリ發生セル腫瘤ヲ分チテ次ノ如クナセリ.

甲. 良性腫瘍

イ. 兩側卵巢ノ小囊胞變性

ロ. 兩側卵巢上皮ニ於ケル乳嘴腫

乙. 惡性腫瘍

癌腫性卵巢濾胞上皮腫(Folliculoma ovarii carcinomatodes)又Kworostansky(1899)⁽⁷⁷⁾ハ上皮性卵巢腫瘍及畸形腫ノ原因ニ就テ記シ. Olshausen⁽¹¹⁵⁾ハ一側卵巢囊腫剔出後ニ惡性癌腫ノ發生セル事ヲ報告セリ. Fleischlen(1881)⁽²⁴⁾ハ卵巢囊腫ノ乳嘴性ヲナシ, 高度ニ癌變性ヲ來セルモノニ, 多量ニ砂粒ヲ形成セル卵巢砂腫性癌(Psammo-carcinom des Ovarium)

ニ就テ記セリ。Neumann⁽¹⁰⁹⁾ハ15歳及16歳ノ處女ニテ大細胞性實性癌ニ就テ記セリ。

腫瘍内ノ格子狀纖維ニ就テ、松田⁽⁹⁸⁾ハ腎臟ノ腺腫性癌腫ノ1例ニ就テ本腫瘍ニ於テモ(中略)腫瘍組織ニ腺管狀ヲ呈スルモノ、間質ハ格子狀纖維ヨリ成ルモノナリト言ヒ、久留⁽⁷⁴⁾ハ上皮性腫瘍中ノ格子狀纖維ハ肉腫ニ於ケルモノトハ異リ、即チ肉腫ニ於ケルガ如ク各細胞間ニハ纖細ナル纖維ニ似タルモノハ全く認メ得ラズ。癌腫ノ淋巴腺、肝及肺等ニ轉移セル際ニハ癌細胞間ニハ決シテ格子狀纖維ヲ有セズト言ヘリ。如斯卵巢癌腫ニ就テハ多數研究者ニヨリ報告セラレタルモノアリト雖、其際間質組織殊ニ格子狀纖維ニ就テハ詳細ニ記セルモノ無キヲ以テ、余ハ特ニ此點ニ就テ研究ノ歩ヲ進メタリ。即チ上述セル所ヲ總括スルニ腺腫、惡性腺腫、冠乳嚢性囊癌腫等ノ如キ所謂管腔ヲ形成セルモノニアリテハ、癌細胞ヲ以テ作ラレタル是等管腔ノ基底ヲナセル間質ニハ鍍銀標本ニテ主トシテ褐染又ハ帶褐黑染セル太キ纖維(膠基纖維)ノミヨリナリ、格子狀纖維ノ混在ヲ認メシメズ。纖維ハ上皮細胞基底部ニ接シ腺管ヲ輪狀ニ圍繞シ、其ヨリ癌細胞即チ上皮細胞間ニハ決シテ纖維ノ侵入セルモノヲ認メシメズ。又實性癌腫ニ在リテハ癌細胞ノ胞巢ヲ形成セル部ニハ、其細胞巢周圍ハ太キ褐染乃至帶褐黑染纖維ニテ圍繞セラル。其ヨリ纖維ガ胞巢内細胞間ニ存在セルモノヲ認メシメズ。間質結締織間ニ癌細胞ノ數個侵入セルモノニ在リテハ、周圍ニ存スル細キ纖維ニテ纏絡セラレタルガ如キモ、細胞個々圍繞セラレタルモノハ無シ。即チ此關係ハ纖維ノ癌細胞間ニ侵入スルニ非ズシテ、却ツテ癌細胞ノ間質膠基纖維及格子狀纖維間ニ侵襲シテ此像ヲ示セルモノナリ。

本節ニ於ケル總括

1. 冠乳嚢性囊癌腫、腺癌腫、惡性腺腫等ノ卵巢癌腫ニアリテハ、夫々多少纖維ノ排列ヲ異ニスルモ、一般ニ管腔ノ基底ヲナセル癌細胞ニ接セル腺管周圍間質中ニハ太キ褐染乃至帶褐黑染纖維アリテ格子狀纖維無ク、其ヨリ纖維ノ癌細胞間ニ侵入セルモノヲ認メシメズ。
2. 實性癌腫ニ在リテハ癌細胞ノ胞巢ヲ形成セル部ニハ太キ褐染乃至帶褐黑染纖維ヲ以テ周圍ヲ圍繞シ、纖維ハ多クノ例ニ於テ一般ニ膨化變性シ、顆粒狀沈着ヲ示セリ。
3. 一般ニ癌細胞ノ存スル間質結締織中ニハ彈力纖維ヲ認メシメズ。

第四節 肉 腫

肉 眼 的 所 見

検査番號	組織的診断	大サ及性状(年齢)
1	小圓形細胞肉腫	約2倍手拳大、長圓形ニシテ表面平滑。剖面 質實ニシテ肉様ヲ呈シ、硬度軟ナリ。
2	同 上	約1倍半手拳大、橢圓形、表面平滑。剖面 質實ニシテ、硬度軟。
3	纖維肉腫	大人頭大、表面滑澤、剖面 質實ニシテ、纖維様ヲ示シ、淡紅灰白色ニシテ、硬度軟ナリ。
4	同 上	大人頭大、表面平滑、剖面 質實ニシテ、灰白色ヲ呈ス。纖維様ヲ帶ビ硬度稍軟ナリ。

5	大圓形細胞肉腫	左側卵巣ハ小兒頭大, 表面平滑, 剖面 質實ニシテ, 硬度軟. (20歳)
6	同 上	左側卵巣ハ胎兒頭大, 表面凹凸不平. 剖面 質實ニシテ白色ヲ呈シ, 所所ニ暗赤色ノ小斑ヲ認メシム. 右側卵巣 (3.5-1.5-1.0 種)ニハ 1.2 種大ノ黃體ト 4 種大ノ囊胞 1 個アリ. (37歳)
7	同 上	右側卵巣ハ大人頭大, 橢圓形ノ腫瘤ニシテ, 左側卵巣ハ小兒手拳大ナリ. 剖面 兩側共ニ質實ニシテ, 硬度軟, 色淡紅色ヲ示ス. (17歳)
8	同 上	1 側卵巣ハ 2 倍大人頭大ノ橢圓形ノ腫瘤ニシテ, 表面滑澤ナリ. 剖面 質實ニシテ淡紅色ヲ示シ, 硬度軟ナリ. (年齢不明)
9	紡錘形細胞肉腫	2 倍人頭大, 表面平滑, 硬度少シク軟. 剖面 質實ニシテ, 灰白淡紅色ヲ帶ブ. (年齢不明)
10	同 上	左側卵巣大サ略尋常, 豌豆大ノ血腫形成ヲ認メシム. 右側卵巣小兒頭大, 硬度稍軟, 剖面 肉様淡紅色ヲ呈ス. (50歳)

顯微鏡の所見

小圓形細胞肉腫

第1例及第2例共ニ「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテハ卵巣ニハ「クロマチン」ニ富メル圓形核ヲ有スル圓形細胞瀰漫性ニ密集シ, 所々ニ核分割アリ. 細胞間結締織中ニハ中及小血管多數ニアリテ, 内腔ニハ血球ヲ容ル. 精査スレバ上記各小圓形細胞間ニハ細キ纖維物質ヲ認メシム. 又部位ニヨリテハ殊ニ第2例ニテハ多數束狀ヲナセル鬆粗ナル結締織アリ. 纖維間ニハ星芒狀ノ細胞モアリ. 「ズダン III 染色標本ニテ一汎ニ「リボイド」ヲ認メシメズ. 只第2例ニテ核染色弱キ肉腫細胞ニハ僅ニ黃赤色微細顆粒ノ沈着セルモノアリ. 鍍銀標本ニテハ小圓形細胞間ニ極メテ細ナル格子狀纖維アリテ, 上記各細胞間ニ存シ又之ヲ圍繞ス. 所ニヨリテハ多數ノ黒染乃至帶褐黒染纖維カ腫瘍中ニ走レルモノアリ. 腫瘍細胞無クシテ結締織ノ多キ部ノ纖維中ニハ顆粒狀沈着ヲ示セル太キ纖維モアリ. 鬆粗ナル網狀ヲナセリ. Weigert 氏彈力纖維染色法ニテ彈力纖維ハ血管壁ニアルノミニシテ, 此部ノ纖維ハ纖細ナリ. 腫瘍細胞間及束狀ヲナセル結締織中ニハ彈力纖維無シ.

腫瘍卵巣中ニハ卵巣固有組織ハ何處ニモ認ムル事ヲ得ズ.

纖維肉腫

第3例ニテハ「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテ皮質表層ノ部ニハ結締織纖維ヲ伴ヒ稍長紡錘形ノ核ヲ有スル細長ノ細胞多數ニアリ. 又其間ニ所々ニ紡錘形乃至卵圓形ノ「クロマチン」ニ富メル核ヲ有スル細胞多數ニ混在シ, 細胞ハ原形質ニ富ミ, 核分割多シ. 深部ニ入ルニ從ヒテ, 「クロマチン」ニ富ミ「ヘマトキシリン」ニ濃染セル大ナル核ヲ有シ, 核分割著明ナル紡錘形細胞多シ. 中ニハ數個ノ核ヲ有スル細胞モ認メラル. 此間ニ諸所ニ血球ヲ容ル、小血管ヲ認メシム. 即チ纖維腫ト肉腫トノ混合ヲ示セルモノニシテ, 種々ナル混合狀態ヲ示セリ. 部位ニヨリテハ組織ハ變性シ, 核染色惡キ部モアリ. 斯ル部ニハ纖維ハ膨化シ, 「エオジン」ニ赤ク淡染スルコト多シ.

鍍銀標本ニテハ太キ黒染纖維ト細キ格子狀纖維トヲ以テ, 血管壁ノ格子狀纖維トモ連リ, 極メテ緻密ナル纖維網ヲ作り, 肉腫細胞個々ヲ圍繞シ, 細胞ト格子狀纖維トノ關係密接ナリ. 皮質表層纖維腫ノ部ニテハ, 纖維ハ一般ニ太リ, 稍帶褐黒染シ, 顆粒狀沈着ヲ示シ, 膨化セルモノ多シ.

第4例ニテハ「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテハ皮質表層ニハ核ニ乏シキ赤染セル結締織アリ. 組織ハ一汎ニ染色弱ク, van Gieson 氏法ニテハ纖細ナル紅染纖維多數ニアリ. 「ズダン III 染色標本ニテ檢スルモ「リボイド」沈着ヲ認メシメズ. 此部ハ鍍銀標本ニテハ一汎ニ太キ褐染纖維中ニ顆粒狀沈着ヲ示セ

ル細キ格子狀纖維アリ。腫瘍組織中所々ニ血球ヲ容ル、小血管多シ。深部ニテハ「ヘマトキシリン」ニ濃染セル小ナル圓形ノ核ヲ有シ、原形質ニ乏シキ小細胞多數ニ密集シ、核分割ヲ所々ニ認メシメ、或細胞ニハ2個ノ核ヲ有スルモノアリ。結締組織纖維間ニ散在性ニ認メラル、肉腫細胞ニテモ、原形質ニ富ミ、細胞大ニシテ、核分割ヲ認メシムルモノアリ。肉腫細胞ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ、一汎ニ佳染色ナルモ、所々ニ「エオジン」ニ淡赤色ニ染ミ、核染色甚悪キ部アリ。斯ル部ニテハ「ズダン III 染色標本」ニテ黄赤色ニ染レル微細顆粒狀又ハ滴狀ノ「リポイド」多量ニ沈着スレドモ、染色佳キ部ニテハ「リポイド」沈着セズ。此部ハ鍍銀標本ニテハ、纖細ナル格子狀纖維多數ニアリテ、殆ド細胞個々ヲ圍繞ス。部位ニヨリテハ、纖維ハ束狀ヲナセルモノアリ。染色悪キ部ニテハ格子狀纖維ハ少シ。尙肉腫細胞ノ密集セル間ニハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ長キ核ヲ有スル細長キ細胞ヲ認メ、纖維ハ粗ナル排列ヲ示シ、「ズダン III 染色標本」ニテハ一汎ニ「リポイド」沈着無キモ一部ニハ微細顆粒狀沈着ヲ示セリ。van Gieson 氏法ニテハ或ハ太ク或ハ細キ紅染纖維トシテ認メラレ、鍍銀標本ニテハ太キ帶褐黒染セル纖維多ク、所ニヨリ間ニ細キ纖維ヲ混ジ、一汎ニ顆粒狀沈着ヲ示シ、纖細ナル纖維ヲ認メシメズ。

大圓形細胞肉腫

2例(第5例及第6例(左側))ニテハ、卵巣皮質表層ニハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ核ニ乏シキ結締組織纖維アリ。「ズダン III 染色標本」ニテハ「リポイド」沈着無シ。鍍銀標本ニテハ太キ帶褐黒染乃至褐染纖維ヲ以テ緻密ナル排列ヲナセリ。

所謂白膜下ニハ、第1例ニテハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ原形質ニ富ミ、「クロマチン」ニ富ミ濃染セル圓形ノ大ナル核ヲ有スル大ナル細胞群在シ、1乃至2個ノ核小體ヲ有スルモノアリ。2個ノ核ヲ有スル細胞モアリ。所々ニ核分割ヲ認メシム。

第6例ニテハ腫瘍細胞ハ密集又ハ散在シ、原形質ハ「エオジン」ニ淡紅色顆粒狀ニ染リ、核分割多數ニアリ。部位ニヨリテハ數個ノ核ヲ有スル細胞アリ。腫瘍細胞ノ核染色ハ一汎ニ良好ナルモ、部位ニヨリテハ、壊死ニ陥リ、瀰蔓性ニ顆粒狀ニ染レル部アリ。一部ニハ鬆粗ナル結締組織纖維アリ。第7例ニテハ肉腫細胞ハ略同大ニシテ原形質ニ富ミ大ナリ。細胞間ニハ結締組織纖維ニ乏シキ部ト多キ部トアリ。第8例ニテハ腫瘍細胞ハ大サ略等シキ圓形ノ大ナル核ヲ有シ、此等細胞ハ密集シ、1個ノ著明ナル核小體ヲ有ス。核分割多數ニアリ。2個ノ核ヲ有スルモノモアリ。各肉腫細胞間ニハ細キ結締組織纖維ヲ認メシム。所ニヨリテ腫瘍細胞間ニハ多數ノ核(約47個ノ核)ヲ有スル巨態細胞ヲ數個認メシム。核ハ周縁性ナルモ、一部中心性ニ集レルモノアリ。

「ズダン III 染色標本」ニテハ一汎ニ核分割ヲ認メシムルモノ又ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ佳染セル腫瘍細胞ニハ「リポイド」沈着無キモ、稍悪キ部ニテハ一汎ニ黄赤色ノ微細顆粒ヲ多量ニ沈着ス。殊ニ第6例ニテ壊死ニ陥レル部ニテハ「リポイド」僅少ナルモ、核染色佳キ部トノ境界部ニテハ中等量ノ「リポイド」ヲ沈着セリ。而シテ鬆粗ナル結締組織中ニハ「リポイド」多量ニ沈着セリ。

格子狀纖維

2例(第5及第6例)共ニ各腫瘍細胞間ニハ極メテ細キ結締組織纖維及所々ニ束狀ニ集レルモノヲ認メシメ、間ニ血球ヲ容ル、小血管多數ニ認メラル。血管壁ノ肥厚變性ヲ認メシメズシテ、壁ニハ「リポイド」沈着無ク、鍍銀標本ニテ纖細ナル格子狀纖維アリ。「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ核染色佳キ部ニテハ鍍銀標本ニテハ各肉腫細胞間ニハ、一部ハ血管壁ニ於ケル格子狀纖維ト連レルモノアリテ、一汎ニ纖細ナル格子狀纖維ヲ以テ緻密ナル網絡ヲナシ、各細胞ヲ圍繞セルモ、肉腫細胞ノ柱狀又ハ連珠狀ヲナシテ

間質結締織中ニ侵入セル部(第6例)ニテハ、格子狀纖維ハ其細胞柱ノ周圍ヲ圍繞ス。然レドモ壞死ニ陥リ核染色無キ部(第5例)ニテハ細胞間ニハ格子狀纖維ヲ認メシメズ。第7例ニテハ一部ニ格子狀纖維間ニ浸潤性ニ細胞數個列スルガ如キ部認メラル、全體トシテハ各細胞間ニハ纖細ナル格子狀纖維存セリ。「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテ鬆粗ニ認メラレタル部(第5例)ニハ、van Gieson 氏法ニテ、細胞間ニハ紅染セル纖維ヲ認メシメ、鍍銀標本ニテハ稍太キ褐染纖維トシテ現レ、鬆粗ナル網ヲ認メシム。又腫瘍細胞間ノ結締織ニ富メル部(第8例)ニテハ細キ格子狀纖維ノ間ニ太キ褐染纖維ヲ混セリ。

弾力纖維

Weigert 氏法ニテハ3例(第6, 7, 8ノ各例)ニハ、腫瘍細胞間ノ結締織中ノ血管壁ニ存スル弾力纖維ハ少シク認メ得ラル、モ、腫瘍間質中ニハ全ク之ヲ認メシメズ。

卵巣固有組織

各例共ニ胚上皮及濾胞等ヲ認メシメズ。只第5例ノ健全ナル右側卵巣ニアリテハ、胚上皮細胞比較的多數ニアリ。硝子膜、1.3 粒大ノ開花期黃體、1.2 粒大ノ發育濾胞等アリ。又1例ニハ腫瘍細胞間ノ一部ニ原始濾胞ヲ1個認メシメタリ。

紡錘形細胞肉腫

第9例ニテハ一汎「クロマチン」ニ富メル卵圓形乃至橢圓形ノ核ヲ有スル小ナル紡錘形ノ細胞ハ群在又ハ散在性ニ認メラレ、核ハ「ヘマトキシリン」ニ濃染シ、所々ニ分割像ヲ現ハセリ。細胞間ニハ「エオジン」ニ淡赤染セル細キ結締織纖維アリ。部位ニヨリテハ、纖維ハ膨大ニ肥厚セルモノヲ認メシム。一般ニ血球ヲ容ル、細血管多シ。部位ニヨリテハ核ニ乏シキ鬆粗ナル結締織多クシテ、此部ニアリテハ腫瘍細胞ハ認メラレズ。又一部「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテ、比較的境界銳利ニ核染色惡ク、僅ニ細胞ノ形ヲ認メ得ルモノアルモ、一般ニ顆粒狀ニ赤染セル部アリ。第10例ニテハ組織ハ卵圓形、橢圓形ノ濃染セル核ヲ有スル小紡錘形細胞彌蔓性ニ群在シ、細胞間ニハ纖細ナル結締織纖維アリ。所ニヨリテハ赤染シ、核ニ乏シキ太キ纖維ヲ以テ、束狀ヲナセルモノアリ。血球ヲ容ル、小血管ヲ所々ニ認メシム。「ズダン III 染色標本ニテ兩側共ニ腫瘍細胞ニハ「リボイド」沈着陰性ナリ。一部ノ間質結締織細胞中ニ核ノ兩端ニ微細顆粒ヲ沈着セルモノアリ。

鍍銀標本ニテハ一汎ニ纖細ナル格子狀纖維ヲ以テ密網ヲナシ、肉腫細胞間ニ存在ス。而シテ「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテ、所々ニ赤ク染レル斷續セル太キ膨化纖維ハ本法ニテハ黑染スレドモ、顆粒狀沈着ヲ示ス。尙染色惡キ部ニテハ纖維ハ一般ニ顆粒狀沈着ヲ示ス。而シテ壞死ニ陥レル部ニアリテハ、彌蔓性ニ帶褐黑色ニ顆粒狀沈着ヲ示シ、纖維ヲ認メシメズ。又所々ニ認メラル、鬆粗ナル組織中ニハ纖細ナル格子狀纖維アリテ粗網ヲナセリ。又皮質表層(第10例)ニハ褐染纖維多ク、間ニ少シク格子狀纖維ヲ混セリ。

卵巣固有組織

全卵巣ハ彌蔓性ニ腫瘍組織ヲ以テ占メラレ、卵巣固有組織ハ兩例共ニ認ムル事ヲ得ズ。

考 按

卵巣肉腫ハ屢見ラル、腫瘍ニ非ズシテ、其頻度ハ報告者ニヨリテ一様ナラズ。即チ全卵巣腫瘍中卵巣肉腫ノ頻度ニ關シテ Schröder⁽¹⁶⁴⁾ハ1.6%、Fitzgibbon⁽²³⁾ハ1.7%、Lippert⁽⁸⁶⁾ハ2.51%、Pfannenstiel⁽¹⁷⁹⁾ハ5.38%、Hofmeier u. Veits⁽⁵⁰⁾ハ7.5%ナリト言ヒ、Stauder

(170) ハ 6.78%, Leopold⁽⁸⁴⁾ ハ 2.2%, Martin⁽⁹³⁾ ハ 2%, Schauta-Herzfeld⁽¹⁵⁹⁾ ハ 3.25%ナリト言ヘリ。

本腫瘍ハ孰レノ年代ニモ見ル事ヲ得ルモ、殊ニ若年者ニ發生スル傾向アリ。Savariend u. Gulbal⁽¹⁵⁵⁾ ハ 3 歳、Marchand⁽⁸⁹⁾ ハ 4 歳ノ小兒ニ、Leopold u. Flaten⁽⁸⁵⁾ ハ 共ニ 14 歳以下ノ少女ニ實見セリト言ヒ、Stauder (1902)⁽¹⁷⁰⁾ ハ 12 歳ヨリ 60 歳迄ノ年齢ニ本腫瘍ヲ見タル事ヲ記セリ。

兩側ニ發生スル事比較的多キモ、癌腫ノ如ク屢ナラズ。Stauder^(前出) ハ 33%ニ、Wermuth⁽¹⁶⁹⁾ ハ 26.9%ニ兩側ニ見タリト言ヘルモ、余ノ例ニテハ何レモ偏側ニ發生セリ。

本腫瘍ハ屢纖維腫、囊腫、癌腫等ト合併スル事比較的多數ナリト稱セラル。余ハ本腫瘍研究中 2 例ニ於テ纖維腫トノ混合腫瘍ヲ觀タリ。

組織的ニハ圓形細胞、紡錘形細胞等ニシテ、巨態細胞肉腫ハ稀有ナリ。甚稀ニ黑色肉腫ヲ見ルコトアリ。多クハ原發性ナルモ、時トシテ續發性ニ子宮其他ノ内臓肉腫ヨリ卵巢ニ轉移スルコトアリト稱セラル。

余ハ 6 例中 1 例ニ於テハ原發性ナル事ヲ確メ得タレドモ、他ノ 5 例ハ記載不明ノタメ斷言スル事ヲ得ザルヲ遺憾トス。

Leopold (1874)⁽⁸³⁾ ハ 13 例ノ卵巢肉腫及癌腫等ノ眞性腫瘍ニ就テ記シ、同時ニ文獻ニヨル統計的觀察ヲ報告シ、其他一々ノ記載ヲ省クモ、Bab⁽⁸⁾ ハ 39 歳ノ婦人ノ剖檢ニヨリ兩側卵巢ニ黑色肉腫ノ發生セル事ヲ記シ、Amann⁽⁵⁾ ハ卵巢ノ原發性肉腫ヲ報告セリ。又 Schwertassek (1894)⁽¹⁶⁸⁾ ハ 49 歳ノ婦人ニ就テ畸形腫ヲ合併セル卵巢囊腫ノ肉腫様變性ヲ示セルモノニ就テ記セリ。即チ腫瘍ノ構成ニ就テハ、紡錘形細胞肉腫、圓形細胞肉腫及其等ノ胞巢狀ヲナセル肉腫等ガ種々ナル状態ニ直接移行セルモノニシテ、血管壁内ニモ明ニ肉腫性新生物ノ發生ヲ認メタルモノニシテ、其多型ナル事が注目ニ値スト言ヘリ。光井(大正 12 年)⁽¹⁰¹⁾ ハ 33 歳ノ經産婦ニテ兩側卵巢ニ大圓形細胞肉腫ヲ發生セル 1 例ニ就テ記シ、石川⁽⁵⁹⁾ ハ黃體細胞ヨリ原發性ニ發生セル兩側卵巢肉腫(Luteinocellulom)ニ就テ記セリ。而シテ氏ニヨレバ黃體ヨリ發生セル眞ノ腫瘍ハ僅ニ數氏(Rokitansky, Voigt, Schaller u. Pfärringer, Grouzdew等)アルノミナリト言ヘリ。又 Langer (1895)⁽⁷⁹⁾ ハ肉腫ノ 1 例ニ就テ記シ、Glockner (1905)⁽⁴⁰⁾ ハ 7 例ノ紡錘形細胞肉腫及纖維肉腫ニ就テ記シ、總テノ例ニ於テ腫瘍細胞ト血管トハ關係アリト言ヘリ。Stauder (1902)⁽¹⁷⁰⁾ ハ卵巢肉腫就中肉腫ノ他ノモノトノ混合腫瘍ニ就テ記セリ。即チ 37 歳ノ婦人卵巢ノ肉腫例ニテハ癌腫様ヲ呈スル部ト肉腫様・粘液腫様ヲ呈スル部トアル事ヲ注意シ、又 19 歳ノ處女卵巢ノ肉腫例ニテハ胞巢狀ノ構造ヲ有シ、腫瘍部ニハ一般ニ血管ニ乏シク細胞間ノ纖維物質ニ缺ケルタメ單純ナル胞巢癌ニ似タルモノアリト言ヘリ。

腫瘍細胞ト間質結締織トノ關係ニ關シテ、中村⁽¹⁰³⁾ ハ胃原發性肉腫ニ就テノ記載中胃肉腫ニ於テハ上皮細胞性腫瘍ニ見ル如キ胞巢狀排列ハ何レニモ認メラレズ。腫瘍組織ハ浸潤性ニ各方向ニ侵入シ、而シテ周圍ノ組織ハ此腫瘍細胞ト同性ナルト異性ナルトヲ問ハズ共ニ唯被動的ニ腫瘍細胞ノ侵襲ヲ蒙リ、甚シケレバ萎縮又ハ湮滅ニ陥ルモノニシテ、進行性ノ態度ヲ

示シテ組織増殖ノ像ヲ現ハス所ハ何レニモ認メシメザルナリト言ヘリ。

Glockner (1905)⁽⁴⁰⁾ ハ卵巣ノ小圓形細胞肉腫ノ記載中總テノ例ニ於テ腫瘍細胞ハ血管ト密接ナル關係ノ存スル事ヲ記セリ。鍍銀法ニヨリ格子狀纖維ノ腫瘍中ニ存スル事ハ Herxheimer⁽⁴⁶⁾、Schmidt⁽¹⁶²⁾、Rössle u. Yoshida⁽¹⁴⁴⁾ 等ニヨリ肝臟及淋巴腺ノ轉移竈ニ就テ記サレ、其他卵巣以外ノ他臟器ノ腫瘍ニ就テハ中村⁽¹⁰³⁾、菊地⁽⁶⁵⁾、久留⁽⁷⁴⁾、松田⁽⁹⁸⁾ 等ニヨリテ記載セラレタルモノアレドモ、卵巣腫瘍ニ就テ未ダ是アルヲ聞カザルヲ以テ、余ノ例ト比較考查シ得ザルヲ遺憾トス。久留^(前出)ハ肉腫ニアリテハ、細胞個々ノ間ニハ常ニ纖細ナル格子狀纖維ヲ證明セラルレドモ、癌腫ニ於テハ腫瘍實質中ニハ決シテ無シ。圓形細胞肉腫ニテハ格子狀纖維ハ多クハ樹枝狀分岐ヲナス。大圓形細胞肉腫ノ際ニハ格子狀纖維ハ明ナル纖細ナル網狀ヲナシ、肉腫實質ガ明ニ胞巢狀ヲ形成ス。斯ル場合ニアリテモ、細胞間ニハ格子狀纖維ノ侵入セルモノヲ證明シ得ラル。又纖維ノ經過ハ肉腫ノ種類ニヨリテ種々ニシテ、組織ハ細胞ニ富メバ富ム程、纖維ハ乏シクナリ、而シテ肉腫ノ急速ノ發育ノ際ニハ纖維ノ發育ハ細胞ノ發育ト等シカラズト言ヘリ。松田^(前出)ハ腎臟ノ轉移性紡錘形細胞肉腫ニ於テ格子狀纖維ト肉腫トノ關係ニ就テ記シ、腫瘍細胞ト纖維形成トハ同步調ヲ示スモノニ非ザルヲ知ルベシト言ヘリ。

余ノ檢セシ肉腫例ニテハ、小圓形細胞、大圓形細胞、紡錘形細胞等何レノ肉腫型ニアリテモ、普通ノ「ヘマトキシリン」-「エオジン染色法」ニテ等シク細胞ト間質纖維物質トノ關係ハ親密ニシテ診斷ハ必ズシモ困難ナラズト雖、2例(第1、第3例)ニ就テ腫瘍ノ大半ニ於テハ各細胞間ニハ「エオジン」ニ赤染セル纖維物質アリテ一見肉腫様ヲ呈スレドモ、其一部ニ在リテハ上述 Stauder^(前出)及久留^(前出)ノ記セルモノト等シク纖維物質極メテ少ク腫瘍細胞ノ密集シ、稍胞巢狀ヲナシ、尙周圍ヨリ少シク纖維ノ侵入ヲ認メシメタルモ、纖維ト細胞トノ關係疎ナルガ如キ所見ヲ認メシメタルタメ、「ヘマトキシリン」-「エオジン染色標本」ノミニテハ肉腫診斷ニ當リ躊躇セザルヲ得ザリキ。然ルニ斯ル切片ヲ鍍銀標本ニヨリ檢セバ、先ニ細胞ト纖維トノ關係一見親密ナラザリシ部ニ於テモ、本法ニヨリ腫瘍細胞ト纖細ナル格子狀纖維トノ間ニ肉腫特有ノ所見ヲ示セルヲ以テ、茲ニ漸ク肉腫タル事ヲ確定セラレタリ。即チ斯ル部ハ久留^(前出)、松田^(前出) 等ノ言ヘル如ク他ノ部ニ比較シテ肉腫細胞ノミ増生急速ニシテ、格子狀纖維ノ新生緩慢ニシテ、之ニ伴ハザルニ由ルモノト解セラル。由來卵巣ニ於ケル腫瘍ハ他臟器ニ於ケル腫瘍ト甚シク異リタル組織像ヲ示スコトアルハ Krukenberg 氏腫瘍條下ニ於テ記セル所ナリ。卵巣間質中ニ瀰蔓性ニ發育セル惡性腫瘍(殊ニ肉腫及癌腫)ニ在リテハ腫瘍細胞ハ初メ殆ド總テ浸潤性増殖ヲ開始セルヲ以テ癌細胞ノ未ダ胞巢ヲ形成セザル或時期ニ於テハ、其一部ハ肉腫細胞トノ鑑別判定ニ當リテ、單ナル「ヘマトキシリン」-「エオジン染色法」ノミニテハ甚ダ困難ヲ感ズル事アリ。斯ル際ニ鍍銀法ヲ應用シ、腫瘍細胞ト格子狀纖維トノ親疎關係ヲ檢スルニ於テハ、殊ニ上皮性タル癌腫ト結締織性タル肉腫トノ鑑別ハヨリ容易ナル事ト信ズ。

要之卵巣肉腫ニ於テハ肉腫細胞ノ種類ニヨリテ多少異レドモ、肉腫細胞ト格子狀纖維トハ

密接ナル關係ヲ有シ，肉腫細胞個々ノ間ニハ纖細ナル格子狀纖維アリ。格子狀纖維ハ血管壁ニ於ケル格子狀纖維ト吻合シ，相連リ，肉腫組織間ニ放線狀ニ走り，樹枝狀分岐ヲナシ，近隣ノモノト共ニ相交織シ，其間ニ個々ノ肉腫細胞存スル狀ヲナスモノナリ。

第五節 纖 維 腫

肉 眼 的 所 見

検査 番 號	年 齡	大 小 及 性 狀
1	32	右側卵巢ハ大人頭大，表面滑澤，剖面 質實ニシテ，硬ク色雪白色。
2	不明	右側卵巢ハ小兒頭大，卵圓形ニシテ，表面平滑，剖面 質實ニシテ硬シ。
3	不明	左側卵巢ハ約小兒頭大，橢圓形ニシテ，表面滑澤，剖面 質實ニシテ稍硬シ。

顯 微 鏡 的 所 見

各例(第1, 2, 3ノ各例)共ニ「ヘマトキシリン」-「エオジン染色ニテ胚上皮ヲ認メシメズ。腫瘍ハ結締織細胞ト纖維トヨリナリ，腫瘍細胞ハ一般ニ橢圓形乃至長圓形ノ長キ核ヲ有シ，比較的緻密ニ排列シ，斯ル細胞ノ間ニ赤染セル結締織纖維多數ニアリ，纖維ハ束狀ヲナシ，種々ノ方向ニ走ル。

van Gieson 氏法ニテハ，纖維ハ細キモノヲ混セル部モアレドモ一般ニ太クシテ紅染シ，斷續セリ。「ズダン III 染色標本ニテ腫瘍細胞中ニハ核ノ周圍又ハ兩端ニ微細顆粒狀ノ「リポイド」ヲ沈着セルモノモアレドモ，一般ニ少シ。

鍍銀標本ニテハ卵巢皮質表層核ニ乏シク，波狀ヲ示セル太キ結締織纖維ヲ認ムル部ニハ，膨化セル太キ帶褐黒染纖維アリ。一般ニ纖維ハ帶褐黒染シ，太ク，相集リ束狀ヲナシ，種々ノ方向ニ走り，顆粒狀沈着ヲ示セルモノ多シ。格子狀纖維トシテ纖細ナルモノハ認メラレズ。第2例ニテハ纖維ハ少シク膨化シ，顆粒狀沈着ヲ示セルコト強シ。

Weigert 氏法ニテハ各例共ニ腫瘍間質結締織中ニハ彈力纖維ヲ認メシメズ。只血管壁(殊ニ動脈)ニ細キ彈力纖維ヲ認メ得ルノミナリ。腫瘍組織中ニハ所々ニ血球ヲ容ル、小血管ヲ認メシムルモ，第1例ニテハ比較的血管少シ。鍍銀標本ニテ各例共ニ血管壁ニ於テハ少シク纖細ナル格子狀纖維ヲ認メ得。

腫瘍ハ全卵巢ニヒロク存在セルヲ以テ，卵巢固有組織ハ認メラレズ。

考 按

卵巢纖維腫ノ全卵巢腫瘍ニ對スル 100 分率ヲ觀ルニ，安藤⁽⁶⁾ハ約1.5乃至2%ナリト言ヒ，Stauder⁽¹⁷⁰⁾ハ1.36%，Martin⁽⁹³⁾ハ3.7%，Schauta-Herzfeld⁽¹⁵⁹⁾ハ2.5%，Lippert⁽⁸⁶⁾ハ纖維腫及纖維筋腫共ニ1.72%ナリト言ヘリ。又Basso(1905)⁽¹¹⁾ハ4例ノ卵巢良性結締織性新生物ヲ報告シ，Laidley(1900)⁽⁷⁸⁾ハ瀰蔓性卵巢纖維腫ニ就テ記シ，一部ニハ舊キ黄体ヲ認メタル事ヲ記セリ。

瀰蔓性纖維腫ト限局性纖維腫ト二種アル中，余ノ茲ニ記セル3例ハ其瀰蔓性腫瘍ニ屬スルモノナリ。本腫瘍ニハ續發性變化トシテ，硝子樣變性，水腫，石灰化，出血等ヲ來シ，又囊腫ヲ合併スルコトアリト稱セラレ(安藤ニ據ル)，Glockner(1905)⁽⁴⁰⁾ハ本腫瘍ノ一部ニ石

灰沈着 (Kalkkonkrement) ヲ認メ、其周圍ニ異物巨態細胞ノ散在セルモノニ就テ記セルモ、余ノ例ニテハ斯ル變化ヲ認メシメズ。

余ノ檢索セル本腫瘍ノ3例ニハ鍍銀標本ニテハ、主トシテ膠基纖維ニシテ、纖維ハ一般ニ太ク格子狀纖維ヲ認メシメズ。

第六節 內被細胞腫

病歴不詳

標本ノ肉眼的所見

瀰蔓性ニ灰白色ノ脆キ組織ニシテ、大サ大人頭大ナリ。

顯微鏡的所見

卵巣全組織ハ腫瘍ニテ占メラル。即チ圓形乃至長圓形ノ「クロマチン」ニ富メル大ナル核ヲ有スル細胞ニシテ、原形質ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ顆粒狀ニ赤染シ、核分割多シ。或部ニテハ血管ノ內被細胞直下ニ於テ、腫瘍細胞ハ其周圍ニ放射狀ニ列スル如キ狀ニアリ。其部ノ內被細胞ハ多クハ尋常ナル構造ヲ示ス。而シテ間質中ニ於テ腫瘍細胞ハ索狀ニ列シ、近隣ノモノト相吻合シ時ニ網狀ヲナシ又細胞索ハ尖銳ニ終レルモノアリ、其狀甚淋巴間隙ノ狀ニ一致ス。「ブダン III 染色標本ニテ腫瘍細胞ノ核分割ヲ示セルモノ又ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ佳染セルモノニハ「リポイド」沈着無キモ、稍染色惡キ腫瘍細胞ニハ一般ニ黃赤色ニ染リ微細顆粒狀ヲナセル「リポイド」多量ニ沈着シ、或モノニハ大ナル滴狀物ヲ認メシムルモノアリ。而シテ壞死ニ陥レル部ニテハ、全ク微細顆粒ニテ充滿セラレタルモノアリ。又血管ノ內被細胞ニハ「リポイド」ヲ沈着セルモノト然ラザルモノトアリ。

所々ニ血管壁腫瘍細胞ノ集レル部ニ圓柱上皮細胞ヲ以テ被覆セル小ナル管腔ノ切口ヲ認メシム。是腫瘍トハ關係無キモノニシテ、偶然合併セルモノナリ。

鍍銀標本ニテハ腫瘍細胞ノ無キ間質ノ鬆粗ナル部ニハ細キ黑染纖維アリ。腫瘍細胞ガ明カナル細胞索ヲナセル部ニ於テハ之ニ接シ黑染纖維ヲ認メシメ、其排列ノ不規則ナル部ニ於テハ細胞間ニ細纖維存シ其關係親密ナル狀ヲ示セリ。Weigert 氏法ニテハ腫瘍細胞間ニハ彈力纖維ヲ認メシメズ。血管壁ニハ細纖維少シク認メ得ラル。

考 按

卵巣ノ內被細胞腫ニ就テ文獻ヲ觀ルニ、Rosthorn (1891)⁽¹⁴⁶⁾ハ48歳ノ婦人ヨリ手術的ニ剔出セル右側卵巣腫瘍ヲ檢シ、內被細胞腫ナリシト記シ、Voigt (1894)⁽¹³⁶⁾ハ16歳ノ處女ニ於テ左側卵巣ニノミ本腫瘍ノ發生セルモノヲ報告シ、Kötschau (1896)⁽⁶⁹⁾ハ54歳ノ婦人ノ兩側卵巣ニ本腫瘍ノ發生セル事ヲ記シ、腫瘤ハ卵巢ノ形ヲ保チ、左側ハ人頭大、右側ハ小兒頭大ニ増大シ、內腔ニハ多量ノ頽敗物ヲ容レ、何處ニモ濾胞及健康ナル結締組織ヲ認ムル事ヲ得ズ。組織的ニハ內被細胞ノ增生ヲ示セリト言ヘリ。Krukenberg (1899)⁽⁷²⁾ハ數例ノ本腫瘍ニ就テ Peritheliom トシテ報告セルガ、氏ノ組織的記載及附圖ニヨリテ觀ルニ、其組織的所見ハ余ノ所見ト似タル所アリ。Papaiouannou⁽¹²⁷⁾ハ肉腫トシテ獨立ノ腫瘍型ヲ現ハセル Amann ノ言フ Peritheliom ハ肉腫ニ數フ可キモノニシテ、組織發生學的ニモ、前毛細血管ノ外膜細胞ニ由來スルモノナリト言ヘリ。Heinricius (1904)⁽⁴⁵⁾ハ32歳ノ婦人ニ就テ卵巣淋巴管內被細胞腫ノ1例ヲ報告シ、腫瘍中ニハ特有ナル卵巣組織ヲ見ズシテ、細胞ニ乏シキ間

質結締織中ニハ小細胞ノ浸潤無ク、細胞ニヨリテ充サレタル大ナル空隙ハ確ニ淋巴管ニシテ、血管ニ非ズト記セリ。林⁽⁴¹⁾ハ兩側卵巢ニ原發セル表在性乳嚙性淋巴管内被細胞ニシテ、諸臓器ニ轉移セル稀有ナル1例ニ就テ記セリ。Mirabeau (1899)⁽¹⁰²⁾ハ62歳ノ老年婦人ノ卵巢ニ於テ Peritheliom ノ定型的ナルモノヲ觀タリト記シ、Müller (1892)⁽¹⁰⁴⁾ハ卵巢ノ癌腫及内被細胞腫ニ就テ記シ、Pollak (1898)⁽¹³⁵⁾ハ卵巢外被細胞腫ノ知見ト題シ、該腫瘍ハ紡錘形細胞ヨリ發生スル肉腫性新生物ニシテ、此紡錘形細胞ノ關係ハ中等大血管ノ外壁要素ヲナセルモノナリト言ヘリ。Kubo (1909)⁽⁷⁵⁾ハ卵巢ニ於ケル内被細胞腫ニ就テ記シ、該腫瘍ハ卵巢ノ肉腫又原發癌ノ如キモノニ比較スレバ悪性度ハ僅少ナリト言ヘリ。内被細胞ヨリ生ジタル腫瘍ハ淋巴管内被細胞腫及血管内被細胞腫ニ分タル。

Pfannenstiel⁽¹³⁰⁾ハ卵巢内被細胞腫中癌腫型、肉腫型及腺腫型アリト記セリ。又 Amann (1894)⁽⁵⁾ハ卵巢ノ肉腫性腫瘍ニ於テ、其組織的本態ニ據リテ、1. Perithelioma 2. Endothelioma (intra) vasculare 3. Endothelioma lymphaticum ノ三種ニ分類セリ。

右ノ如ク内被細胞腫及之ニ類似ノ卵巢腫瘍ハ各人ニヨリテ種々ニ分類セラレタリ。

余ノ例ニ於テハ其組織的所見ニ鑑ミ、淋巴間隙内被細胞ノ増生ニヨリ發生セシモノナル事ヲ明ニセリ。格子狀纖維染色ニヨリ内被細胞腫ハ大凡癌腫ト肉腫ノ中間ニ立テルモノナル事ヲ思ハシム。腫瘍診断ノ上ニ亦 Bielschowsky 氏法ノ應用ノ價値アルコトヲ認メシムルモノナリ。

第七節 粘液腫並ニ石灰化セル粘液纖維腫

肉眼的所見

検査 番號	大 小 及 性 状
1	小兒頭大、橢圓形、表面滑澤。剖面一般ニ硝子様透徹ナリ。
2	小兒頭大ニシテ、橢圓形ヲ呈シ、硬シ。剖面一般ニ暗赤色ヲ呈シ、凹凸不平、粟粒大乃至次粟粒大ノ白色骨様ノ硬キ結節アリテ、刀ヲ以テ切ルテ得ズ。

顯微鏡的所見

第1例ニテハ長圓形、星芒狀乃至紡錘形ノ細胞ハ長突起ヲ有シヒロク一般ニ鬆粗ニ排列セリ。其等細胞ハ突起ヲ以テ相連リ、網狀ヲナシ、其間ニ於テ「ヘマトキシリン」ニ淡染セル硝子様物質アリ。又所々ニ「エオジン」ニ赤染セル斷續セル太キ纖維アリ。van Gieson 氏法ニテハ腫瘍細胞間ニハ細キ紅染纖維多數ニアリテ、鬆粗ナル網ヲ作り、一部其間ニ太キ斷續セル紅染纖維アリ。「フズゲン III 染色標本ニテ檢シテモ一般ニハ「リボイド」沈着無キモ、其或細胞ニハ少シク微細顆粒狀ニ「リボイド」沈着アルモノアリ。又結締織纖維中ニ少シク微細顆粒ヲ認メシムルアリ。

第2例ニテハ皮質表層共ニ彌蔓性ニ「ヘマトキシリン」-「エオジン」染色ニテ赤染セル太キ結締織纖維束アリテ、組織構成ハ一般ニ鬆粗ナリ。此間ニ稍橢圓形、不正形乃至多角形ノ核ヲ有スル大小ノ細胞散在セリ。所々ニ「エオジン」嗜好顆粒ヲ有スル紡錘形ノ小細胞散在セリ。是等結締織纖維ニハ所々ニ大小種々不規則ナル形態ヲ示セル塊狀ノ石灰沈着アルモノアリテ「ヘマトキシリン」ニテ中央ハ帶赤紫色ニ周縁部ハ帶

紫青色ニ染レリ, カカル石灰沈着ハ後述粘液組織ノ部ノ纖維ニ於テモ認メラル。而シテ斯ル部ハ周圍間質結締織トノ境界銳利ナリ。van Gieson 氏法ニテハ纖維ハ帶狀ニ肥厚シ, 紅染シ, 所々ニ斷續セルモノアリ。「リボイド」沈着ヲ認メシメズ。鍍銀標本ニテハ一般ニ皮質表層ニハ顆粒狀沈着ヲ示シ, 褐染セル膠基纖維ハ多少膨化肥厚セリ。石灰ノ沈着セル部ニ在リテハ, 多クハ顆粒狀沈着ヲ示シ, 纖維ハ少シク肥厚シ, 斷續セルモ, 尙其一部ニハ比較的細キ黑染纖維モ認メラレ, 一部ハ周圍間質ノ褐染纖維ト連レルモノアリ。又石灰沈着部ノ中ニ石灰沈着ノ少キモノハ, 一部褐染纖維ノ集團ヲ認メ得ル部アリ。

所ニヨリテハ結締織中ニ極メテ鬆粗ナル粘液組織アリ。纖維様ヲ呈シ, 基質ハ「ヘマトキシリン」ニ淡染ス。此部ハ van Gieson 氏法ニテハ紅染セル極メテ纖細ナル纖維トシテ觀ラレ, 鍍銀標本ニテモ, 一般ニ細キ帶褐黑染纖維ヲ以テ, 粗網ヲ作り, 周圍ノ膠基纖維ニ移行セル像ヲ認メシム。

血管 第1例及第2例共ニ血球ヲ充セル小血管ハ腫瘍組織中ノ所々ニアリ。血管壁ニハ van Gieson 氏法ニテ檢セバ紅染纖維アリ。鍍銀標本ニテハ纖細ナラズ。「リボイド」沈着ヲ認メシメズ。

卵巣固有組織 兩側共ニ腫瘍組織ニ化セルタメ, 固有組織ハ之ヲ認ムルコトヲ得ズ。

考 按

文獻ヲ見ルニ纖維腫又ハ其他ノ部ニハ偶石灰ノ沈着ヲ來セル事ヲ記セルモノアリ, タトヘバ Williams (1893)⁽¹⁹¹⁾ ハ夫々28歳, 24歳ノ婦人ニテ1例ハ兩側ニ, 1例ハ一側ニ發生セル卵巣纖維腫ニ石灰變性ヲ來セル事ヲ報告セリ。

余ノ茲ニ記セル第2例ハ即チ粘液纖維腫ニ部分性多發性ニ石灰ノ沈着ヲ來セルモノニシテ, 本例ニ於テ其發生機轉ニ就テハ明ナラザルモ, 其組織像及鍍銀標本ニ於ケル所見ヨリ考察スルニ, 可ナリ慢性ノ經過ヲ取リタルモノノ如シ。本例ニ就テ觀ルニ, 單ナル纖維腫ニ比スレバヨリ纖弱ナル細胞及纖維ヨリ構成セラレタル粘液組織ニ石灰ノ沈着ヲ來セル際ニ於テモ, 鍍銀標本ニテ尙能ク其部ニ纖維ヲ認メ得ルコトアリ。

第八節 混 合 腫 瘍

イ、筋・粘液・上皮腫

病歴不明

肉 眼 的 所 見

3倍人頭大ノ橢圓形ノ腫瘤ニシテ, 灰白色ヲ呈シ, 組織一般ニ脆弱ナリ。

顯 微 鏡 的 所 見

胚上皮 認メラレズ。

間質 皮質表層ハ「エオジン」ニ赤染シ, 核ニ乏シキ結締織纖維ヨリナリ, 一般ニ「リボイド」沈着無キモ, 或部ニハ「ズダンIII」ニ黄赤色ニ染メル「リボイド」ヲ沈着セリ。

不規則ニ重疊セル上皮ノ被覆アル腺管又ハ其上皮細胞ノ實性細胞巢等多數ニ間質中ニ散在ス。上皮細胞核ハ「クロマチン」ニ富ミ, 「ヘマトキシリン」ニ濃染シ, 一部ニハ核分割ヲ少シク認メシム。部位ニヨリテハ胚狀細胞ヲ混セリ。「ズダンIII」染色標本ニテハ一般ニ「リボイド」沈着無キモノ又或部ニテハ多量ニ沈着セル細胞等多種多様ナリ。鍍銀標本ニテハ上皮細胞周圍ニハ顆粒狀ヲ示セル膠基纖維アリ。格子狀纖維ヲ認メシメズ。其胞集狀ヲナセル部ハ癌腫ニ似タリ。一部ニハ間質結締織中ニ細胞ノ浸潤性ニ侵入セルモ

ノアリ。

長味アル桿状核ヲ有スル長キ細胞緻密束状ニ存在シ細胞體ハ「エオジン」ニ染リ一部分上記腺腫ノ間質ヲ作ル。「ズダン III 染色標本ニテハ一般ニ「リボイド」沈着無キモ、腫瘍細胞ノ或モノニハ微細ナル赤色顆粒ヲ認メシムルモノアリ。鍍銀標本ニテハ細キ褐染纖維ノ少數ト太キ纖維トヨリナリ、顆粒状沈着ヲ示セリ。纖細纖維ヲ認メシメズ。van Gieson 氏法ニテハ原形質ハ黄染シ、間ニ紅染纖維アリ。一部ニハ鬆粗ニシテ星芒状乃至紡錘形細胞ヲ有スル粘液組織アリ、「リボイド」沈着多シ。又「クロマチン」ニ富ミ、「ヘマトキシリン」ニ濃染セル小ナル圓形ノ核ヲ有スル小細胞多數ニ密集シ、核分割ヲ認メシムルモノモアリテ、間ニハ纖維物質ヲ有シ、鍍銀標本ニテハ顆粒状ノ細キ纖維ヲ認メシムルモ、組織固定ノ悪キタメ一般ニ著明ナラズ。

血管 血球ヲ容ル、小ナルモノアリ。壁ニハ「リボイド」沈着ヲ認メシメズ。

本例ノ如キ稀有ナル混合腫瘍ニ屬ス。上皮腫ノ周圍ニハ細キ黒染纖維アルモ、上皮細胞間ニハ決シテ其侵入セルモノヲ認メシメズ。

□、筋・粘液・纖維腫

患者 40歳ノ經産婦(8回)。

昭和4年7月30日左側喇叭管妊娠流産ニテ開腹手術ヲ行ヒ、左側喇叭管卵巢、右側喇叭管別出。別出セル左側卵巢(2.7—1.2—2.0 種)ニハ其健康ナル遊離端ノ一縁ヨリ結締織ヨリナル廣キ基底ヲ有スル莖ヲ以テ蠶豆ノ約2倍大(1.9—2.0—1.5 種)ノ硬キ腫瘤ヲ附着セリ。該腫瘤ハ硬ク、表面滑澤。剖面質性ニシテ、雪白色ヲ示シ硬シ。

顯微鏡的所見

腫瘍部ニテハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ、多クハ長圓形乃至桿状ノ核ヲ有スル細長キ細胞ト波状ヲ示セル太キ纖維トヨリナレリ。而シテ其一部ニハ van Gieson 氏法ニテ紅染セル太キ纖維間ニ黄染セル細胞體ヲ有セル筋纖維ヲ混セル部アリ。又一部ニハ紡錘形乃至星芒状細胞ヲ有スル鬆粗ナル結締織ヨリナル組織アリ。此部ニハ van Gieson 氏法ニテハ細キ紅染セル纖維ヲ認メシム。「ズダン III 染色標本ニテハ多クハ瀰漫性ニ微細顆粒状ノ「リボイド」ヲ沈着セルヲ認メシム。部位ニヨリテハ廣キ部ニ亘リ、「リボイド」顆粒ヲ以テ充滿セラレ、赤色ヲ示セル部アリ。粘液組織性ヲ示セル部ニテハ僅ニ微細顆粒状ノ「リボイド」沈着ヲ示セリ。

鍍銀標本ニテハ纖維ハ一般ニ帶褐黒染シ、太クシテ、束状ヲナシ、種々ノ方向ニ走ル。其或モノハ顆粒状ヲ示シ、肥厚變性セルモノアリ。又筋組織ヲ混セル部ニテハ細キ黒染纖維ヲ少シク混セリ。上述粘液腫ノ部ニハ極メテ纖細ナル格子状纖維網アリ。周圍ニハ漸次纖維太クナリ、膠基纖維(纖維腫形成部)ニ連レリ。

余ノ茲ニ記セルガ如キ斯ル混合腫瘍ハ極メテ稀有ナルモノノ如シ。本腫瘍中興味ヲ引ケルハ鍍銀標本ニテ纖維腫ノ部ニテハ、膠基纖維ノミヨリナリ、粘液腫ヲ形成セル部ニテハ專ラ格子状纖維ヨリナレリ。此兩組織ノ接セル部ニ於テ黒染セル格子状纖維ヨリ褐染スルコト強キ膠基纖維ニ移行セルコトナリ。

ハ、淋巴管筋腫

病歴不詳。

腫瘤ノ肉眼的所見

大人頭大ノ稍橢圓形ノ腫瘤ニシテ、多少軟ク、剖面海綿狀ヲ呈シ、稍凹凸ヲ示ス。一般ニ實性ニシテ腫瘤全體一樣ナル像ヲ呈ス。

顯微鏡的所見

腫瘤ハ一般ニ内被細胞ヲ以テ被覆セラレタル小裂隙狀又ハ稀ニ小囊狀ノ多數ノ腔隙ヨリナリ、部位ニヨリテハ多數密集シ、種々ナル形ヲ以テ間質中ニ侵入セリ。内腔「エオジン」ニ淡染セル無構造ノ物質中ニハ僅ニ白血球及單核細胞ヲ容ル、モノアリ。内被細胞ハ單層ニシテ部位ニヨリテハ細胞ハ肥大セルモノアリ。上述腔隙ノ間質結締織間ニハ無構造ニ赤染セル帶狀ノ結締織ト圓形ノ原形質ニ富メル細胞ヲ混セル部モアリ。van Gieson 氏法ニテハ黃色ヲ呈ス。

血管 壁ノ硝子様變性ヲ示シ、肥厚セル小動脈管ハ所々ニ散在シ、僅ニ血球ヲ容ル。

所々ニ筋纖維ハ集團ヲナシテ多數ニ認メラル、モノアリ。筋纖維ハ van Gieson 氏法ニテ黃色ヲ帶ブ。筋纖維間ニハ束狀ヲナセル結締織中隔アリテ、茲ニハ僅ニ小ナル淋巴管ヲ認メシム。

Weigert 氏法ニテハ小動脈管壁ニハ黒染セル波狀ノ彈力纖維多數ニ認メ得ラル、モ、新生セル淋巴管壁ニハ無シ。増殖セル筋纖維間ノ小血管壁ニモ、細キ彈力纖維アレドモ、各種ノ腫瘍間質結締織中ニハ之ヲ認メシメズ。「フズゲン III 染色標本ニテ檢スルモ「リホイド」沈着無シ。

鍍銀標本ニテハ一般ニ淋巴管腫ノ間質中及筋纖維間ニハ細キ格子狀纖維ヲ以テ細網ヲナシ、筋纖維ヲ其ノ間ニ容レ、如キ状態ヲ示ス。然レドモ上述硝子様變性ヲ示セルガ如キ變性血管壁及硝子様物質ノ沈着セル肥厚變性ノ強キ結締織纖維ニテハ鍍銀標本ニテ顆粒狀沈着ヲ示シ、稍帶褐黒染セル膨化纖維ヲ認メシム。殊ニ組織ノ核染色惡キ部ニテハ著明ナリ。

Virchow⁽¹⁸³⁾ハ腹腔内臟ノ海綿様血管腫(Angioma cavernosum)ハ肝及腎ニハ屢アリ、而シテ脾ニハ稀ニ。子宮及腸ニハ甚稀ニ見ラル。卵巢ニ血管腫ノ來レル事ハ證明セラレズ。

而シテ此腫瘍ハ頗ル稀有ナルモノナリト言ヘリ。Marckwald⁽⁸⁰⁾ニヨレバ Ziegler, Rindfleisch, Birch-Hirschfeldノ病理解剖學書ニモ認メラレズト。又 Orth⁽¹²⁵⁾ガ病理解剖學各論中少女ノ兩側卵巢ニ於ケル單純ナル血管腫ノ成生ニ就テ記シ、本腫瘤ハ極メテ稀ナリト言ヘルヲ引用シ、Marckwald(1894)^(前註)ハ卵巢海綿様血管腫ノ1例ニ就テ記シ、甚ダ稀有ナルモノナリト稱セリ。而シテ卵巢ノ淋巴管腫ニ就テハ多數ノ文獻中ニ容易ニ認メ難シ。

余ノ茲ニ報告セルガ如キ淋巴管腫ト筋腫ノ混合例ハ極メテ稀有ナルモノナリト言ヒ得ベシ。

二、纖維筋腫

肉眼的所見

検査 番號	年齢	顯微鏡的診斷	大 小 及 性 狀
1		纖維筋腫	過人頭大橢圓形ニシテ、表面滑澤、稍硬シ。剖面實質ニシテ灰白色ヲ呈ス。
2	35	筋纖維腫 (妊娠4ヶ月)	小鶏卵大ノ硬キ腫瘤ハ尋常大ノ右側卵巢ノ遊離端部ヨリ短キ莖ヲ以テ連ル。腫瘤剖面雪白色ニシテ硬度一般ニ硬シ。

顯微鏡的所見

第1例ニテハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ、皮質表層ニハ核ニ乏シキ鬆粗ナル結締織アリ。van Gieson 氏法ニテハ紅染セル細キ纖維ヲ少シク混セルモノアレドモ、一般ニハ太キ纖維多シ。「ズダン III 染色標本ニテハ瀰漫性ニ微細ニシテ黄赤色ニ染メル「リボイド」顆粒ヲ沈着ス。鍍銀標本ニテ此部ニハ太キ褐染纖維ヲ以テ緻密ナル纖維層ヲナセル部モアリ。而シテ其一部ハ顆粒狀沈着ヲ示ス。

其他ノ部ニハ桿狀ノ核ヲ有スル細長キ細胞ト多數ノ結締織纖維トヨリナリ van Gieson 氏染色法ニテハ桿狀核ヲ有シ、帶褐黄色ニ染メル原形質ヲ有スル筋纖維ト結締織トノ混セルヲ認メシム。「ズダン III 染色標本ニテ微細顆粒狀ノ「リボイド」ノ沈着ヲ認メシムルモノト全ク之ヲ認メシメザルモノトアリ。又或細胞ニハ滴狀ノ大ナル「リボイド」ヲ沈着セルモノアリ。

鍍銀標本ニテハ、腫瘍中ニハ太キ褐染纖維間ニ稍細キ纖維ヲ混セルモノアリ。一般ニ纖維ハ顆粒狀沈着ヲ示シ、膨化セリ。

第2例ニテハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ、纖維筋腫殊ニ結締織纖維ハ太ク膨化シ、束狀ヲナシテ種々ノ方向ニ走レルモ、硝子樣變性ヲ示セリ。van Gieson 氏法ニテハ紅染セル太キ結締織ノ間ニ纖維ヲ少シク認メシム。所ニヨリ Russel 氏小體ノ集在ヲ見ル。

鍍銀標本ニテ纖維腫ノ部ニテハ細キ黒染纖維ヲ少シク混セル太キ褐染纖維束アリテ、種々ノ方向ニ走ル。一部ハ甚シク膨大肥厚セルモノアリ。格子狀纖維ヲ認メシメズ。「リボイド」沈着無シ。

血管 第2例ニテハ小ナルモノ少シク認メラレ、第1例ニテハ所々ニ小ナルモノアリ。

卵巢固有組織 第1例ニテハ認ムル事ヲ得ザルモ第2例ニテハ有莖性腫瘍ナルヲ以テ、他ノ健全部卵巢ニハ胚上皮細胞、妊娠主黃體、小黃體、小ナル發育濾胞、閉鎖濾胞等アリ。斯ル部ノ血管ハ稍壁ノ肥厚及硝子樣變性ヲ示セリ。

考 按

纖維筋腫ハ纖維腫ヨリモ一層稀有ナルモノニテ、Basso (1904)⁽¹¹⁾ハ文獻上45例ヲ蒐集シ得タリト言フ。而シテ安藤⁽⁶⁾ハ筋纖維ノ結締織ヨリ多量トナリ。子宮筋腫ノ如クナルコトアリト言ヘリ。Feis (1894)⁽²¹⁾ハ38歳ノ婦人ヨリ手術的ニ別出セル鵝卵大ノ卵巢腫瘍ヲ組織的ニ觀タルニ、增生セル結締織纖維ノ間ニ多數筋纖維ヲ見タル纖維筋腫ノ1例ニ就テ記シ、本腫瘍ノ卵巢性ノモノナル事ハ上皮ヲ有セル Graaf 氏濾胞ノ存在ニヨリテ證セラルト言ヘリ。

余ノ檢索セル2例ニアリテハ、1例ハ纖維筋腫ニシテ、他ノ1例ハ筋纖維腫ト稱シ得ベキモノニシテ、妊娠ニ合併セシモノナリ。本腫瘍ニ於ケル筋纖維ノ由來ニ就テハ諸説未ダ一定セザルガ如シ。而シテ本腫瘍ノ頻度ニ關シテハ、卵巢腫瘍中極メテ稀有ナルモノニシテ、文獻ニヨルニ其ニ就テ記セルモノハ上述數氏ヲ出デザルガ如シ。而モ氏等ハ只一般形態學的記載ノミニシテ、間質殊ニ格子狀纖維ニ就テ記セルモノ無シ。

余ノ例ニテハ鍍銀標本ニテ纖維腫ノ部ニテハ太キ褐染セル膠基纖維ヨリナリ、筋組織ヲ混セル部ニアリテモ、一般ニ太キ帶褐黒染纖維ニシテ、纖細ナル格子狀纖維ヲ認メシメズ。而シテ纖維ハ肥厚變性シ、顆粒狀沈着ヲ示セルモノ多シ。

第九節 皮様囊腫(囊狀畸形腫)

肉眼的所見

検査番號	年齢	腫瘍ノ大サ(種)及性状	臨床的記載ノ大略
1	13	左側卵巣 14.0-15.0-15.0 單房性ニシテ内ニ帶黃白色ノ潤澤セル液ヲ容ル。囊胞壁ノ一部ニハ約胎兒手拳大ノ突出セル腫瘍ヲ認メシム。該腫瘍ノ一部ハ硬ク、一部ハ鞏ニ觸レ、表面ニハ帶黃白色ノ汚穢脂肪様物質ヲ附着シ、短キ毛髮ノ發生ヲ認メシム。	左側子宮附屬器別出、月經來潮セズ。手術2日前腹膜炎症狀ヲ訴ヘ、盲腸炎ノ診斷ノトニ開腹手術セルニ、左側卵巣ヨリ發生セル腫瘍ニシテ莖捻轉(180度)シ、腹腔臟器ト癒着セリ。
2	21	1 側卵巣ハ過小兒手拳大ニシテ、表面滑澤、橢圓形ヲ示セリ。剖面小囊胞ヲ以テ蜂巢狀ヲ示シ、粟粒大乃至次粟粒大ノ白色骨様ノ硬キモノアリ、切り難シ。其一部ニ毛髮ノ發生ヲ認メシム。	病歴不詳。
3	31	左側卵巣 1.2-1.5-1.0 小囊胞多數ニアリ。一部ニハ石様ニ硬キ物質アリ。	大正15年3月左側卵巣切除。最終月經第1日ヨリ10日目。
4	24	右側卵巣ハ過人頭大、單房性ニシテ、内ニ稀薄透明ノ液ヲ容ル。囊胞内壁ノ一部ニハ扁平ニシテ、凹凸不平ノ硬キ小腫瘍アリ。少數ノ短キ茶褐色ノ毛髮、骨質齒牙アリ。又他ノ部ニハ粗糙ノ組織アリ。	右側喇叭管、卵巣別出。最終月經第1日ヨリ10日目。手術時左側卵巣尋常。
5	41	腫瘍ハ約小兒頭大(15種大)、單房性、黃白色微濁ノ液ヲ容ル。内壁ノ一部ニハ稍扁平ナル小兒手拳大ノ凹凸不平ノ腫瘍ヲ認メシム。其硬キ顆骨様ヲ示セルモノ、一部ニハ5個ノ齒牙(門齒3個、犬齒2個)ヲ有シ、他ノ部ニハ短キ褐色ノ毛髮ノ發生ヲ認メシム。腫瘍ハ喇叭管及廣韌帶ヲ以テ莖トナシ、180度右ニ廻轉ス。大綱及附近ノ臟器ト癒着セリ。	喇叭管内腔ニハ暗赤色ノ血液ヲ充セリ。左側上腹部ニ兒頭大ノ腫瘍ヲ訴ヘ、左側喇叭管卵巣ヲ別出セリ。手術當時妊娠第6ヶ月ナリ。
6	35	右側卵巣ハ小兒頭大、單房性、内ニ黃色透明ノ液ヲ容ル。固定後ハ黃色澄明ナル脂肪ニ化セリ。黑色乃至褐色ノ短キ毛髮ヲ有セル扁平ナル硬キ大人耳翼大ノ腫瘍ヲ認メシム。	右側喇叭管卵巣別出。最終月經第1日ヨリ10日目は手術。
7	32	右側卵巣腫瘍ハ單房性ニシテ、壁非薄ニシテ小兒頭大ナリ。汚穢稀薄水様ノ液ヲ容ル。一部ニ毛髮ヲ少シク有セル骨様ニ硬キ部アリテ、1個ノ犬齒發生ヲ認メシム。	昭和3年11月右側喇叭管卵巣別出。昭和2年2月ヨリ下腹部ニ手拳大ノ腫瘍ヲ觸ル。左側子宮附屬器ハ尋常。
8	27	左側卵巣ハ手拳大、單房性ニシテ、内ニ透徹澄明ノ液ヲ容ル。壁ノ一部ニ鬆粗ナル毛髮アリ。	双胎妊娠第10ヶ月。

顯微鏡的所見

腫瘍實質突起

第1例ニテハ内腔ニ突出セル硬キ腫瘍部ニ在リテハ、表層ハ「エオジン」ニ赤染セル重層扁平上皮ヲ以テ被覆セラレ、其下部結締織中ニハ所々ニ毛髮ヲ有スル毛嚢ノ切口、多數ノ皮脂腺、軟骨組織アリ。又此部ヨリ稍隔リタル囊壁ノ厚キ部ニアリテハ菲薄ナル重層扁平上皮層ニテ被ハレ、下部ハ卵巣固有結締織ニ續ケリ。第2例ニテハ間質結締織中ニハ單層乃至數層ノ圓柱上皮ヲ以テ被覆セル4.2耗大ノ1囊胞ト之ニ接シテ内面凹凸不平ノ高キ單層ノ毳毛圓柱上皮ヲ以テ被ヘル中等大ノ囊胞アリテ、核ハ基底部ニ存シ、上方ニハ大小ノ空泡ヲ有ス。其他小囊胞及上皮下ニハ小ナル圓形ノ核ヲ有スル小細胞密集シ、僅ニ纖維物質ヲ有シ、此間ニ單層圓柱上皮ヲ以テ被ヘル腺様ノ小ナル内腔ヲ有スルモノ多數ニアリ。其細胞核ハ圓形ニシテ、原形質ハ「エオジン」ニ濃染セルモノ又ハ淡染シ、空泡ヲ作ル。「ズダンIII染色」ニテハ上皮細胞中ニハ核ノ上下端ニ多數ニ微細ノ「リポイド」顆粒ヲ認メシメ、部位ニヨリテハ上皮下ノ間質小細胞中ニモ微細顆粒アリ。深部ニハ van Gieson 氏法ニテ黃味ヲ帶ベル筋纖維束ヲ少シク認メシム。斯ル部ハ胎生期ノ子宮粘膜炎ノ所見ニ似タリ。鍍銀標本ニテハ此部ノ粘膜炎ハ細キ格子狀纖維ヲ少シク認メシム。

此ノ外ニ軟骨組織アリ。圓形、橢圓形又ハ紡錘形ノ核ヲ有シ、軟骨基質ハ「エオジン」ニ淡赤色ニ染リ、

軟骨膜ニハ扁平ナル核ヲ有スル細胞緻密ニ存ス。「ズダン III 染色ニテ軟骨細胞ニハ黄赤色ニ染レル微細顆粒ヲ僅ニ沈着セリ。鍍銀標本ニテ軟骨基質ニハ顆粒狀沈着ヲ示セルモ、纖維ハ認めラズ。

3例(第1, 3, 6ノ各例)ニテハ一部ニ骨組織アリ。骨組織ノ中間ニハ鬆粗ナル組織アリテ、茲ニハ大ナル細胞混在ス。殊ニ第3例ニテハ骨ハ層狀ヲナシ、Iaver氏管ヲ有シ、中心部ニハ骨髓ノ一部ヲ認めシム。此部ニハ「リボイド」顆粒ヲ少シク沈着セルモ、骨細胞及骨梁ニハ認めラズ。又一部ニハ胚狀細胞ヲ有スル單層圓柱上皮ヨリナル小囊胞數個集團ヲナシテ存セリ。

第6例ニテハ皮脂腺及軟骨等ノ密集セル一部ニ、甲狀腺ニ酷似セル組織アリ。「ヘマトキシリン」・「エオジン染色ニテハ單層ノ圓柱上皮ヲ以テ被覆セル小ナル管腔様ノモノ多數ニアリテ、内ニ「エオジン」ニ赤ク無構造ニ染レル物質ヲ容ル。上皮細胞ハ「クロマチン」ニ富ミ、「ヘマトキシリン」ニ濃染シ、原形質ハ「エオジン」ニ赤染ス。管腔ノ間ニハ核ニ富メル結締織アリテ、所々ニ小ナル血管ヲ認めシム。皮脂腺ヨリ下部組織ノ一部ニ原形質ニ富ミ、透明ナル大ナル細胞ノ被覆アル小管腺ノ集レルモノ(所謂粘液腺)及原形質ノ「エオジン」ニテ赤ク淡染セル細胞ノ被覆アル小管腺(漿液腺)ヨリナリ、口腔唾腺ノ構造ニ酷似セリ。此部ノ多數ノ皮脂腺下ノ結締織中ニハ單層ノ大ナル圓柱上皮ヲ以テ被覆セル小ナル管腔様ヲ呈スルモノアリ。細胞核ハ基底部分ニ存スルモノモアリ。原形質中ニハ「エオジン」ニ赤染セル顆粒狀ノ物質ヲ多量ニ認めシム。内腔ニハ無構造ニ赤染セル物質ヲ容レタルモノアリ。又結締織中ニ所々ニ索狀又ハ集團ヲナシテ、神經組織ヲ認めシム。即チ大小不同ノ定型ノ神經節細胞及神經纖維ヲ多數ニ認めシメ、細胞ノ原形質ニ富ミ、「エオジン」ニ赤染シ、蜂窠狀ヲ示セル大ナル核ヲ有シ、中ニ小ナル核小體ヲ有ス。細胞ノ周圍ニハ「クロマチン」ニ富メル橢圓形ノ核ヲ持テ爾被膜細胞アリ。周圍ハ結締織ニテ圍繞セラル。而シテ此一部ニハ束狀ヲナセル神經纖維ヲ多數ニ認めシム。鍍銀標本ニテハ節細胞ノ間質中ニハ褐色セル太キ纖維アリテ、周圍ヲ多少圍繞シテ存ス。格子狀纖維ヲ認ムル事ヲ得ズ。又一部ニハ重層上皮(一部毳毛圓柱上皮)ヲ以テ被覆セラレ、皺襞狀ヲナセル大小ノ管腔ヲ有シ、周圍ハ結締織ニテ包マレ、所々ニ扁平ナル軟骨組織及甲狀腺組織等ヲ有スル像ヨリ推シテ、喉頭及氣管ヲ考ヘシムル呼吸器系統ノ一部ヲ認めシム。又脂肪様物質ヲ容レタル拇指頭大ノ囊胞ノ内壁ハ「ヘマトキシリン」・「エオジン染色ニテ無構造ニ赤染シ、細胞成分ヲ認めシメズ。鍍銀標本ニテハ纖維ハ膨化シ、肥厚シ、顆粒狀沈着ヲ示セル事強シ。

5例(第2, 3, 4, 6, 7ノ各例)ノ皮様囊胞ノ内面ニハ重層扁平上皮ヨリナル表皮層アリ、所謂眞皮組織中ニハ中等度ニ發育セル皮脂腺及毛囊等多數ニアリ。皮脂腺及毛囊上皮中ニハ多量ニ「リボイド」沈着ス。殊ニ第4例ニテハ脂肪組織多シ(「ズダン III 染色ニテハ黄赤色「ニールブラウスルファート」ニテハ青藍色、乃至紫青色、紅色、紫色等)。又軟骨組織ノ附近ニハ皮脂腺多數ニアリ。又小ナル圓形ノ核ヲ有セル圓柱上皮ヲ以テ小管ヲ作り、汗腺ニ酷似セリ。第6例ニテハ眞皮ノ結締織ノ部ハ鍍銀標本ニテ太キ褐色纖維ヲ以テ毛囊等ヲ圍繞セルモ、格子狀纖維ハ認めラズ。第5例ニアリテハ腫瘤壁ハ重層扁平上皮ニテ被覆セラレ、毛囊、皮脂腺、脂肪組織等アレドモ、組織ハ一般ニ「ヘマトキシリン」・「エオジン染色ニテ核染色惡ク、漸變性ニ顆粒狀ニ赤染セル部多シ。而シテ其硬キ部ハ骨組織ニシテ、軟部組織ハ一般ニ變性ス。彈力纖維ハ間質中ニハ僅ニ數條ヲ認め得ルノミニシテ、血管壁ノ纖維ハ顆粒狀ニ變性セリ。

第7例ニアリテハ、表皮下結締織中ニ「エオジン嗜好顆粒ヲ多量ニ有スル細胞多數ニ群在又ハ散在セル部アリ。「ズダン III 染色標本ニテハ間質結締織中ニハ「リボイド」ヲ有スル細胞ヲ少シク認めシム。第4例ニテハ腫瘤ノ一部ニハ單層ノ毳毛圓柱上皮ヲ以テ被ハレ、一部ニハ圓柱上皮ヲ以テ被覆セラレ、子宮粘膜炎ニ酷似セリ。「ヘマトキシリン」・「エオジン染色ニテ小ナル圓形ノ細胞ニシテ、核ハ「クロマチン」ニ富ミ、

「ヘマトキシリン」ニ濃染シ、基底部ニ存セリ。胚狀細胞モアリ。上皮中ニハ「リポイド」顆粒無シ。斯ル部ノ上下中間質ニハ小ナル圓形ノ核ヲ有スル小細胞密集シ、間ニ子宮腺様ヲ示セル小管狀物アリ。「リポイド」沈着無シ。鍍銀標本ニテハ極メテ纖細ナル格子狀纖維ノ密網ヲナシ、殆ド該細胞個々ヲ圍繞ス。Weigert氏法ニテハ一般ニ幼若ナル彈力纖維ヲ僅ニ認メシムル部ト該纖維ノ多數ニ密集セル部トアリ。他ノ一部ニハ核ニ乏シキ結締纖維アリテ、鍍銀標本ニテハ鬆粗ナル網ヲナセル細キ格子狀纖維アリ。而シテ其一部ニハ直ナル纖維トシテ又ハ分岐シ、此間ニ散在性ニアル太キ束狀ヲナセル膠基纖維ニ連レリ。此ノ網眼中ニハ圓形ノ小細胞ヲ少シク認メシム。第6例ニアリテモ胎生期的幼若ナル小圓形細胞ノ密集セル部ニ在リテハ、鍍銀標本ニテ纖細ナル格子狀纖維ノ密網ヲナセル部アリ。周圍ノ纖維ハ波狀ヲ示セル太キ褐染纖維ニ移行ス。第5例ニテハ核染色悪ク「エオジン」ニ顆粒狀ニ赤染セル部ニアリテモ、鍍銀法ニテハ組織ノ種類ニヨリテ異レルモ、多クハ纖維ハ膨化シ、顆粒狀沈着ヲ示セリ。部位ニヨリテハ極メテ細キ格子狀纖維ノ密網ヲナシ、其網眼中ニ小ナル細胞ヲ容ル、部アリ。膠基纖維ハ褐染シ、膨化シ、少シク顆粒狀沈着ヲ示シ、皮質表層中間質中ニハ顆粒狀沈着ヲ示シ、膨化變性セル帶黒褐染纖維アリ。第6例ニテハ皮様囊種各組織中間質ノ格子狀纖維及膠基纖維ハ一般ニ稍膨化シ、顆粒狀沈着ヲ示セリ、而シテ小ナル腺管ノ間ニハ纖細ナル黒染纖維アリ。皮脂腺ノ周圍ニハ顆粒狀沈着ヲ示シ、膨大セル褐染纖維アリ。

間質組織 (實質突起以外)

第1例ニテハ囊胞壁ノ間質結締纖維ハ少シク鬆粗ニシテ、核染色一般ニ良好ナリ。所々中間質中ニ廣ク出血セル部ヲ認メシム。部位ニヨリテハ僅ニ幼若結締細胞ヲ有シ、網狀ノ結締纖維ヲ認メシムル鬆粗ナル部アリ。第2例ニテハ皮様囊種固有ノ組織中間質結締纖維ハ一汎ニ鬆粗ニシテ其他ノ例(第3, 4, 6ノ各例)ニアリテモ、間質組織ハ一般ニ鬆粗ナリ。殊ニ第4例ニテハ鍍銀標本ニテ波狀ヲ示セル太キ褐染纖維多クシテ、格子狀纖維無シ。所ニヨリテハ其一部ニ纖細ナル格子狀纖維ヲ多數ニ混セル部ヲ認メシム。深部皮質中間質ニテハ一般ニ膨化セル太キ膠基纖維ニシテ、所々ニ細キ褐染乃至黒染纖維ヲ混セルモ、腫瘤固有ノ組織ト接セル部ニテハ鬆粗ナル太キ褐染纖維ニシテ、漸次腫瘤ノ間質ニ移行ス。又他ノ3例(第6, 7, 8ノ各例)ニアリテハ一般ニ帶褐黒染シ顆粒狀沈着ヲ示セリ。

彈力纖維

一般ニハ中間質中ニハ彈力纖維認メラザルモ、2例(第4, 7例)ニテハ腫瘤ノ一部表皮下ノ結締織中ニハWeigert氏法ニテ極メテ纖細ナル黒染纖維多數ニ網狀又ハ索狀ヲナシテ存セルヲ認メシム。

血 管

6例(第1, 3, 4, 6, 7, 8ノ各例)ニテハ卵巣固有中間質結締織中ノ血管腔ハ擴張シ、血球ヲ充セルモノ多クケドモ、第2例ニテハ略尋常ナリ。第5例ニテハ強度ノ牽捻轉ヲ來シ、卵巣ハ壞死ニ陥ル事強キヲ以テ、血管壁ハ中間質結締織ト共ニ變性シ、壁ノ構造明ナラズ。

卵巣固有組織

第1例ニテハ囊胞壁ノ厚キ部ニアリテハ胚上皮ハ認メラレズ。皮質中間質中ニハ原始濾胞、Graaf氏濾胞、發育濾胞及數個ノ第1期閉鎖濾胞(4乃至5耗大ノ濾胞ニシテ、内外莖膜層ニハ血管擴張シ、血球ヲ充シ、一部ニ出血ス)アリ。第3例ニテハ多數ノ原始濾胞。第3期退行黃體。5個ノ發育濾胞、白體、第2期及第3期ノ閉鎖濾胞等アリ。第6例ニテハ腫瘤部ヨリ隔リタル他ノ部ニ在リテハ多數ノ原始濾胞、發育セル小濾胞及白體等ヲ認メシム。又第7例ニテハ第3期閉鎖濾胞、原始濾胞及少數ノ白體アリ。第8例ニテハ小黃體ヲ1個認メシム。3例(第2, 4, 5ノ各例)ニテハ固有組織ヲ認メシメズ。

考 按

畸形腫トハ其範圍ヒロク、複雑ナルモノハ胎生兒ニ於ケル内・外・中三胚葉ノ成生物ヨリナル腫瘍ニシテ、往々胎兒腫(Embryom)ト呼バル、モ、是等ノ命名ニ關シテハ識者間ニモ種類異議アル所ナリ。余ハ便宜上囊狀畸形腫(皮様囊腫)ト充實性畸形腫(單ニ畸形腫ト稱セラル、モノ)トノ二種類ニ分チ、茲ニハ主トシテ囊狀畸形腫ニ就テ記ス事トス。

頻 度

全卵巣腫瘍ニ對スル本腫瘍ノ100分率ハ歐洲人ニテハ平均10%ナルモ、日本人ニテハ平均20%ナリト言ハル⁽²⁰⁾。Strassmann⁽¹⁷⁶⁾ハ一般ニ畸形腫ハ白哲人種ヨリモ、他人種ニ多數ナリト言ヘリ。今各報告者ノ本腫瘍ニ就テノ100分率ヲ觀ルニ、

Zweifel ⁽²⁰⁰⁾	5.7%	Fehling ⁽²⁰⁾	7.1%	Fritsch ⁽³²⁾	8.99%
Schauta ⁽¹⁵³⁾	9.6%	Martin ⁽⁹³⁾	9.7%	Lippert ⁽³⁷⁾	10.35%
Pfannenstiel ⁽¹²⁹⁾	11.0%	Mühlenbein ⁽¹⁰³⁾	11.0%	Segalowitz ⁽¹⁵⁶⁾	12.67%
Stauder ⁽¹⁷⁰⁾	8.81%	Leopold ⁽⁸⁴⁾	0.8%	山田 ⁽¹⁹⁷⁾	11.6%
吉田 ⁽¹⁹³⁾	12.0%	緒方 ⁽¹¹⁴⁾	17.45%	佐藤(松) ⁽¹⁴⁸⁾	23.0%
佐藤(勤) ⁽¹⁴⁹⁾	23.37%	池田 ⁽⁵⁷⁾	25.0%	山崎 ⁽¹⁹⁶⁾	34.97%

ナリト。

定型的皮様囊腫ハ球狀ニシテ常ニ單房性ナリ。多クノ場合卵巣ハ全部腫瘍ニ變化スルモ、壁ノ一部ニ卵巣實質ヲ見ルコトアリ(5例)。而シテ一側卵巣ニ1個ノ囊腫ノ發生スルヲ常規トスルモ、稀ニ同一卵巣ニ數個又ハ其以上ヲ見ルコトアリト稱セラル。Hofmeier⁽⁴⁹⁾ハ一側ニ4個、他側ニ7個ノ分離セル皮様囊腫ヲ見タリト言フ。Bandler(1900)⁽⁹⁾ハ一側卵巣ニ多數ノ皮様囊腫ヲ發生セルモノニ就テ記セリ。

Franqué⁽²⁹⁾ニ據レバ、一側11個、兩側21個ノ本腫瘍ノ發生セルモノアリタリト言フ。余ノ檢セシ範圍ニテハ、本囊狀畸形腫ハ常ニ一側卵巣ニ1個在ルノミニシテ、上述ノ如キ多數ノ發生ヲ認メザリキ。

本腫瘍ニ最モ獨特ニシテ而モ每常認メ得ラル、モノハ、特異ナル内容ト獨特ノ組織成分ナリ。

内 容

囊胞ノ内腔ヲ充セル内容ハ體溫ニテハ半流動性ニシテ、濃厚ナル油狀又ハ粥狀ヲナセドモ、剔出後室溫ニテ容易ニ凝固シ、「バター」又ハ「ワゼリン」様ノ固形體ニ變ズル性アリ。主要ナル成分ハ「リポイド」、剝離セル上皮、破壊産物ニシテ、安藤⁽⁶⁾ハ時トシテ「ヒョレスチリン」結晶ヲ見ルコトアリト言ヘリ。又稀ニ脂肪球ヲ容ル、コトアリ(Rokitansky⁽¹⁴²⁾, Schröder⁽¹⁶⁴⁾, 安藤⁽⁶⁾)。Schröder⁽¹⁶⁵⁾ハ表皮、Brunner氏腺ヲ有スル十二指腸萌芽、筋、骨等ヲ有スル三胚葉ヨリナル皮様囊胞ノ一内壁ニ膽石ニ酷似セル不正形ノ結石ヲ多數ニ有セルモノヲ觀タル事ヲ記セリ。齋藤⁽¹⁵³⁾ハ9例ノ卵巣皮様囊腫ノ内容物ニ就テ記シ、通常卵巣皮様囊腫ノ内容ハ旺盛ナル皮脂腺ノ分泌瀦溜液ナリ。汗腺モ屢存スルモノ内容ニ影響ヲ及ボス程有力ナルモ

ノニ非ズト言ヒ, Plenz⁽¹³⁴⁾ハ皮様囊胞内ノ脂肪球ノ發生ニ就テ記セリ。即チ斯ル脂肪球ハ Mundé (1877), Rokitsansky⁽¹⁴¹⁾, Rauth⁽¹³³⁾, Fenger⁽¹⁹⁾等ニヨリテ觀察セラレタルモノニシテ, 氏ノ例モ之ニ酷似セリ。皮様囊胞内ノ脂肪球ノ發生ニ向ツテハ莖捻轉ニヨリ鬱血浮腫ヲ起スカ又ハ單ナル囊胞ノ破裂ニヨリ漿液性液體ノ侵入ガ必要ナル條件ヲナスト言ヘリ。又 Dietrich u. Kellendonk⁽¹⁶⁾ハ其球狀物形成ニ就テ記セリ。

實質突起及其成分

内容ヲ除去セバ腫瘍ノ内面ハ大部分ハ全ク滑澤ナレドモ, 常ニ其一部ニ毛髮ヲ有スル實質突起アリ。實質突起ノ形及大サハ其組織成分ノ如何ニヨリテ一様ナラザルモ, 多クハ不恰好ナル指頭形ニシテ, 約拇指頭大ヨリ鶏卵大マデナリ(第1例ハ鶏卵大ノ圓柱狀ノ突起ヲ示セリ)。或モノニテハ只囊胞ノ一部ニ1個ノ齒牙突起ヲ認メシメタル外ニ實質突起ヲ認メシメザルガ如キモノモアリ(第7例)。又稀ニ平板狀(第8例)ナルアリ。如斯囊狀畸形腫ニ在リテモ, 大サ形狀, 性狀等各例ニヨリテ多種多様ナルハ言フ俟タズ。

安藤⁽⁶⁾ハ腫瘍實質タル突起ハ殆ド生理的排列ヲナセル三胚葉ノ生成物ヲ藏シ, 胎兒ガ卵巢内ニ寄生セルガ如キ状態ニアリ。故ニ Wilms ハ卵巢寄生物ト呼ベリト稱セリ。最モ普通ニ見ルハ外胚葉ニ屬スル皮膚毛髮, 齒牙等ニシテ, 尙中胚葉ニ屬スルモノハ骨, 軟骨及結締組織アリ。内胚葉生成物ハ寧ロ稀有ナルモノナリ。

是等臟器又ハ組織ハ既ニ肉眼的ニ明ニ認メ得ルモノ多キモ, 組織的檢査ニ於テ始メテ證明セラル、モノモ少カラズ。安藤⁽⁶⁾ハ實質突起ヲ被包スル皮膚ハ頭蓋皮膚ニ相當スル組織的所見ヲ有シ, 殊ニ著明ナルハ皮脂腺ノ旺盛ナル發育ナリト言ヘリ。余ノ例ニテモ, 各例ニヨリテ夫々異レルモ, 毛髮ハ或ハ緻密ニ或ハ粗ニ生ゼリ。即チ皮脂腺及脂肪組織ハ突起腫瘍ノ大部分ヲナス。實質突起ノ齒牙ヲ有スル頻度ニ關シテハ Lebert⁽⁸²⁾(129例中63例), (Pauly⁽¹²⁸⁾(245例中46例), Gebhard⁽³⁹⁾(107例中27例), Hoffmann⁽⁵¹⁾(36例中8例), Steinhoff⁽¹⁷²⁾(23例中16例)等ノ記載アリ。附着ノ状態トシテ安藤⁽⁶⁾ハ齒槽中ニアルハ少ク, 結締織中ニ包マルモノ多シト言ヘリ。

余ノ例ニテモ或ハ硬キ骨組織所謂齒槽中ニ存シ, 或ハ直接結締織中ニ在ルモノアリテ, 一定セザルガ如シ。齒數ハ多クハ1個又ハ數個ナルモ, 時トシテハ多數ニシテ, 32本ヲ越ユルコトアリト。即チ Cleghorn (44個)⁽¹⁴⁾, Ploucquet-Autenrieth (300個以上)⁽¹³²⁾等ノ報告アリ。最モ普通ニ見ルハ永久齒ニシテ, 少數ニ於テハ永久齒ト乳齒トヲ混ズル事アリ。Steinhoff^(前出)ハ23例ノ卵巢畸形腫内ノ齒牙ニ就テ詳細ニ記セリ。

此外肉眼的の又ハ顯微鏡的ニ屢實見セラレタル成分ハ喉頭, 氣管, 爪ヲ有スル手指, 肋骨, 肩胛骨, 鎖骨, 脊椎骨, 軟骨, 眼球原基, 内耳原基等アリト(安藤ニヨル)。

又腺組織トシテハ皮脂腺, 汗腺, 甲狀腺, 唾腺, 乳腺, 胃, 腸, 神經組織(各特異ノ神經細胞ヲ有スル大脳, 小脳及脊髓)等アリ。而シテ稀ニ腎, 肝, 脾ノ組織ヲ認メタルモノアリト。

余ハ1例(第6例)ニ於テ甲狀腺組織ノ存在ヲ認メ得タリ。

外生殖器ヲ觀タルモノアレドモ、未ダ生殖腺及卵膜ヲ見タル者無シ(安藤ニヨル)。Emanuel (1893)⁽¹⁸⁾ハ15歳ノ處女ニテ一部腫瘍中ニ卵巢原基タル原始濾胞及 Graaf 氏濾胞ヲ觀タリト記セリ。

就中最モ多キハ一般ニ胎生期の發育ノ旺盛ナル身體上部殊ニ頭部ニ屬スルモノニシテ、最モ普通ナルハ頭髮ヲ有フル皮膚ニ次デ脂肪組織ヲ有シ、顔面部及頸部ノ臟器之ニ亞グ。下半身ニ屬スル臟器ハ極メテ稀ナリト稱セラル。文獻ニヨレバ Répan (1892)⁽¹³⁹⁾ハ全骨格系統ヲ有スル不完全ナル胎兒基質ヲ見タリト言ヒ、Flaischlen (1881)⁽²⁴⁾ハ皮様囊腫ニテ共一部ニ毳毛上皮ト扁平上皮トノ移行セルモノニ就テ記セリ。又 Bandler (1900)⁽⁹⁾ハ皮様囊腫ノ實質突起中ニ Wolff 氏管及 Wolff 氏體ニ酷似セルモノ、胃粘膜ニ酷似セル腺像ヲ呈スルモノ、乳腺様ノモノ、Lieberkühn 氏腺ニ酷似セルモノ、排泄管ヲ有スル腺管、甲狀腺ニ酷似セルモノ、絲毳腺、「グリヤ組織ニ酷似セルモノヲ認メ得タリト稱セリ。Neumann⁽¹¹⁰⁾ハ61歳ノ老年婦人ニテ兩側卵巢ハ尋常ニシテ、第三卵巢ヨリ生ジタル皮様囊腫ニ就テ記シ、本腫瘍ハ大人頭大ノ囊胞ヲ形成シ、其一部ニ惡性腫瘍(肉腫)並ニ石灰沈着ヲ觀タリト報告セリ。Emanuel (1893)⁽¹⁸⁾ハ15歳ノ處女ニテ卵巢畸形腫ヲ來セルモノヲ報告セリ。其一部ニハ肉腫様變性ヲ示セリト言ヒ、尙卵巢胎兒腫ニ就テハ Offergeld⁽¹¹²⁾ハ卵巢胎兒腫中ノ臟器萌芽ニ就テ記シ、其他胎兒腫ニ就テハ Strassmann (1900)⁽¹⁷⁵⁾、Yamagiwa (1897)⁽¹⁸⁴⁾等ノ記載アリ。Yamagiwaハ63歳及41歳ノ婦人ニ就テ皮様囊腫ノ原發性病腫變性ヲ來シ、他臟器ニ轉移セルモノニ就テ記セリ。又 Neuhäuser (1906)⁽¹⁰⁶⁾ハ卵巢畸形腫瘍ノ2例ニ就テ報告セリ。

上述セル如ク畸形腫ニ在リテハ種々ナル臟器ノ存在ヲ認メラル、ニ至レリト雖、女性生殖器ニ關スル文獻ニ至リテハ極メテ少ク、内生殖器ニ屬スルモノトシテハ Emanuel^(前註)ノ卵巢原基ノ報告アルノミニシテ、子宮ノ所見ニ就テハ詳細ニ記載セルモノ無シ。余ハ上述ノ如ク、2例ニ於テ腫瘍ノ一部ニ明ニ子宮粘膜ニ酷似セルモノヲ觀タルヲ以テ茲ニ之ヲ特記ス。又1例ニ於テハ神經組織殊ニ神經節細胞ノ多數ニ群在セルモノヲ所々ニ認メシメタリ。子宮粘膜組織ニ就テハ極メテ稀有ナルモノ、如シ。

實質突起以外ノ囊胞ノ内面ハ全ク平滑ナルカ又ハ少シク粗糙ナリ。屢狹キ皺襞様ノ突起ヲ見ル。小囊胞ニテハ一層ノ骰子形又ハ扁平上皮ヲ以テ被ハル。大ナル囊胞ニテハ一部ノ上皮ヲ失フモノアリ。安藤⁽⁶⁾ハ皮膚組織ハ多クハ實質突起ノミニ局限スルモノナレドモ、甚稀ニ内面全部ガ皮膚ニテ被ハルコトアリト言ヘリ。

余ノ例ニテハ主トシテ實質突起部ニ於テハ表皮被覆アルモ、他ノ部ニテハ單層圓柱上皮ニテ被ハレタルモノ多シ。

臨床的關係

皮様囊胞ノ大多數ハ一側ニ發生ス。安藤⁽⁶⁾ニヨレバ兩側ニ發生スルモノ約10%、廣韃帶内ニ發育セルモノ6%(Ribbert)ナリト言ヘリ。

余ハ1例ニ就テ本囊胞ト妊娠トノ合併セルモノヲ觀察セリ。

年齡的關係

本腫瘍ハ何レノ年代ニ於テモ見ラル、モノナルガ、30歳乃至40歳又ハ20歳乃至40歳 (Olshausen⁽¹¹⁶⁾, 山崎⁽¹⁹⁶⁾)ニ最モ多シ。更年期後殊ニ老年ニハ甚稀有ナリ。思春期前又ハ10歳以上ノ少女ニ見ルコトアルモ、甚少數ナリ。初生兒及胎兒ニ見ルコトハ極メテ稀ナリ。山崎⁽¹⁹⁶⁾ノ77例ニ就テノ統計ニ據レバ、10歳以下1.4%, 11歳乃至15歳2.8%ナリト言ヒ、Elggenberger⁽¹⁷⁾ハ8歳ノ少女ニ大人頭大ノ腫瘍ヲ實見シ、Rössle⁽¹⁴³⁾ハ10ヶ月ノ小兒ニ葡萄實大ノ腫瘍ヲ見タリト言フ。Karczewski (1904)⁽⁶¹⁾ハ10歳ノ少女ニテ卵巢皮様囊腫ノ莖捻轉ヲ來シ、手術セル1例ニ就テ記シ、少女ニ於ケル卵巢囊腫ハ稀ナラズシテ、其多クハ皮様囊腫ナリト言ヘリ。余ノ檢セル1例ハ13歳ノ少女ニ皮様囊腫ヲ發生シ、腹膜炎症狀ヲ呈セリ。

一般ニ皮様囊腫ハ囊狀腺腫ニ於ケルガ如ク増殖性腫瘍ニ非ズシテ、寧ロ潑溜性囊腫ノ一種トモ看做ス可キモノナリ。從ツテ皮膚分泌物ノ潑溜ト共ニ極メテ徐々ニ増大スル性質ヲ有ス。續發症ヲ起サザル皮様囊腫ハ臨床上ニモ將又解剖上ニモ全ク良性ノ腫瘍ナリ。然ルニ時トシテ破壊ニヨリテ腹膜面ニ移殖轉移ヲ起スコトアリト言ハレ、稀ニハ癌腫ノ如キ惡性ニ變性スルモノアリト稱セラル事ハ上述セル所ナリ。

余ノ檢セル例ニ在リテハ其1例ハ高度ノ莖捻轉ヲ來シ、腹膜臟器ト輕ク癒着シ、一時腹膜炎症狀ヲ起セルモノアレドモ、惡性變化ヲ來セルモノハ無シ。

上述ノ如ク畸形腫ニ就テハ形態學的ニ種々微ニ入り、細ニ互リテ詳細ニ記載セラレタレドモ、他方其等腫瘍ノ間質中ノ格子狀纖維ニ就テハ未ダ報告セルモノニ接セズ。依ツテ余ハ此點ニ大ナル興味ヲ覺エ檢索セルモノニシテ、詳細ハ既述セルヲ以テ、茲ニハ只主ナルモノニ就テ記スコト、ス。第2例及第4例ノ如ク腫瘍ノ一部ニ單層ノ毳毛圓柱上皮ヲ以テ被覆セラレ、上皮下ニハ小ナル圓形ノ核ヲ有スル小細胞密集シ、其間ニ子宮粘膜腺ニ酷似セル腺樣ノモノヲ有セル組織像ヲ認メシメ、子宮粘膜ト看做サル、モノニシテ、鍍銀標本ニテ檢スルニ上皮下粘膜間質中ニハ纖細ナル格子狀纖維ヲ以テ夫々細胞個々ヲ圍繞セリ。此格子狀纖維ノ排列狀態ハ胎生初期ニ於ケル子宮粘膜ニ見ラル、格子狀纖維ニ似タリ。Hörmann⁽⁵⁸⁾, Sekiba (1924)⁽¹⁵⁷⁾等ハ人體子宮粘膜ニ就テ Bielschowsky 氏鍍銀法ヲ應用シ、子宮粘膜ノ生理及病理ニ就テ報告セリ。余モ亦卵巢ノ研究中屢胎生子宮ノ格子狀纖維ノ狀態ニ就テ觀察セリ。

皮様囊腫ノ研究ニ於テ、殊ニ類似組織發生時ニ其鑑別ニ當リテハ細胞學的檢索ニ加フルニ、間質格子狀纖維ノ構成ヲ適合セ考察スルニ於テハ、被檢組織特有ノ格子狀纖維ヲ有スルヤ否ヤヲ知り得ラル、ヲ以テ、組織ノ判定ニ對シテハ Bielschowsky 氏鍍銀法ノ應用ハヨリ正確ヲ期シ得ラル、モノナリト信ズ。

本節ニ於ケル總括

1. 囊狀畸形腫ノ實質突起ノ間質ハ一般ニ太キ膠基纖維ヨリ成リ、一部纖維ハ膨化シ、顆粒狀沈着ヲ示セルモノアリ。

2. 囊狀畸形腫ノ實質突起中ニ在ル子宮粘膜中ニハ鍍銀法ニテ極メテ纖細ナル格子狀纖維ヲ以テ緻密ナル網絡ヲ營ミ、子宮粘膜腺ノ上皮細胞ノ基底部ヲ圍繞セリ。

3. 囊狀畸形腫ニ於テ實質突起以外ノ皮質間質組織ニハ鍍銀標本ニテ一部ニ僅ニ細キ黒染セル纖維ヲ認メシムルモノアレドモ、一般ニ太キ帶褐黒染纖維ヨリナリ、膨化變性シ顆粒狀沈着ヲ示セルモノアリ。

4. 囊狀畸形腫ニ於テハ内・中・外胚葉ヨリナレル種々ノ組織ヲ認メシメ、就中外胚葉ヨリノモノ最モ多數ニ認メ得ラル。余ノ檢索セル例ニテ稀有ナルモノトシテ甲状腺・呼吸器系統・子宮粘膜・口腔唾液腺・神經節等ヲ認メシメタリ。

5. 囊狀畸形腫ノ間質中ニハ一般ニ彈力纖維ヲ缺ケドモ、或モノニテハ一部表皮下ノ結締織中ニ纖細ナル彈力纖維ノ網狀又ハ索狀ヲナセルヲ認メシム。

第十節 卵 巢 炎 症

イ、卵 巢 炎

肉 眼 的 所 見

検査 番 號	年 齡	臨 床 的 又 病理解剖上ノ診斷	卵 巢 ノ 大 サ (種) 及 性 狀
1	41	子宮筋腫、兩側卵 巢囊腫、兩側喇叭 管膿腫	兩側喇叭管ハ小指大ニ腫大シ、骨盤壁ニ癒着シ、手術時白色膿 様ノ液ヲ漏ス。左側卵巢5.5—4.3—3.0剖面1個ノ大囊胞ヲ認メ シム。右側卵巢ハ2.5—2.0—1.5剖面小囊胞數個アリ。
2	37	慢性子宮周圍炎、 兩側化膿性子宮附 屬器炎	右側卵巢3.0—2.0—1.6剖面小囊胞數個アリ。
3	50	不 詳	手掌大ニシテ、表面平滑、剖面質實ニシテ、暗赤色ノ斑ヲ所々 ニ認メシム。
4	51	左側卵巢囊腫	左側卵巢ハ約手掌大ニシテ、硬度軟、剖面質實ナリ。
5	48	肺縱隔竇石灰變性 セル肉腫、左側卵 巢腫瘍	左側卵巢ハ鶏卵大、表面稍不平、剖面灰白黄色ノ脆キ物質ヲ容 レタル腔アリ。右卵巢蠶豆大、剖面異常無シ。
6	32	子宮粘膜下筋腫	左側卵巢4.0—3.5—3.0右側卵巢ハ4.5—3.0—2.7剖面兩側共ニ 大小ノ囊胞アリ。
7	42	子宮實質內膜炎、 右側卵巢囊腫	右側卵巢ハ8.0—9.0—8.0小囊胞アリ。
8	36	結核漿液、纖維性 腹膜炎、左部分性、 右全部肋膜纖維性 癒着、左肺尖部限 局性乾酪性氣管枝 肺炎	左側2.5—1.5—0.5 右側2.5—1.5—0.5 剖面異常無シ。
9	20	左側大葉性及細葉 性肺炎、左側上葉 肺空洞形成、右側 細葉性肺炎及肺結 核、脾、肝粟粒結核	左側3.0—1.5—0.5 右側3.0—1.5—0.5 剖面限局性病竈ヲ認メシメズ。

顯 微 鏡 的 所 見

胚上皮 第5例及第9例ニテハ多數ニ存シ、第8例ニ在リテモ多數ニ認メラレ、一部皮質中ニ凹陷シ、皺襞狀ヲナセルモノアリ。「ズダンIII染色標本ニテ檢シ「リポイド」顆粒ヲ沈着セルモノアリ。又第2例ニテハ部位ニヨリテハ少シク之ヲ認メシムルモ、第1例ニテハ左右兩側共ニ認メシメズ。

間質組織

第1例ニテハ左右共ニ間質組織ハ一般ニ鬆粗ニシテ、「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテハ、結締

纖維織ノ間ニ所々ニ稍大ナル核ヲ有スル單核細胞(少數)及「エオジン嗜好顆粒」ヲ有スル細胞多數ニアリ。而モ左側卵巣ニアリテハ「エオジン嗜好顆粒」ヲ有スル細胞ハ極メテ多數ニシテ、間ニハ小圓形細胞モアリ。斯ル部ニアリテハ組織ノ染色性弱ク結締纖維モ膨化ス。殊ニ舊キ第2期黃體ノ周圍ニ於テ著明ナリ。結締纖維細胞中ニハ僅ニ「リポイド顆粒」ヲ沈着セルモノアリ。尙右側卵巣ニテハ皮質表層ニ單層圓柱上皮ノ被覆アル極メテ小ナル囊胞3個ヲ認メシム。又第2例ニテハ鬆粗ナル間質中ニハ所々ニ「ヘマトキシリン」-「エオジン」染色ニテ、核ノ濃染セル大小ノ單核細胞ト「プラスマ細胞」ノ密集セル部アリ。斯ル部ノ小血管及毛細血管ハ擴張シ、血球ヲ充セルコト強シ。又第3例ニテハ組織全般ニ亘リ核染色弱ク「エオジン」ニ顆粒狀ニ赤染シ、構造明ナラザルモ、所ニヨリ一小部分ニ「エオジン嗜好顆粒」ヲ多數ニ有スル細胞群在シ、其一部ニハ大ナル核ヲ有スル單核細胞アリ。又一部ニハ核染色惡キ單層圓柱上皮ヲ以テ被覆セル小管様ヲ呈スルモノアリ。斯ル部ノ上皮細胞ニハ「リポイド」多量ニ沈着ス。其他瀰蔓性ニ顆粒狀及滴狀ノ「リポイド」多量ニ沈着セル部アリ。而シテ第4例ノ皮質表層ニハ核ニ乏シク「エオジン」ニ赤染セル纖維アリ。囊胞壁ノ内壁ニハ顆粒狀ニ無構造ニ赤染セル物質ト核ノ萎縮セル變性細胞少シク存ス。壁ニハ單核細胞、「プラスマ細胞」、「エオジン嗜好顆粒」ヲ有スル細胞等多數ニアリ。壁ヲ構成セル結締纖維細胞ニハ黃赤色ノ滴狀「リポイド」ヲ多量ニ有ス。上述囊胞ノ内壁ニ接セル核染色惡キ部ニハ所々ニ「リポイド」ヲ多量ニ有スル大ナル細胞散在セリ。第5例(左側)ニテハ核染色極メテ惡ク、内壁ハ壞死ニ陥リ明ナラザルモ、壁ノ一部ニ「ヘマトキシリン」ニ濃染セル細長キ核ヲ有スル細胞ト結締纖維僅ニアリテ、茲ニ赤ク球狀ニ染レル大小ノ滴狀物ヲ認メシメ、其一部ハ細胞原形質ニモ認メラル(hyalintropfige Degeneration)。一般ニ瀰蔓性ニ「ズダン III 染色」ニテ黃赤色顆粒狀乃至滴狀ノ「リポイド」ヲ沈着セリ。第6例(右側卵巣)ニテハ大小種々ノ白體ハ多數ニアレドモ、卵巣固有組織ハ認メラズ。結締織間ニハ所々ニ大小ノ單核細胞、小圓形細胞及「プラスマ細胞」等多數ニ密集セル部アリ。一部ニハ Russel 氏「フクシン」嗜好小體ヲ含メル細胞モ認ム。其部ノ血管ハ稍擴張セルモノアルモ、一般ニ著明ナラズ。第7例ニテハ所々ニ單層圓柱上皮ヲ以テ被覆セル小囊胞アリ。一部ニハ稍大ナル囊胞モアリ。所ニヨリテ「ヘマトキシリン」-「エオジン」染色ニテ核染色惡ク「エオジン」ニ赤ク顆粒狀ニ染リ、健康ナル間質組織トノ境界銳利ナラザル部ニハ單核細胞アリ。又黃赤色ノ大小ノ滴狀物ヲ多量ニ沈着セル細胞群在ス。第8例(右側卵巣)ニテハ皮質表層ニハ廣キ部ニ亘リ核染色惡ク「エオジン」ニ赤染セル部アリ。此部ニハ單核細胞及小圓形細胞ノ浸潤セルモノアリ。斯ル部ニアリテハ、血管ハ擴張シ、血球ヲ充セリ。間質中所々ニ單層圓柱上皮ノ被覆アル小囊胞アリ。Weigert 氏法ニテハ皮質間質中ニハ彈力纖維無シ。「ズダン III 染色」標本ニテハ間質内所々ニ認メラル、小囊胞及管様ヲ呈セルモノ、上皮ニハ核ノ上下端ニ多量ノ「リポイド」沈着セルヲ認ム。又核染色惡キ部ノ間質細胞中ニハ「リポイド顆粒」ヲ沈着セルモノアリ。第9例(右側)ニテハ皮質表層ノ胚上皮ノ剝離セル一部ニハ幼若ナル鬆粗ナル結締織ノ突起狀組織表ハレ、茲ニハ毛細血管ハ擴張シ、單核細胞及血液ノ浸潤等ヲ示セリ。斯ル組織ヲ以テ胚上皮ノ一部ヲ被覆セルモノアリ。「ズダン III 染色」標本ニテハ間質ノ核染色少シク弱ク、出血セル部ニテハ多量ニ黃赤色ニ染着セル滴狀ノ「リポイド」沈着ス。肉芽組織ノ部ニテ核染色一般ニ弱キ部ニアリテハ瀰蔓性ニ「リポイド顆粒」沈着セリ。左側卵巣ニアリテハ皮質表層ノ一部ニ核染色弱ク、出血シ、多量ニ「リポイド」ヲ沈着セル部アレドモ、炎症性ノ所見ハ認メラズ。又右側卵巣ニテハ血管壁ノ肥厚、硝子樣變性ハ輕度ナリ。或モノニハ彈力纖維ノ肥厚變性ヲ認メシムルモノアリ。「ズダン III 染色」標本ニテハ僅ニ帶狀ニ「リポイド」沈着スルヲ認ム。Weigert 氏法ニテハ皮質間質中ニハ彈力纖維無シ。

鍍銀標本ニテハ第1例ニアリテハ左右共ニ帶褐黑染セル纖維ニシテ、纖維ハ一般ニ顆粒狀沈着ヲ示シ、

膨化、變性セリ。然レドモ左側ノ血腫形成部ノ内壁ニ近ク細キ網狀ヲナセル格子狀纖維少シクアルモ、多少顆粒狀沈着ヲ示セルモノ多シ。第2例ニテハ發育濾胞又ハ成熟濾胞ノ内莖膜層ニハ粗ナル格子狀纖維網ヲ認メシメ、間質表層上皮下ニハ太キ帶褐黒染纖維アルモ、深部殊ニ血管ニ富ミ、單核細胞等炎症性所見ノ認メ得ラル、部ニテハ、細キ黒染纖維多ク又間質中鬆粗ナル所ニ在リテハ比較的細キ黒染纖維ヲ以テ鬆粗ナル網狀ヲナセルモ他ニハ纖維ハ一般ニ太ク變性シ、顆粒狀沈着ヲ示セリ。又第3例ニテハ一般ニ表層ニハ波狀ニシテ、顆粒狀沈着ヲ示セル膨化變性セル纖維アリテ、深部ニテ核染色ノ甚シク惡キ部ニハ纖維ハ少キモ、一般ニ帶褐黒染又ハ黒染セル細キ纖維ト太キ纖維トヲ以テ鬆粗ナル網狀ヲナシ、弱廓大ニテハ纖維ナレドモ、精査スルニ顆粒狀沈着ヲ示ス。第4例ニテハ卵巢皮質表層ニアリテハ顆粒狀沈着ヲ示セル帶褐黒染纖維多數ニアリ。囊胞壁ニハ稍顆粒狀沈着ヲ示セル細キ纖維ヲ以テ上述變性セル上皮細胞ノ基底部ニ接シ圍繞ス。一般ニ纖維ハ膨化シ、太ク變性セリ。又2例(第5、第7例)ニテハ一般ニ皮質間質中ニハ太キ帶褐黒染セル膠基纖維アリテ、細キ格子狀纖維ハ無ケレドモ、「ヘマトキシリン」-「エオジン」染色ニテ核染色惡ク「エオジン」ニ赤ク顆粒狀ニ染レル部ニアリテハ細キ黒染纖維ト稍太キ纖維トヲ以テ鬆粗ナル網ヲ作レル部アリ。壞死ニ陥レル部ニアリテハ纖維ヲ認メシメズ。又第6例ニテハ間質中ニハ顆粒狀沈着ヲ示シ、太キ帶褐黒染纖維ヲ認メシメ、上述單核細胞「プラスマ細胞」等認メラレ炎症性所見ヲ表ハセル部ニアリテハ極メテ細キ格子狀纖維ヲ以テ粗網ヲナセリ。尙其一部ハ稍顆粒狀沈着ヲ示シ、膨化セルモノアリ。又皮質表層出血セル部ニハ(第8例)太キ帶褐黒染纖維アリ。小圓形細胞浸潤アル部ニテハ纖維ナル格子狀纖維ノ網狀ヲナセル部ヲ認メシムルモ、一部染色惡キ所モアリ。而シテ第9例ニテ皮質ノ表層出血シ、圓形細胞ノ浸潤セル部ニハ纖維細ナル格子狀纖維網ヲ現ハセルモ、其他ノ間質中ニハ普通一般ノ帶褐黒染纖維ナリ。

Ziehl-Neelsen 氏結核菌染色法、Gram 氏法及 I.öffler 氏「メチーレンブラウ」染色法ヲ用ヒテ細菌檢索ニ努メタレドモ、各例共ニ細菌ヲ認メシメズ。

考 按

一般ニ卵巢炎ハ細菌ノ傳染ニヨリテ惹起セラル可キモノナリト稱セラル。病原菌ノ種類及其傳染徑路ハ輸卵管炎ニ於ケルト同様ニシテ、其主要ナルモノハ淋菌ニシテ次ニ連鎖狀球菌數ヘラル。淋菌ハ多クハ上行性ニシテ、卵巢周圍炎ヲ起ス事最モ多ク、次デ濾胞中ニ侵入シ、排卵後ノ黃體內ニ侵入ス。而シテ卵巢周圍炎ヲ起サバ周圍ノ腹膜臟器ト癒着ス。而シテ組織ニハ淋菌傳染ニアリテハ「プラスマ細胞」ノ浸潤特ニ著明ナルコトアリト言ハル。又解剖上、臨床上最モ甚シキ變化ハ卵巢膿瘍ナリ。卵巢膿瘍中黃體膿瘍ハ最モ多數ヲ占メ、本膿瘍ハ Langer ニヨリテ始メテ觀察セラレタルモノニシテ、Orthmann⁽¹²⁴⁾ハ30例ノ卵巢膿瘍中21例ノ黃體膿瘍ヲ觀タリト言ヘリ。

余ノ檢セル慢性卵巢炎ノ際ニハ、原形質ニ富メル單核細胞、「エオジン」嗜好顆粒ヲ含メル細胞等多數ニ群在シ、小圓形細胞浸潤ハ比較的少シ。「プラスマ細胞」ハ或モノ(第2、第4例)ニ於テハ多數ニ認メラル、モ、一般ニ少キガ如シ。又或モノ(第5、第6例)ニハ Russel 氏「フクシン」嗜好小體ヲ認メシムルモノモアリ。

卵巢炎ニ於ケル格子狀纖維ノ記載ハ文獻ニ見出シ得ザルヲ以テ余ノ例ト比較考査シ得ザルヲ遺憾トス。松田⁽⁹⁸⁾ハ人體腎臟ニ就テ其急性ニ來ルモノニテハ格子狀纖維ノ自働的變化ノ

認ム可キ無ク殊ニ増殖及肥厚等ノ變化ヲ見ズ。僅ニ被働的障礙ヲ受クル事アルモ、其度ハ炎ノ種類ト其度ニヨリテ異レリト言ヒ、氏ハ又慢性炎ノ際ニハ鍍銀標本ニテ間質ノ肥厚増殖ヲ示セル部ニ織細ナル黑色纖維ヲ多量ニ認メ、殊ニ細尿管ノ萎小部ニ消失セルガ如キ部ハ格子狀纖維ノ増殖ト僅ニ肥厚セルヲ認メ、此部ニハ纖維網眼ハ狹シト言ヘリ。モトヨリ實質ニ富メル腎臟ト殆ド纖維物質ノミヨリナル卵巣トヲ比較考査シ得ザレドモ、參考シ得ル所多シ。

慢性卵巣炎ニアリテハ皮質間質表層ハ鍍銀標本ニテ一般ニ太キ帶褐黒染纖維ニシテ、格子狀纖維ヲ認メシメズ。而モ纖維ハ膨化肥厚シ、顆粒狀沈着ヲ示シ、變性セルモノ多シ。單核細胞、「プラスマ細胞等ノ認メラル、部ニ於テハ極メテ細キ黒染纖維ヨリナレル部アレドモ纖維ノ一部ハ顆粒狀沈着ヲ示シ、膨化セルモノアリ。又皮質間質中核染色悪ク(第7例)「エオジン」ニテ顆粒狀ニ赤染セル部及皮質表層肉芽組織ニ在リテハ、細キ格子狀纖維ハ稍太キ纖維ニ混ジテ、鬆粗ナル網狀ヲナセルモノアリ。松田^(前出)ハ病的腎ニ就テ出血ニ際シテハ稍烈シキ器械的障礙ノタメニ、纖維ハ壓迫セラレ、多少著シキ斷裂ヲ來シ、稍陳舊ナルモノニアリテハ、屢纖維ノ鍍銀法ヲ害セラル、コトアルモノナリト言ヘリ。

余ノ例ニテハ卵巣皮質表層ノ出血シ、小圓形細胞ノ浸潤セル部ニテハ織細ナル格子狀纖維網ヲ認メシムルモ、其他健康部ノ間質ニテハ帶褐黒染纖維ヲ認メシム。

ロ、結核症

検査番號	年齢	病理解剖上ノ主ナル診斷	卵巣ノ大サ(種)及性状 備考
1	26	左右肺細葉性結核症、肝・脾・腎粟粒結核、結核性軟腦膜炎及腦實質炎。右肺門部淋巴腺結核。	左 3.5-1.8-0.8 右 3.0-2.2-1.0 體重 2910瓦 身長 154釐
2	24	癒着性結核性腹膜炎、結核性腸潰瘍及肝臟炎、脂肪肝、脾結核、右肺下葉結核、氣管枝淋巴腺乾酪變性。	左 2.1-2.0-1.5 右 1.8-2.2-1.7 體重 3020瓦 身長 150釐
3	28	全身皮下水腫、肋膜炎、肺粟粒結核、結核性癒着性腹膜炎。	左 鵝卵大ノ囊胞ヲ認メシム。 體重 3375瓦
4	27	兩側子宮附屬器炎。癒着性子宮後屈症。	左 3.0-2.0-2.5 右 3.0-2.5-2.2 體格營養中等
5	25	化膿性骨盤腹膜炎及慢性結核、腸穿孔、子宮内膜結核、腸間膜淋巴腺乾酪變性、陳舊性肺結核。	癒着高度ノタメ、卵巣ノ所在明ナラズ。 體重 2920瓦 身長 150釐
6	29	乾酪性子宮内膜炎及喇叭管炎、結核性腹膜炎、輕度ノ右肺粟粒結核、左側肺細葉性結核、結核性腸潰瘍。	左 3.0-2.5-1.5 右 3.1-3.0-1.7 體重 2770瓦 身長 139釐
7	16	左側股關節結核、左右兩側乾酪性氣管枝肺炎、肺空洞形成、兩側肺粟粒結核、腎・脾結核、結核性腸潰瘍。	左 2.7-1.5-0.6 右 2.0-1.5-0.6 體重 4040瓦 身長 142釐

顯微鏡の所見

胚上皮 單層圓柱上皮ナリ。「ズグンIII染色標本ニテ「リポイド」ハ比較的の多ク沈着スルヲ認ム(第1, 2ノ各例)。第3例ニテハ表層ニハ一般ニ無キモ、皮質中ニ裂隙狀ヲナシテ凹陷セル部ニハ胚上皮ハ其表面ヲ被ヘリ。4例(第4, 5, 6, 7ノ各例)ニ在リテハ上皮ノ被覆無シ。第1例(左側)ノ表層ノ一部ニハ圓形細胞、單核細胞及多核白血球ヲ有スル鬆粗ナル肉芽組織ヲ以テ被ハレタル所アリ。此部ニハ「リポイド」沈着無シ。右側ニモ皮質表層ノ一部ニハ核染色悪ク、原形質ノ少キ小圓形細胞及原形質ニ富メル大ナル單核

細胞及白血球等アリテ、一部ニハ出血セリ。「リポイド」ヲ多量ニ沈着セル細胞アリ。

原始濾胞 第1例ニハ左右共ニ、第4例、第6例及第7例ノ健康ナルモノニハ原始濾胞多シ。上皮ニモ少シク「リポイド」沈着ス。第1例(右側)ニハ2個ノ卵胞ヲ有スル濾胞ヲ認メシムルモノアリ。第2例ノ結核性病變無キ左側卵巣ニテハ原始濾胞少シク認メラル、モ、多數ニ結核ヲ認メシムル右側卵巣中ニハ之ヲ認メシメズ、第3例ノ罹患側卵巣ニアリテモ、結核病竈下ノ皮質中ニハ數個認メラル。又第5例ニテハ皮質所々ニ殊ニ卵細胞ノ核染色佳キ原始濾胞數個アリ。

發育濾胞 4例(第1, 2, 3, 5ノ各例)ニハ發育セル濾胞ヲ認メシメザルモ、2例(第4, 6ノ各例)ニテハ左右共ニ上皮ノ數層ニ發育セル含水濾胞數個アリ。莢膜層中ニハ格子狀纖維アリテ、「ズダンIII染色標本」ニテ上皮細胞ニハ「リポイド」少キモ、莢膜細胞中ニハ多シ。

白體 5例(第1, 4, 5, 6, 7ノ各例)ニテハ左右卵巣共ニ大小ノ白體アリ。周圍間質結締織トハ境界銳利ニシテ、或モノニハ少シク細キ變性セル小結締織細胞アリ。其或モノニハ多量ノ「リポイド」ヲ沈着シ、又「ヘマトキシリン」-「エオジン染色」ニテ黃褐色ノ滴狀物ヲ含メル大ナル單核細胞アリ。Turnbells青(鐵)反應ヲ試ミルニ陽性反應ヲ示ス、鍍銀法ニテハ一般ニ雲絮狀又ハ無構造ニ瀰漫性ニ帶褐黑染シ、纖維物質ヲ認メシメズ。或モノニ於テ僅ニ細キ褐染纖維ヲ認メ得ルモノアルニ過ギズ。又第3例ニテハ全ク纖維物質ヲ認メシメズ。

閉鎖濾胞 第1例(右側)ニテハ第3期閉鎖濾胞アリ。濾胞內腔ニハ纖維ナル格子狀纖維ヲ以テ粗ナル網絡ヲナセルモノアリ。內莢膜層中ノ格子狀纖維ハ肥厚シ、褐染シ、顆粒狀沈着ヲ示セルモノアリ。內莢膜細胞中ニハ「リポイド」多量ニ沈着ス。第2例ニハ小裂隙狀ヲナセル第2期閉鎖濾胞多シ。此部ニハ「リポイド」沈着多ク、格子狀纖維ハ褐染シ膨大シ、顆粒狀沈着ヲ示ス事第1例ノ如シ。又本例ニハ間質中所々ニ硝子膜アリ。鍍銀標本ニテハ瀰漫性ニ顆粒狀沈着ヲ示セリ。第4例ニテハ第1期、第2期及第3期ノ各閉鎖濾胞存シ、第6例及第7例ノ健康部ニ於テハ第3期閉鎖濾胞ヲ少數ニ認メシム。然ルニ第5例ニテハ是等閉鎖濾胞ヲ認メシメズ。

結核竈

第1例ノ右側卵巣ニハ6.5耗大ノ卵圓形ノ初期退行黃體1個アリ。黃體內腔ニハ血液ヲ容レ、黃體細胞ハ核染色弱ク核ハ萎縮シ、原形質中ニハ脫脂ニヨリ空胞ヲ作レルヲ認メシム。黃體層ニハ所々ニ血球ヲ充セル毛細血管ノ切口ヲ多數ニ認メシム。鍍銀標本ニテハ纖維ナル格子狀纖維多數ニアリテ、血管壁ノ格子狀纖維ト相連リテ密網ヲナシ、黃體細胞及周圍ノ小內莢膜細胞ヲ圍繞ス。纖維ハ一般ニ顆粒狀沈着ヲ示セルモノ多シ。van Gieson氏法ニテハ黃體細胞間ノ中隔結締織纖維ハ太クシテ、紅染スル事強キモ、細纖維ノ現出ニ至リテハ遙ニ鍍銀標本ニ及バズ。「ズダンIII染色標本」ニテ黃體細胞周圍ノ小內莢膜細胞、結締織細胞ニハ黃赤色ニ染メル滴粒及顆粒ヲ多量ニ沈着セリ。

茲ニ興味アル所見ハ上述黃體層ノ一部ニ核染色惡ク、「ヘマトキシリン」-「エオジン染色」ニテ赤ク顆粒狀ニ染レル部ニ數個ノLanghans氏巨態細胞及少數ノ上皮様細胞ヲ有スル小結節ヲ認メシムルコトナリ。「ズダンIII染色」ニテハ一部巨態細胞中ニ微細赤染顆粒ヲ僅微ニ有スルモノアリ。上皮様細胞ニハ無シ。而シテ此部ハ鍍銀標本ニテハ結(核)節ノ上皮様細胞間及周圍ニハ一部顆粒狀沈着ヲ示セル部モアレドモ、一般ニハ黑染セル纖維ナル格子狀纖維アリ。本例ニテハ黃體細胞間自身ニ纖維ナル格子狀纖維網ノ存セルタメ、此部ニ存スル結節ヲ圍メル格子狀纖維ノ像ハ他ノ組織中ノ結節ニ見ルガ如ク、周圍組織トノ境界ハ銳利ナラズ。尙本例ニアリテハ黃體内ノミナラズ、一部ハ黃體層ニ近ク、一部ハ稍隔リタル皮質間質中ニ2

個又ハ4個ノ Langhans 氏巨態細胞ヲ有スル結節アリ。巨態細胞ノ周圍ニハ上皮様細胞及圓形細胞アリ。而シテ其附近組織ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ核染色悪ク、顆粒狀ニ赤染セル部アリ。「ズダンIII」染色ニテ或巨態細胞ニハ多量ニ赤染顆粒ヲ含メルモノアリ。斯ル部ヲ鍍銀標本ニテ見ルニ、格子狀纖維ハ鬆粗ナル網狀ヲナシテ、結節上皮様細胞ヲ纏絡シ、周縁部ニ於テハ周圍組織ノ纖維ト相連レルヲ見ル。而シテ上述核染色悪キ部ニ於テモ、格子狀纖維ハ尙明ニ粗網ヲナシテ認メラレドモ、他ノ部ノ格子狀纖維ニ比較スレバ稍顆粒狀沈着ヲ示セリ。

又第5例(右側)ノ皮質表層ニアリテハ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ核染色悪ク、顆粒狀ニ赤染シ、組織構造明ナラズ。其健康部トノ境界ニ約30個ノ核ヲ有スル Langhans 氏巨態細胞ト共ニ附近ニ核染色悪キ結節ヲ認メタリ。此部ハ瀰蔓性ニ小圓形細胞、單核細胞、上皮様細胞、「プラスマ細胞」、「エオジン」嗜好顆粒ヲ有スル細胞等密集シ、所々ニ血球ヲ充セル擴張セル血管多數ニアリ。間質中小圓形細胞ノ密集セル部ニハ所々「エオジン」ニ赤染セル滴狀物質ノ散在セル部アリ。鍍銀標本ニテハ健康部ノ間質中ニハ細キ帶褐黒染セル纖維アルモ、結核形成部及小圓形細胞等ノ浸潤アル部ニテハ極メテ纖細ナル格子狀纖維アリテ、緻密ナル網ヲナシ、乾酪變性ニ陥レル結核ノ周圍ニハ少數ナル纖維ガ少シク圍繞セルガ如キ狀態ヲ示セリ。然レドモ瀰蔓性ニ核染色悪キ部ニ存スル結節周圍ニハ纖維ハ一般ニ顆粒狀沈着ヲ示シ、種々ナル方向ニ走ル。皮質表層ニテ全ク壞死ニ陥レル部ニアリテハ格子狀纖維ヲ認メシメズ。

次ニ第6例(左右兩側共ニ)ニテハ略第5例ニ等シク皮質表層ハ核染色悪ク、「エオジン」ニ赤ク顆粒狀ニ染レリ。而シテ其大部分ハ強ク壞死ニ陥レリ。一部ニ核染色弱キ巨態細胞ノ上皮様細胞ニ圍マレタル小結節アリ。一汎ニ皮質組織ハ小圓形細胞、「プラスマ細胞、單核細胞等ノ浸潤セル部多ク、其大半ハ核染色悪ク一部ハ壞死ニ陥リ、巨態細胞ヲ認メシムル事僅少ナリ。「ズダンIII」染色ニテハ壞死部ニハ「リポイド」沈着無キモ、核染色稍悪キ部ニアリテハ多量ニ滴狀ヲナシテ沈着セリ。小圓形細胞ニハ全ク「リポイド」沈着ヲ認メシメズ。而シテ健康部ノ皮質中ニハ「リポイド」沈着無シ。鍍銀標本ニテハ左右兩側卵巣皮質共ニ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ甚シク核染色悪ク「エオジン」ニ顆粒狀ニ赤染セル部ニハ、纖維ハ認メラザルモ核萎縮又ハ崩壊シ、多少染色セラル・部(殊ニ肉芽組織)ニ在テハ、纖細ナル格子狀纖維ノ細網狀ヲナセル部ト褐染又ハ帶褐黒染シ、膨化セル變性纖維網ヲ認メシムル部及全ク壞死ニ陥リ纖維ヲ認メラザル部等雜然トシテ混在シ、健康卵巣組織ノ膠基纖維ト境界無ク移行ス。就中右側卵巣ニテ此等ノ間ニ所ニヨリテ結節ノ形成セラレタル部ニ在リテハ、巨態細胞ノ周圍ニハ少許ノ輪狀ノ粗ナル格子狀纖維ヲ認メ得ルモノト膨化セル稍太キ褐染纖維ヲ認メ得ルモノ或ハ又全ク瀰蔓性ニ褐染シ、纖維物質ヲ認メラザル部等モアリテ一定セズ。之ヲ要スルニ周圍ニ健康組織ヲ有スル部ニテハ其部ニ孤在性ニ發生セル小結節ノ周圍ニハ格子狀纖維存スルモ、瀰蔓性ニ壞死ニ陥レル部ニ在リテハ格子狀纖維モ遂ニハ破壞消失スルニ至レルモノナリ。健康部ニ於テハ濾泡ノ内莖膜ノ部ニハ格子狀纖維ノ細キモノアルモ、間質中ニハ一般ニ或部ニハ細ク、或部ニハ太キ帶褐黒染纖維ヨリナレルヲ認メシム。又第7例ニテハ右側卵巣皮質表層ノ一部分ノ表層ニ周圍組織ト比較的境界不銳利ニ境サレタル肉芽組織アリテ、其部ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ鬆粗ニシテ、「エオジン」ニ赤染セル纖維物質ノ間ニハ單核細胞、小圓形細胞少シク存シ、3個ノ巨態細胞ヲ有スル小結節形成ヲ認メシム。其部ノ上皮様細胞モ染色弱ク、間質纖維ハ膨大シ、核ニ乏シ。一部ニハ「エオジン」ニ赤ク無構造ニ染リ乾酪樣變性ヲ示セルモノアリ。附近肉芽組織内ノ小血管ハ中等度ニ擴張シ、血球ヲ充セリ。斯ル部ハ鍍銀標本ニテハ結節ヲ輪狀ニ細キ黒染纖維ヲ以テ圍繞スルモ、纖維ハ一般ニ膨化シ、太シ。附近ノ他ノ肉芽組織ノ部ニハ鬆粗ニ排列セル纖細纖維アリ。Weigert 氏

法ニテハ彈力纖維ヲ認メシメズ。此部ニハ「リポイド」沈着無シ。他ノ健康部ニテハ一般ニ尋常ニシテ、核染色良好ナリ。

間質組織

第1例ニテハ上述核染色悪キ部以外ニテハ一般ニ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ核染色良好ニシテ、鍍銀標本ニテ表層ニハ太キ褐染纖維アリ。次ハ至細ナル格子狀纖維ト稍太キ褐染纖維ト錯綜ス。是等結締組織細胞ニハ微細顆粒狀ノ「リポイド」沈着ス。Weigert 氏法ニテハ皮質表層ニハ彈力纖維無シ。卵巣門部ニ近キ皮質中ニハ彈力纖維ヲ少シク認メシム(第1, 2ノ各例)。van Gieson 氏法ニテハ鍍銀標本ニテ認メ得ルガ如キ纖維ナルモノヲ檢出シ得ズ。第2例ニテハ卵巣ハ附近ノ組織ト癒着セルタメ、大半ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ核染色悪ク、顆粒狀ニ赤染セル部ト上皮様細胞、圓形細胞及巨態細胞ヨリナル肉芽組織ヲ混ジ、同時ニ結節ヲ認メシムル部トアリ。斯ル部ニハ「ズダンIII」染色標本ニテ檢シテハ「リポイド」ヲ多量ニ沈着セル部ト全く無キ所トアリ。或巨態細胞ノ原形質中ニハ僅微ニ「リポイド」顆粒アリ。單屈折性ナリ、van Gieson 氏法及 Weigert 氏彈力纖維重染色法ニテハ結節ノ存スル部ニハ少シク紅染セル纖維アルモ、纖維ナルモノハ認メ難シ。鍍銀標本ニテハ結節ノ周圍ニハ(内層)纖維ハ少シク顆粒狀沈着ヲ示セルモノモアリ)尙纖維ナル格子狀纖維網ヲ以テ圍繞シ、其周壁ハ間質ノ帶褐黑染纖維ト連レリ。結節ヲ認メシメザル部ニテモ、「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ核染色悪ク赤染セル部所々ニアリ。微細ナル「リポイド」顆粒ノ沈着多シ。間質中ニハ彈力纖維ヲ認メシメズ。鍍銀標本ニテハ間質纖維ハ細キ黑染纖維トシテ認メシムルモノアレドモ、帶褐黑染纖維多シ。第3例ノ左側卵巣皮質間質組織ノ表面ハ一般ニ所々ニ核染色悪ク、「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ顆粒狀ニ赤染セル部アリ。上皮様細胞、小圓形細胞ト共ニ數個或ハ多數ノ核ヲ有スル Langhans 氏巨態細胞多數ニ認メラル。「ズダンIII」染色ニテ檢セバ瀰漫性ニ黃赤色ノ微細顆粒狀ノ「リポイド」沈着ス。鍍銀標本ニテハ此部ニ鬆粗ナル格子狀纖維網アリ。纖維ハ一般ニ顆粒狀沈着ヲ示ス。組織ノ變性高度ナル或部位ニアリテハ全く纖維ヲ認メ得ズ。上記結核組織ニテ周圍ヲ被包セラレタル卵巣皮質間質ト結核組織トノ間ノ銳利ナル境界無キ部アリ。「リポイド」沈着無ク、「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ一般ニ核染色悪カラズ。斯ル部ニハ鍍銀標本ニテ顆粒狀沈着ヲ示セル帶褐黑染纖維アリ。左側卵巣皮質ニ於テモ約3分ノ1部ノ皮質表面ヲ被ヘル1乃至5耗厚サノ膜様物附着シ、皮質組織ト融合シ、明ニ區別シ得ラレズ。此部ニハ所々ニ小圓形細胞、上皮様細胞ニ包マレタル巨態細胞ヲ有スル小結節散在ス。巨態細胞ノ核ノ數及其排列狀態ハ結節ニヨリ種々ナリ。一般ニ「リポイド」沈着無シ。鍍銀標本ニテ本結核組織ニハ格子狀纖維少ク、或結節ノ周圍ニ鬆粗ナル纖維ヲ少シク認メシム。結核ヲ認メシメザル間質ノ部ニハ太キ褐染纖維アルノミニシテ、纖維ナル格子狀纖維ハ無シ。

第4例ニテ左側卵巣間質中ニハ小圓形細胞、「プラズマ細胞」及「エオジン」嗜好顆粒ヲ多數ニ含メル細胞多シ。此部ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ、核ニ乏シキ赤染セル結締組織多ク、所々ニ血球ヲ充シ擴張セル血管多シ。上皮様細胞、Langhans 氏巨態細胞ヲ有スル小結節數個認メラル。此部ニハ Russel 氏「フクシン」嗜好小體ヲ認メシム。鍍銀標本ニテハ上皮様細胞及圓形細胞間ニハ纖維ナル格子狀纖維アリテ、緻密ナル網絡ヲ營ム。右側卵巣ニ於テモ、部位ニヨリテ核染色悪ク、圓形細胞、「エオジン」嗜好顆粒ヲ有スル細胞、其他ノ多形核白血球等アリ。鍍銀標本ニテ斯ル部ニハ纖維ナル格子狀纖維網ヲ認メシム。

血 管

一般ニ中膜及内膜肥厚シ、硝子様物質沈着シ、其或モノニハ全く管腔ノ閉塞セルモノアリ。又或モノニ

ハ彈力纖維ニ一致シ、又ハ中膜ニ瀰漫性ニ「リポイド」多量ニ沈着ス。其一部ニハ重屈折ヲ示セルモノアリ。壁ノ肥厚シ、硝子様變性少キモノニアリテハ格子狀纖維ハ比較的纖細ナルモノ多數ニ認メラルモ、「リポイド」ノ多量ニ沈着セル部又ハ硝子様變性ヲ示セルモノニハ格子狀纖維ヲ認メ難シ。van Gieson 氏法ニテハ紅染セル纖維アルモ肥厚シ、硝子様變性セル部ニテハ瀰漫性ニ紅染又ハ帶黃紅染シ、細纖維現出ハ鍍銀法ニ及バズ。Weigert 氏彈力纖維染色法ニテハ壁ノ肥厚變性少キモノニテハ纖細ナル彈力纖維ヲ認メシムルモ、肥厚變性高度ナルモノニテハ彈力纖維モ帶狀又ハ結節狀ニ肥厚シ、顆粒狀ヲ示ス。第2例ニテハ壁ノ肥厚、硝子様變性ハ稍少シ。皮質中所々ニ血管腔ノ擴張シ、血球ヲ充セルモノアリ。小血管ハ閉塞セラレ、壁彈力纖維ハ顆粒狀ヲ示セリ。

3例(第4, 5, 6ノ各例)ニテハ血管ハ擴張シ、血球ヲ充セル事強シ。壁ノ肥厚、硝子様變性高度ナリ。而シテ第6例ニテハ間質中所々ニ散在セル小血管ノ周圍ニハ小圓形細胞浸潤多シ。第7例ニテハ兩側共ニ健康部血管ハ壁ノ肥厚、硝子様變性ハアレドモ、管腔ノ擴張セルモノハ少シ。

其 他

第1例(右側卵巣)ニテハ皮質表層ニ近ク、圓柱上皮ヲ以テ被ヘル小囊胞アリ。第2例ニテハ皮質深部ニ小囊胞アリ。第5例ニテハ皮質表層核染色惡キ部ニ接シテ、結締織ニ包マレタル小囊胞數個散在ス。又深部ニハ上皮ノ被覆アル小管腔ハ種々ニ分歧シ、上皮細胞索ヲ以テ近隣ノ小囊胞ニ連レルモノアリ。鍍銀標本ニテ周圍ハ褐染セル太キ纖維ニテ圍繞セラル。第3例(左側卵巣)ニテハ單層圓柱上皮ヲ以テ被ヘル多數ノ小囊胞ヲ以テ充サレ、間質組織ハ少シ。第6例ニテハ皮質深部ニ裂隙狀・管狀ノ小囊胞多數アリテ、一部ハ樹枝狀分歧ヲナス。第3例ニテハ0.6→1.15 粒大ノ退行初期黃體アリ。内境界膜ニハ核ノ萎縮セル結締織細胞アリ。黃體ノ中心核ニハ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ赤ク無構造ニ染レル物質中ニ紡錘形ノ核ヲ有スル幼若結締織少シク存ス。鍍銀標本ニテハ格子狀纖維ハ一般ニ顆粒狀沈着ヲ示シ、纖細ナル纖維ハ認メラズ。黃體細胞ニハ「リポイド」沈着ス。第4例ニハ1.5 粒大ノ開花期黃體アリ。内腔ニハ血球ヲ充セリ。鍍銀標本ニテ黃體細胞間ニハ格子狀纖維ハ血管壁ノ該纖維ト吻合シ、網狀ヲナセリ。内境界膜ニモ格子狀纖維ヲ少シク認メシム。

考 按

Alterthum (1901)⁽⁴⁾ハ婦人泌尿生殖器結核ノ際ニ於ケル傳染經過ニ就テ記シ、Sänger (1890)⁽¹⁵⁰⁾ハ67歳ノ婦人ニテ左側増殖性卵巣囊腫ノ内壁ニ結核性壞死窟ヲ有シ、多數ニ巨態細胞ヲ有セル例ニ就テ、本囊腫内壁ノ結核感染ハ手術前ニ施行セラレタル腹膜穿刺ニヨリテ惹起セラレタルモノナラント言ヘリ。又 Baumgarten (1884)⁽¹²⁾ハ14歳ノ處女ニテ卵巣囊腫壁ニ結核性變化ヲ來シタル1例ニ就テ記セリ。Madlener (1894)⁽⁸⁸⁾ハ54歳ノ婦人ニテ婦人科ノ手術施行後1ヶ月ニテ死亡セルヲ剖檢シ、右側卵巣囊腫内壁ニハ厚サ1耗ノ無構造ヲ呈スル不規則ナル顆粒ヲ認メタリ。是巨態細胞ヲ有スル結節ニシテ、本結核感染ハ右喇叭管結核竈ヨリ傳染シタルモノナリト記セリ。Wolff (1896)⁽¹⁹³⁾ハ17例ニ就テ卵巣ト喇叭管、子宮、腹膜結核及全身結核トノ關係ヲ述べ、全身結核17例中5例ノ生殖器結核ヲ記シ、内3例ニハ卵巣結核アリ。組織像トシテ、時々周緣性ニ核ヲ有スル個々ノ巨態細胞ノミヲ見、其周圍ニハ只少許ノ圓形細胞又ハ上皮様細胞ヲ認ムルコトアリ。又或モノニハ圓形細胞及上皮様細胞ヲ多數ニ有シ、中ニ結核性巨態細胞ヲ見ルコトアリト稱セリ。又 Franqué (1897)⁽³¹⁾ハ子

宮、喇叭管、卵巢ニ結核性病變ヲ來セルモノニ就テ記シ、Wolff⁽¹⁸⁹⁾ニヨレバ多數文獻中卵巢結核ヲ報告セル者ニRokitansky(1例)、Gusserow(2例)、Hennig(6例)等アリ。卵巢結核ノ女性全生殖器結核ニ對スル比率ヲ觀ルニ、Frerichs⁽³⁰⁾ハ7.7%、Masler⁽⁹⁴⁾ハ15.2%、Spaeth⁽¹⁶⁹⁾ハ12.6%、Heiberg⁽⁴⁷⁾ハ17.1→20%、Oppenheim⁽¹¹⁹⁾33.03%、Krzywicki⁽⁷¹⁾ハ7.1%、William⁽¹⁸²⁾ハ44.4%ナリト記セリ。是ニヨリテ觀ルニ、生殖器結核中卵巢ノ結核ハ僅少ナリト思考セラル。Prüsmann(1903)⁽¹³⁷⁾ハ34歳ノ婦人ニテ人頭大ノ卵巢囊腫壁ノ内層ニ圓形細胞浸潤、擴張セル毛細血管ヲ有スル肉芽組織中ニ定型的ノ結核ヲ認メ、其或モノニハ細胞中ニ遠心性ニ60個ノ核ヲ有スル巨態細胞ヲ見タリト言ヘリ。Wechsberg(1903)⁽¹⁸⁹⁾ハ27歳ノ婦人ニテ約兒頭大ノ左側卵巢囊腫壁ニ多數ノ結節ヲ見、且白血球ノ浸潤ヲ見タレドモ、他半部ニハ白體及Graaf氏濾胞ヲ認メタリト記セリ。Gade(1893)⁽³⁶⁾ハ40歳ノ結核患者ヨリ剔出セル乳嚢性卵巢囊腫ヲ有スル皮様囊腫ノ壁ニ粟粒結核ヲ生ゼルモノニ就テ記セリ。又Garkisch(1908)⁽³⁷⁾ハ卵巢囊腫中ニ於ケル結核ハ稀ニシテ、文獻中ニ只20例ヲ見タルノミ。氏ハ23歳ノ婦人ノ卵巢囊腫壁ニ巨態細胞ヲ有スル粟粒結核ニ就テ記載シ、本傳染徑路ハ直接腸管ヨリ來リシモノナラント言ヘリ。Schottländer⁽¹⁶⁷⁾ハ若シモ結核性喇叭管ヲ有スル喇叭管剪線端近クニテ濾胞破裂セバ、結核傳染ハ可能ナリ。故ニ新鮮ナル黃體ハ直接ニ感染シ得ト言ヒ、氏ハ黃體ノ粟粒結核ノ1例ニ就テ記シ、全黃體層ニハ巨態細胞多數ニアリテ夫等結節ハ相融合シ、又ハ相孤立シ、黃體ノ内層ハ乾酪變性ヲ始メ、囊胞變性初期ヲ示セルヲ見タリ。即チ黃體ノ結核ハ膿瘍ヲ作ルト言ヘリ。Krzywicki(1888)⁽⁷¹⁾ハ兩側卵巢ニ結核ヲ惹起セル1例ニ就テ記セリ。Schottländer⁽¹⁶⁶⁾、Frank u. Orthmann⁽²⁵⁾等ハ黃體ハ結核ニ侵サレ易キヲ證セリ。而シテAcconci⁽³⁾ハ實驗的ニ家兔ニ結核菌ノ純粹培養ヲ以テ同時ニ傳染セシメテモ最モ屢侵サル、所ハ喇叭管ニシテ、次ハ子宮ナリ。而シテ卵巢ハ最モ稀有ナルモノナリ。組織的ニハ上皮様細胞ヨリナル結節ノ發生ニシテ、巨態細胞ヲ伴ヒ、結節ノ中心部ハ變性ヲ始メ、周圍ニ向ツテ擴大ス。結核ハ舊ケレバ舊キ程、結締織ノ新生ヲ以テ結核ハ遂ニ消失スト言ヘリ。Wallgren(1930)⁽¹⁸⁷⁾ハ人體腎、副腎、睪丸、淋巴腺等ニテ纖維ハ結核節ノ肉芽組織ノ所ニハアルモ、全ク壞死ニ陥レル部ニハ無ク、結核ノ周圍ニハ鍍銀標本ニテ多數ニ纖細ナル格子狀纖維アリ。而シテ多クノ結節ハ此纖細ナル纖維網ニテ充滿セラル。又瀰蔓性結核性肉芽組織タル結核中ニハ多數ニ纖維アリテ、鍍銀標本ニテハ黒染スルモ、普通ノ染色法ニテハ染ラズト言ヘリ。

卵巢結核ノ感染徑路

余ノ檢索セル所ニヨルニ、細胞ノ性狀纖維ノ状態ニ鑑ミ第1例ニテハ黃體ノ發生ト殆ド時ヲ同クシテ結核菌ハ血行ヲ介シテ入り來リ、茲ニ輸送セラレ、黃體及附近間質ノ組織ニ結核ヲ起シタルモノト思考セラル。他ノ2例(第2,3ノ各例)ハ全身結核症ノ一部タル腹膜結核ヨリ直接ニ接觸傳染ヲ來シタルモノト看做シ得ベク、第4例ハ手術例ニシテ剖檢ニ據ラザルヲ以テ全身臟器ノ變化ハ不明ナレドモ、胸部ノ臨床的所見及手術時腹膜ニ舊キ癒着等ノ存在ニヨリ、他3例ノ剖檢的所見トノ總合觀察ニヨレバ、本例モ亦結核性腹膜炎ノ經過中卵巢ニ亦

接觸傳染ヲ來シタルモノナリト思考スルヲ穩當トス。

松田⁽⁹⁸⁾ハ腎臟結核ニ就テ粟粒結核ノ例ニ於テハ(中略)鍍銀標本ニテハ網狀ヲナセル黒染纖維ガ之ヲ圍繞シテ存セルヲ見ル。殊ニ定型の結核ヲ有シ，周圍腎間質部ニ肉芽變ノ現ハル部ニ於テハ殊ニ格子狀纖維ノ増生強キヲ認メ得。(中略)中心部ノ全ク乾酪樣變性ヲ呈セル部ニハ殆ド見ラレズ。其初期ニ於テハ尙僅ニ認メ得ト言ヘリ。Russakoff⁽¹⁴⁷⁾ハ乾酪變性竈ニハ格子狀纖維ノ永ク遺殘セルヲ見ルト言ヒ，今⁽⁶⁸⁾ハ肝臟ノ結核ニ於テハ乾酪變性竈ニテハ纖維ハ可ナリ永ク保存セラレ久シキ後ニハ遂ニ破壞消失ニ陥ルト稱シ，Rössle 吉田⁽¹⁴⁴⁾ハ淋巴腺ノ結核竈ニテハ局所的ニ著シキ格子狀纖維ノ増殖ヲ見，屢膠基纖維ニ移行セル部ヲ認メ，久シク格子狀纖維ハ保存セラル、モ遂ニハ破壞セラレ消失スルニ至ルモノアリト稱セリ。

余ノ檢セル所ニヨレバ松田^(前出)ノ腎ニ於テ記セルモノト等シク卵巢ニ於テモ粟粒結核ノ周圍ニハ格子狀纖維ハ網狀ニ存シテ周圍ニ連ルヲ認メシム。而シテ此等結核竈ノ周圍間質ノ小圓形細胞浸潤アル部ニハ格子狀纖維ヲ多數ニ認メ得ルモノアリ(第4例)。松田^(前出)ハ之ニ關シテ結核周圍肉芽組織ヲナセル腎間質及腎ニ結核ヲ有セザル慢性ニ經過シタル結核ノ際ニ腎ノ格子狀纖維ノ増加ヲ來セルハ恐ラク菌毒素ニヨルモノト見テ可ナラント記セリ。卵巢粟粒結核ノ周圍ニ於テ格子狀纖維ノ増加機轉モ亦松田ノ言ヘル如ク結核菌毒素ニヨル組織反應ノ結果ナルベシ。然レドモ如斯格子狀纖維ガ結核ヲ封鎖シ，結核竈ノ擴大ヲ防禦スル意味ヲ有スルヤ否ヤニ就テハ今後ノ研究ニ待タントス。

本節ニ於ケル總括

1. 初期卵巢粟粒結核ノ周圍ニハ纖細ナル格子狀纖維網アルヲ認メシム。其他小圓形細胞，單核細胞，「プラズマ細胞等ノ皮質間質中ニ浸潤セル部ニテハ纖細ナル格子狀纖維ヲ多數ニ認メシム。
2. 乾酪變性ヲ示シ壞死ニ陥レル部ニテハ格子狀纖維ハ肥厚變性シ，遂ニ消失シ，認ムル事ヲ得ズ。
3. 卵巢結核ノ傳染徑路ニ就テ一部ハ腹膜及腹腔臟器ヨリ接觸傳染ヲ以テ卵巢皮質表層ニ初期結核ヲ認メシメ，一部ハ血行ニヨリテ侵入セル結核菌ニヨリ黃體層及皮質間質中ノ深部ニ結節ヲ形成セルモノヲ認メシム。

第十一節 黃體囊胞

第一例 33歳女，職業 料理業，卵巢 右2.5—1.8—1.3。左2.4—2.1—0.5 種

兩側卵巢(右例ニハ僅少)ニハ胚上皮細胞ヲ認メシム。

間質 鍍銀標本ニテ右側卵巢皮質表層ニハ顆粒狀沈着ヲ示セル黒染纖維アリ。次層ハ極メテ緻密ニ排列セル太キ褐染纖維ヨリナル。左側卵巢ニハ一般ニ組織鬆粗ニシテ，「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ「エオジン嗜好顆粒」ヲ有スル細胞多數ニアリ。鍍銀標本ニテハ一般ニ帶褐黒染セル纖維ト稱膨化セル格子狀纖維ト混ジ，網狀ヲナス。一般ニ「リポイド」沈着無シ。皮質間質中ニハ Weigert 氏法ニテ彈力纖維ヲ認メシメズ。

血管壁ノ肥厚及硝子樣變性ハ中等度ナリ。此部ニテハ彈力纖維ハ帶狀，結節狀，顆粒狀ニ膨化變性シ，

纖維構造ノ明ナラザルモノアリ。格子狀纖維ハ尙肥厚變性セルモノ、中ニテモ、顆粒狀沈着ヲ示シ、細纖維ヲモ認メシム。

原始濾胞 左側卵巢ニ少シアルノミニシテ、發育セル濾胞ヲ認メシメズ。第3期閉鎖濾胞ハ兩側卵巢ニ之ヲ認メシム。自體ハ右側卵巢ニハ多ケレドモ、左側卵巢ニハ少シ。又右側卵巢皮質中ニハ單層圓柱上皮ノ被覆アル小濾胞多數ニアリ。

左側卵巢ニハ2.0—1.5—0.6 種大ノ黃體濾胞アリ。内腔ニハ汚穢暗赤色ノ膿樣物質アリ。黃體濾胞ノ内壁ニ接シテ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ赤染セル硬固ナル結締織アリ。黃體層ハ菲薄ニシテ、周圍全般ニ亘リテ認メラル。細胞ハ佳染シ、核小體著明ナリ。核分割無シ。此黃體細胞ノ内外間質組織中ニハ「エオジン嗜好顆粒ヲ多數ニ有スル細胞ヲ多ク認メシム。「ズダンIIIニテ黃體細胞ニハ變性的ニ「リボイド」ヲ多量ニ沈着セリ。

鍍銀標本ニテハ黃體層ニハ纖細ナル格子狀纖維網アリ。上述黃體層内壁ノ硬固ナル結締織ノ部ニハ顆粒狀沈着ヲ示セル網狀ノ格子狀纖維アリテ黃體層ノ該纖維ト連ル。右側卵巢ニハ一粗大ノ退行第2期黃體アリ。黃體細胞ハ變性萎縮シ。鍍銀標本ニテハ一部纖細ナル格子狀纖維網モアレドモ、多クハ顆粒狀沈着ヲ示シ、膨化變性ス。「リボイド」多量ニ沈着セリ。

第二例 43歳、女、臨床診斷、子宮筋腫、右側卵巢囊腫、右側喇叭管水腫。最終月經第1日ヨリ手術當日マデノ日數17日。

組織所見 右側卵巢囊腫ハ單層圓柱上皮ヲ以テ被覆セル單房性ノ濾胞ニシテ、内腔ニハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ無構造ニ赤染セル物質アリ。濾胞ノ上皮下間質中ニハ鍍銀標本ニテハ太キ帶褐黑染纖維アルモ、格子狀纖維ヲ認メシメズ。

血管 壁ハ肥厚シ、硝子樣變性ヲ示セリ。

卵巢濾胞壁ノ間質ノ一部ニハ1.0—2.7 種大ノ黃體濾胞アリ。黃體細胞ハ變形シ明ナラズ。濾胞ノ内壁ニハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ赤染セル無構造ノ物質ヲ僅ニ附着ス。濾胞壁ニハ「クロマチン」ニ富ミ、「ヘマトキシリン」ニ濃染セル大ナル單核細胞及「プラスマ細胞ヲ多數ニ認メシム。壁ノ血管ハ擴張シ、血球ヲ充セルコト強シ。

鍍銀標本ニテハ上述濾胞壁ニハ纖細ナル格子狀纖維ヲ以テ網狀ヲナセルモノヲ認メシムルモ纖維ハ少シク顆粒狀沈着ヲ示シ、肥厚セリ。而シテ此周圍ハ褐染シ、間質膠基纖維ニ移行ス。其他間質纖維モ一般ニ膨大シ、顆粒狀沈着ヲ示セリ。

Ziehl-Neelsen 氏結核菌染色法、Gram 氏法及 Löfler 氏「メチレンブラウ」染色法ヲ施シテ、精査シタルモ、各例共ニ細菌ノ存在ヲ認メシメズ。

考 按

古來黃體濾胞ニ就テハ種々ナル說(E. Fraenkel⁽²⁶⁾, L. Fraenkel⁽²⁷⁾等)アリテ、全ク歸一スル所ヲ知ラズ。L. Fraenkel⁽²⁷⁾ハ濾胞ハ榛實大乃至桃實大ニシテ、黃色漿液性内容物ヲ有シ、凹凸粗糙ノ皺襞ヲ有スル「ルテイン細胞層(壁ノ厚サ1乃至4耗)ニヨリテ圍繞セラル、濾胞ヲ黃體濾胞トナスト言ヒ、「ルテイン細胞ハ之ヲ缺如シ得。又皺襞ハ必ズシモ存在スルヲ要セズトナシ、氏ハ黃體濾胞ノ三型ヲ是認シ得ト言ヘリ。即チ1. 濾胞ノ内層ニ黃體組織ヲ有スルモノ(E. Fraenkel) 2. 濾胞ノ最内層ニハ結締織ヲ有スルモノ(Nagel) 3. 最内層ノ

上皮又ハ内被細胞ニテ被覆セラル、モノ (L. Fraenkel) (Santi⁽¹⁵¹⁾) 亦此ノ三型ヲ認メタリ。而シテ是等囊胞ハ黃體、纖維體及濾胞ヨリ軟化及吸收作用ニヨリテ形成セラルトス。Orthmann⁽¹²²⁾ ハ黃體血腫ト黃體囊腫トヲ區別シ、兩者ノ間ニハ解剖的區別無シト言ヒ、Martin⁽⁹¹⁾ ハ大ナル囊胞ノ際ニハ黃體層ハ湮滅スルモ、尙多少波狀ヲ示スト言ヒ、Pfannenstiel⁽¹³⁰⁾ ハ黃體囊胞ハ Nagel 及 Bulius ニヨリテ記サレタル種類ニテハ波狀ヲ示シ、核ニ乏シク硝子膜ヲ内壁ニ認メ得ト言ヘリ。内壁ニ上皮ヲ有スル黃體囊胞ハ E. Fraenkel, L. Fraenkel, Orthmann 等ニヨリ發見セラル。Diepgen (1904)⁽¹⁵⁾ ハ3例ニ就テ記シ、殊ニ内壁上皮ニ就テ顆粒膜上皮ヨリ單層ノ圓柱上皮ニ移行シ、以テ内壁ヲ被覆セル例ヲ報告セリ。折田⁽¹²⁰⁾ ハ5例ニ就テ「ルテイン囊腫ハ出血及軟化・實質細胞ノ軟化・浮腫等ニヨリテ生ジ、囊ノ擴大ハ主トシテ浮腫液ノ侵入滯溜ニヨルト稱セリ。而シテ妊娠性及月經性黃體及閉鎖濾胞ヨリ發生シ、且是等ノ種々ノ發育及退行期ヨリ發生シ得ルモ、尙實質性組織ノ状態ニアル時ノミニ生ジ、著シク退行セシモノヨリハ生セズ。即チ白體及纖維體ヨリ發生セズ。本囊腫ハ血行障礙ニ因スル一種ノ滯溜囊腫ニシテ、真正ノ腫瘍ニ非ズ。血行障礙ノ去ルニ從ツテ漸次縮少シ、遂ニ消滅ス可キナリト言ヘリ。

Pick (1903)⁽¹³¹⁾ ハ39歳ノ婦人ニテ葡萄狀胎妊娠ノ際ニ兩側卵巢ニ漿液ヲ容レ、壁ノ黃體層ヨリナレルモノヲ觀タリト記セリ。又 Grouzdew (1906)⁽⁴²⁾ ハ夫々29歳、40歳及53歳ノ婦人3例ニ就テ記シ、黃體囊胞ハ黃體ヨリ發生スルモノニシテ、其組織的標識ハ黃體層ノ皺襞ノアルコトナリト言ヘリ。又 Jaffé⁽⁶⁰⁾ ハ黃體囊胞ハ眞・假黃體ヨリ生ズルノミナラズ、非破裂ノ濾胞ヨリモ生ズト言ヒ、Grouzdew (1906)^(前出) ハ黃體囊胞ノ或例ニテハ其血腫及漿液性囊胞ノ内壁ハ所謂上皮ヲ以テ被覆セラルモノアリト言ヘリ。又 Langer⁽⁸⁰⁾, Orthmann⁽¹²³⁾, Menge⁽¹⁰⁰⁾, Rosthorn⁽¹⁴⁵⁾, Oliva⁽¹¹⁷⁾ 等ハ黃體ハ屢卵巢膿瘍ノ出發點ヲナスモノナリト記セリ。Voigt⁽¹³⁵⁾, Santi⁽¹⁵¹⁾ 等ハ惡性新生物ノ發育ハ黃體ヨリ來ル事ヲ觀察シ、其最屢ナルモノトシテ黃體囊胞ヲ擧ゲタリ。Santi (1904)⁽¹⁵¹⁾ ハ黃體組織ハ卵巢ノ炎症性刺戟ノ結果、肥大ハ障礙セラルト言ヘリ。

余ノ檢セル所ニヨレバ所謂黃體囊胞ハ黃體發生ノ初期ニ於テ卵巢ニ炎症性刺戟ノ加ハレル結果黃體層ハ發育中止シ、次デ變性シ、囊胞内壁ニハ結締組織增生シ、單核細胞、白血球又ハ「プラズマ細胞等ノ浸潤シ、次デ血行障礙モ伴ハレ、内腔ニハ液狀物ノ滯溜ニヨリ、茲ニ黃體囊胞ノ生ズルモノト思考スルヲ穩當トス。從ツテ鍍銀標本ニテハ壁ノ格子狀纖維及周圍間質膠基纖維共ニ肥厚膨大シ、顆粒狀沈着ヲ示セルヲ認メシム。

本節ニ於ケル總括

1. 黃體囊胞ノ黃體層ニハ纖細ナル格子狀纖維網ヲ認メシムルモ、纖維ハ少シク顆粒狀沈着ヲ示シ、殊ニ黃體内壁ノ硬固ナル纖維ハ肥厚變性スル事著明ナリ。此外ノ皮質間質膠基纖維モ共ニ變性肥厚膨化シ、顆粒狀沈着ヲ示セリ。

2. 黃體囊胞ト稱セラル、モノ、一部ハ成熟濾胞又ハ黃體ノ發育初期ニ當リテ、卵巢ニ炎症性刺戟ノ加ハレルタメニ中途退行變性ヲ惹起セルモノニシテ、續イテ起ル血行障礙ニヨリ

テ黄體內腔ニ液體ノ滲溜セラル、事ニヨリテ生ズルモノナルベシ。

第十二節 化骨及石灰沈着

剖検例 74歳、女、身長144糎、體重45斤、營養中等ノ屍。

臨床診斷 胃癌。

剖検診斷 原發性肝癌、肝臓門部及胃淋巴腺・S字狀部癌轉移、全身黃疸、動脈硬化症。

卵巢 左側卵巢(2.2—1.2—1.0糎大)ハ梅實大ノ囊胞1個ヲ有セリ。右側卵巢(2.0—1.3—1.0糎大)ニハ其一部ニ石様ニ硬キモノ(約1糎大)ヲ觸ル。剖面 卵巢ノ一端ニ觸ル、硬キ部ハ約1糎大ノ不完全ナル輪狀ヲ示セルモノニシテ其壁ノ厚サ約1.5乃至2糎ナリ。

顯微鏡的所見

右側卵巢 卵巢表面ハ「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ一般ニ核染色惡ク、「エオジン」ニ顆粒狀ニ赤染セル部ニ小圓形細胞ノ浸潤セルヲ認メシム。尙淋巴細胞 Russel 氏「フクシン嗜好體及少數ノ「プラスマ細胞等ヲ混ズ。鍍銀標本ニテハ此部ニ比較的密ニ存セル格子狀纖維アリ。而シテ上述ノ硬キ部ハ無構造ニ「ヘマトキシリン」ニ濃染シ、其一部ニ原形質ノ「エオジン」ニ赤染シ、「ヘマトキシリン」ニ濃染セル核ヲ有セル紡錘形乃至多角形ノ骨細胞アリ。而シテ該細胞ハ其部ニ散在又ハ密集セリ。其等石灰又ハ骨化セル部ノ附近ノ壞死ニ陥レル部ニハ黃色々素滴ヲ有セル細胞散在セリ。又圓形細胞又ハ原形質ノ「エオジン」ニ赤染セル大ナル單核細胞ノ群在セルモノアリ。骨細胞ノ存スル基質ニ接セル間質ノ一部ニハ「エオジン」ニ赤染セル太キ纖維ヨリナル束狀物アリ。「ズダン III 染色標本ニテハ皮質表層間質ニハ瀰蔓性ニ顆粒狀ノ「リボイド」沈着ヲ認メシメ、該顆粒ハ「ニールブラウ、スルファート」ニテハ帶青紅色乃至青藍色ヲ示シ、周圍間質ノ境界銳利ニ石灰ノ沈着セル部ニテハ周圍間質ニハ瀰蔓性ニ「ズダン III 黃赤色ニ染ル「リボイド」顆粒沈着シ、多量ニ重屈折性物質ヲ含メリ、加熱ニヨリ消失シ、冷却ニヨリ再現ス、「ヘマトキシリン」—「エオジン染色ニテ淡ク赤染セル骨細胞ノ存スル基質ニハ僅ニ「リボイド」沈着シ、骨細胞ノ原形質中ニモ夫々赤色ノ微細顆粒ヲ沈着セリ。Weigert 氏法ニテ表層皮質間質中ニハ彈力纖維ナク、血管壁ノ彈力纖維ハ帶狀結節狀ニ膨大シ、又ハ顆粒狀沈着ヲ示シ。纖維走行不明ナリ。化骨組織中ニハ認メラレズ。鍍銀標本ニテハ皮質表層間質中ニハ表面ニ平行ナル太キ帶褐黑染纖維アレドモ、膨化シ、少シク顆粒狀沈着ヲ示シ、深部ニ進ムニ從ヒテ僅ニ細キ格子狀纖維ヲ混セル部モ認メラル。骨形成部ニテモ周圍間質組織ト續ケル細キ黑染纖維ヲ多數ニ認メ得ル部アリ。而シテ一般ニ纖維ハ膨化シ、顆粒狀沈着ヲ示シ、肥厚スレドモ、部位ニヨリテ周圍間質ト續ケル細キ黑染纖維ヲ多數ニ認メシム。

血管 一般ニ組織ノ變性セルタメ、壁ノ肥厚、硝子樣變性ヲ示シ、「リボイド」沈着多シ。壁ヲ構成セル彈力纖維モ染色佳良ニシテ核染色佳キモノニアリテハ外膜及中膜ノ彈力纖維ハ纖維細ナル纖維ノ交織アレドモ、一般ニ肥厚變性シ、顆粒狀ヲ示シ、「リボイド」沈着多ク、鍍銀標本ニテモ斯ル部ハ纖維ナル纖維ヲ認メ難シ。

上述ノ如ク組織ハ變性セルタメ、多數ノ硝子樣物質ノ沈着セル組織ノ外卵巢固有組織ヲ認ムル事ヲ得ズ。尙皮質表層ノ一部ニハ單層圓柱上皮ヲ以テ被覆セル小囊胞數個アリ。他側卵巢ニハ石灰ノ沈着、骨形成等ヲ認メシメズ。

考 按

Fürst (1884)⁽³⁵⁾ ハ2年前ニ腹膜炎ニ罹レル63歳ノ婦人ヲ開腹手術シ、一卵巢囊腫壁ニ骨

形成ヲ示セル 1 例ニ就テ報告セリ。即チ囊胞ノ外壁ハ表面ノ 3 分ノ 1 ニ黍實大乃至銀貨大ニ群在性ニ石灰變性ヲ來セル部アリ。而シテ一方骨核ハ緻密ニ排列シ、骨板ハ不規則ニ排列シ、大ナル血管ハ化骨部ノ境界部ニ存セリ。氏ハ其際ニ於ケル骨新生機轉ニ就テ先ヅ石灰變性ヲ來シ、次デ直接ニ化骨形成ヲ始メ、而シテ増生セルモノナリト記セリ。Pozzi u. Bender⁽¹³⁶⁾ハ卵巣及喇叭管ノ化骨ノ例ニ就テ記シ、1 例ハ 27 歳ノ婦人ニテ黃體中ニ他ノ 1 例ハ 26 歳ノ婦人ニテ卵巣基質ニ骨形成ヲ來セルモノナリト報告セリ。Pozzi u. Bender^(前出)ハ卵巣纖維腫ノ化骨セルモノ 2 例、Fürst^(前出)、Schröder⁽¹⁶³⁾ハ卵巣囊腫ノ壁ニ骨形成セルモノ 2 例、Stronca⁽¹⁷⁸⁾ハ硬化卵巣ニ瀰蔓性ニ化骨セルモノ 1 例アリト記セリ。Adachi⁽¹⁾ハ 67 歳ノ老年者ニテ左側卵巣ニ 7 耗大ノ硬キ部ヲ見、其部ニテ石灰化セル結締織ハ母組織中ニテ鋸齒狀ヲナシ、一部ニ骨形成ヲ示セリ。發生母地ハ白體ナラント稱セリ。

以上ノ如ク卵巣ニ骨形成ヲ來セル例ニ就テハ文獻ニヨリ數氏ノ報告アリト雖、其數甚少ク、從ツテ其發生母地ハ各記載者ニヨリテ區々タリ。而シテ其際ニ鍍銀法ヲ應用シ纖維物質ノ檢出ニ就テハ記セルモノ無キガ如シ。余偶多數卵巣組織ノ檢索中、骨形成ノ惹起セラレタル稀有ナル 1 例ヲ得テ記述セル所アリ。即チ余ノ例ハ卵巣組織ノ一部(形態上白體ト思考セラル)ニ先ヅ石灰沈着ヲ來シ、次デ周圍幼若胚芽組織ヨリ骨細胞ノ生ジタルモノト解セラルルモノニシテ、其一部ニハ僅ニ骨成形細胞ヲモ認メシム。而シテ鍍銀標本ニテ本組織中ニ認メラレタル細キ黒染纖維ハ其鍍銀ノ狀態並ニ周圍間質組織ト連續シテ認メラル等ノ諸點ヨリシテ、新生セラレタルモノニ非ズシテ、殘存セラレタルモノト解スルヲ穩當トス。其皮様囊腫ノ際ニ認メラル、骨組織ニ非ザル事ハ形態學的ニモ明ニ鑑別シ得ラル、モ、鍍銀標本ニテ該石灰化シ、骨形成セル部ニ周圍間質組織ト連續アル細キ黒染纖維ヲ認ムルニ於テハ本組織ノ以前纖維含有組織タリシ事ヲ立證スルニ有力ナル根據ヲ與フルモノナリト信ズ。此意味ニ於ケル鍍銀法ノ應用モ亦組織判定上捨テ難キ意義アルモノナリト言ヒ得ベシ。

石灰沈着

剖檢例 年齢 20 歳ノ女。

病理解剖上ノ主ナル診斷 右側臍胸、新舊小葉性乾酪性・纖維性肺炎、左側肺下葉及上葉新舊結核。

卵巣 大サ、左側 2.0—1.9—0.4、右側 2.5—1.4—0.8、剖面 限局性病竈ナシ。

右側皮質深部ニ 7.5 耗大ノ腔ヲ有スル一囊胞アリ。内壁ニハ一部ニ圓柱上皮ノ被覆有リテ、上皮ノ脱落セル部ニハ核ニ乏シキ結締織ノ膜狀物アリ。一部ニハ橢圓形ノ核ヲ有スル數層ノ圓柱上皮細胞ヲ以テ被覆セルモノアリ。斯ル囊胞ノ上下下結締織中ニハ數個所々ニ互リ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ周圍ト境界銳利ニ境セラレ濃染セル部アリ。同質性ニシテ、一部ニ細胞様ノモノヲ認メ得ルモノアリ。其周圍間質中ニハ「ヘマトキシリン」ニ濃染セル圓形乃至橢圓形ノ核ヲ有スル細胞散在セリ。又其一部ニハ「ヘマトキシリン」ニ濃染セル小塊狀ノ層狀ヲナセル物質數個ヲ認メシム。之ヲ精査スルニ中心ニ核様ノモノヲ有シ、少シク層狀ヲ示セリ。又一部ニハ上述囊胞壁ヨリ少シク離レタル間質結締織中ニ「ヘマトキシリン」ニ染リ、銳利ニ境セラレタル小ナル長圓形ノ物質アリ、僅ニ束狀構造ヲ認メシム。此部ニハ其一部ニ核染色弱キ結締織様細胞數個ヲ認メシム。Weigert 氏法ニテ此部ニハ彈力纖維ヲ認メシメズ。「ズダン III

染色ニテモ斯カル部ノ石灰ノ沈着セル物質及附近ノ結締織中ニモ、「リポイド」沈着ヲ認メシメズ。又囊胞上皮細胞中ニモ之ヲ認メシメズ。鍍銀標本ニテハ石灰化セル部ニテハ一般ニ黒染シ、周圍間質ト續ケル細キ纖維ヲ認メシム。周圍ハ核ニ乏シク、膨化セル太キ波狀ノ帶褐黒染纖維ナリ。其他ノ異常ヲ示サル間質ニハ太キ帶褐黒染纖維アリ。一般ニ皮質表層ニハ細キ纖維アレドモ、深部ニテハ膨化シ太ク、染色弱キモノ多シ。

此外卵巢固有組織トシテハ、少許ノ胚上皮細胞、多數ノ原始濾胞、少數ノ桑質狀テナセル發育セル小濾胞、第1、第2、第3期閉鎖濾胞及大小種々ナル白體ヲ認メシム。

Weigert 氏法ニテ皮質ニハ彈力纖維ナク、血管ハ多クハ略尋常ナルモ、或モノハ所々ニ肥厚變性シ、其部ノ彈力纖維ハ帶狀、結節狀、顆粒狀ニ膨化變性セリ。「リポイド」沈着ヲ認メシメズ。

他側卵巢ニ於テハ皮質表層ニハ單層圓柱上皮ノ被覆アル小囊胞數個アリ。其他略尋常ニシテ、特記ス可キ病變ヲ認メシメズ。

考 按

Santi (1904)⁽¹⁵²⁾ ハ黃體層ノ中ニ石灰ノ沈着セルモノニ就テ記シ、William (1893)⁽¹⁸¹⁾ モ亦石灰化セル黃體ノ1例ニ就テ報告シ、Methner⁽⁸⁹⁾ ハ手術ニヨリテ得タル卵巢囊腫壁ノ一部ニ約1粉大ニ多數石灰小體ノ沈着セルモノヲ報告セリ。余ノ檢セシモノハ囊胞壁上皮下ノ結締織及之ト隔リタル部ノ皮質間質結締織中ニ石灰ノ沈着セルモノナリ。如斯卵巢ニ於テモ、石灰ノ沈着ヲ觀ルコトアルモ、極メテ稀有ナルモノナリ。余ノ例ニテハ皮質間質結締織中ニ石灰ノ沈着ヲ來シタルモノニシテ、其理由トスル所ハ鍍銀標本ニヨリ其處ニ尙周圍間質組織ト連レル細キ黒染纖維ノ一部ヲ見得ル點ナリトス。

第十三節 卵巢莖捻轉

29歳、未産婦、最終月經11月2日ヨリ3日間持續、6月頃ヨリ下腹部ニ腫痛ヲ訴へ、11月5日及8日ニ2回強度ノ下腹痛ヲ訴ヘタリ。卵巢囊腫ノ疑ノモトニ、12月1日開腹手術ヲ施シ、左側喇叭管卵巢ヲ剔出セリ。左側卵巢ハ手拳大(8厘大)橢圓形ニシテ、硬度軟、暗褐赤色ヲ呈シ、一般ニ汚染セリ。手術時該腫痛ハ大綱、腸間膜ノ一部及腹膜ト輕ク粘着セリ。喇叭管及廣韌帶ノ一部ヲ莖トシテ約45度ノ莖捻轉ヲ示セリ。腫痛ノ剖面ハ小ナル囊胞様空隙所々ニ認メラレ、一般ニ水腫狀ヲ呈シ、組織ハ瀰蔓性ニ脆ク、壊死様變化ヲ認メシメタリ。

右側卵巢 鶏卵大、少シク囊胞様ヲ呈セリ。

組織學的診斷 莖捻轉ニヨル出血、浮腫及壊死。

顯微鏡の所見

「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ卵巢皮質表層ノ一部ニ核染色弱キ胚上皮アリ。「リポイド」ノ沈着多シ。皮質間質中ニハ原始濾胞アレドモ一般ニ核染色悪ク、「エオジン」ニテ顆粒狀ニ赤染ス。

皮質表層ノ組織ハ他ノ部ニ比較シテ、染色佳キ紡錘形ノ核ヲ有スル膨化セル結締織アリ。鬆粗ナル排列テナス。所々ニ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ黄色顆粒ヲ多量ニ含メル紡錘形乃至圓形ノ稍大ナル單核細胞遊走ス。

又深部ニハ一般ニ「ヘマトキシリン」—「エオジン」染色ニテ顆粒狀無構造ニ赤染シ、所々ニ白血球、小圓形細胞及黄色顆粒ヲ含メル細胞ヲ散在性ニ認メシム。

血管 核染色悪ク血球ヲ充シ、擴張セルモノ多シ。

「ズダン III 染色ニテ組織ニハ 瀰蔓性ニ黄赤色ノ顆粒及滴狀物ノ沈着ヲ認メシメ、「ニールブラウ、スルファート」ニテハ紫藍色乃至黄綠青色ヲ呈シ、單屈折性ナリ。

Weigert 氏法ニテハ壞死ニ陥ラザル部ノ血管壁ニハ纖細ナル彈力纖維アレドモ、核染色悪キ部ニアリテハ顆粒狀ヲ示シ、膨化變性セリ。間質中ニハ彈力纖維ヲ認メシメズ。鍍銀標本ニテハ壞死ニ陥ル事比較的少キ部ニハ黒染セル細纖維ハ網狀ヲナシ、太キ黒染纖維ニ連レルモノアリ。又皮質表層比較的核染色佳キ所ニテハ纖維構造明ナルモ一般ニ纖維ハ顆粒狀沈着ヲ示シ、膨化變性セリ。

所々ニ認メラル、比較的染色佳キ血管壁ニハ明ニ尙纖維ヲ認メシムルモ、變性高度ナル部ニテハ顆粒狀沈着ヲ示シ、纖維ハ肥厚變性セリ。

考 按

Orthmann (1902)⁽¹²¹⁾ハ27歳ノ婦人ニテ腹膜炎様症狀ヲ訴ヘタル患者ヲ開腹セルニ、一側卵巣腫瘍ハ既ニ8年間莖捻轉ヲ來シ、其間腹膜炎ノ治療ヲ受ケ居タルモノニシテ、他側ノ新シキ卵巣囊腫ハ360度廻轉セリト言ヘル珍シキ例ニ就テ記セリ。

卵巣殊ニ腫瘍發生時ニ莖捻轉ヲ來ス事ハ屢ナリ。捻轉ノ程度及其持續日數等種々ナル關係ニヨリ、卵巣實質及間質ニハ出血、浮腫又ハ壞死等ノ退行現象ヲ起シ、組織像ヲ明ニ見得ザルガ如キ例ニ於テモ、鍍銀法ニヨリ檢スルニ、間質組織ハ多クハ膨化變性セルモ、一部ハ纖細ナル纖維トシテ認メ得ラレ、實質組織ニ比較シ、尙長ク保持セラル、モノナリ。而シテ本例ニ於テハ、上述捻轉卵巣ハ手拳大ニシテ、精査スレドモ腫瘍發生ノ像ヲ認メシメズ。其組織的所見ヨリ察スルニ、本例ハ多少肥大セル卵巣ノ何等カノ原因ニヨリ莖ノ捻轉セルタメ、其腫大ハ續發性ニ起リタル退行現象ノ結果ナリト思考セラル。

第十四節 血 栓 形 成

剖檢例 78歳。

剖檢上ノ主ナル診斷 汎發性動脈硬化症、氣管周圍肺炎、子宮粘膜炎下筋腫。

左側卵巣 2.5-1.0-0.6 種大。豌豆大ノ囊胞1個アリテ、内ニ稀薄透明ノ液ヲ容ル。右側卵巣 小ニシテ異常無シ。

顯微鏡的所見 (左側卵巣)

皮質表層ハ一般ニ「ヘマトキシリン」-「エオジン」染色ニテ核染色悪キモ、所々ニ特ニ周圍間質ト比較的境界銳利ニ堺セラレ「エオジン」ニ顆粒狀ニ赤染セル部アリ。此壞死様ヲ呈シ核染色悪キ部ニハ血栓ヲ造レル小ナル血管ヲ數個認メシム。此部ニハ「ズダン III 染色ニテハ「リポイド」ハ瀰蔓性ニ赤染セル顆粒トシテ沈着シ、鍍銀標本ニテハ纖細ナル格子狀纖維及吻合ヲナセル細キ黒染纖維ニテ鬆粗ナル網狀ヲナシ、周圍ハ間質ノ太キ帶褐黒染纖維ニ連ル、大部分ニハ纖維性ヲ認メシメ染色セザルモノヲ認ム。深部ニテモ組織ハ一般ニ核染色悪ク、周圍ト境界銳利ナル大小ノ硝子様物質存在シ、間質結締織ハ少ク、血管ハ内膜及中膜共ニ肥厚シ、彈力纖維モ帶狀又ハ顆粒狀ニ變性シ、管腔閉塞シ、「エオジン」ニ顆粒狀又ハ無構造ニ赤染セリ。「ズダン III 染色標本ニテハ壁全體ニ顆粒狀ノ「リポイド」沈着ヲ認ム。

鍍銀標本ニテハ間質結締織中ニテハ少シク細キ纖維アルモ、一般ニ稍顆粒狀沈着ヲ示セル太キ褐染纖維アリ。硝子様變性ヲ示セル部ニテハ纖維物質ヲ認メシメズ。

第十五節 卵巢固有組織ト疾病トノ關係

病的狀態ニ於テ卵巢固有組織ハ各種疾患ニヨリテ影響セラル可キモノナルヤニ就テ觀察セルニ大略次ノ如キ成績ヲ得タリ。即チ黃體囊胞ヲ形成セル卵巢ニテハ原始濾胞、閉鎖濾胞、退行第二期黃體等ヲ認メシメ、慢性卵巢炎(殊ニ經閉期前ノ年齡ノモノ)ニテハ退行第二期黃體、白體、原始濾胞、發育濾胞等ヲ認メシメ、又卵巢結核症ニ於テハ各例ニヨリ多少趣ヲ異ニスルモ、一般ニ原始濾胞、發育濾胞、白體、濾胞黃體等ヲ比較的多數ニ認メ得ルモノアリ。

而シテ囊狀畸形腫ノ畸形腫組織ヲ有セザル他ノ部ノ囊胞壁皮質間質中ニハ各例ニヨリテ夫夫異レルモ、原始濾胞、Graaf氏濾胞、發育濾胞、第三期退行黃體、白體、各期ノ閉鎖濾胞、小黃體等ヲ認メシムルモノアリ。又囊胞壁ノ一部ニ石灰ノ沈着セル卵巢ニ於テモ、皮質間質中ニハ多數ノ原始濾胞、少數ノ小發育濾胞、閉鎖濾胞、大小ノ白體等ヲ認メシム。然ルニ化骨セルモノ、卵巢莖捻轉及血栓ヲ形成セル卵巢例ニハ全ク固有組織ヲ認メシメズ。

次ニ腫瘍組織即チ卵巢癌腫、內被細胞腫、纖維腫、肉腫、粘液腫及混合腫瘍ノ粘液纖維腫、淋巴管筋腫、筋粘液纖維腫、筋粘液上皮腫、纖維筋腫(有莖ノ例ニ於テハ健康部ニハ種々ナル濾胞組織アリ)等ニテハ卵巢固有組織ヲ認メシメズ。只肉腫ノ或モノニテハ腫瘍細胞間ノ一部ニ原始濾胞ヲ認メシム。又 Krukenberg 氏腫瘍ニ於テモ、卵巢ハ瀰蔓性ニ癌細胞ト結締組織ニテ占メラレ、固有組織ヲ認メシメザルモ、12例中1例ニハ小發育濾胞ヲ數個認メシメ、他ノ1例ニハ原始濾胞ヲ認メシメタリ。

又卵巢囊腫ニ於テハ腫瘍ノ壁ヲナセル皮質間質中ニハ原始濾胞、發育濾胞、閉鎖濾胞、成熟濾胞、黃體、白體等多數ノ濾胞ヲ有スルモノ多シ。然レドモ小兒頭大ノ如キ大ナル囊腫ニアリテハ壁ハ菲薄トナリ、濾胞組織ヲ認ムルコト稀ナリ。

病的卵巢ニ於テ卵巢固有組織ト疾病トノ關係ヲ觀ル事ハ興味アル問題ナリト信ズレドモ、之ニ關シテハ未ダ詳述セルモノ無シ。卵巢固有組織ハ上述セル如ク、各種疾患ニヨリテ甚シク相違ヲ示セルモノニシテ、一般ニ惡性腫瘍ニ於テハ認メシメザルモノ多シ。余ノ檢セシ多クノ例ハ比較の老年ノモノナルヲ以テ、卵巢固有組織ノ有無ハ營ニ疾病ノミ歸シ難ク、勿論年齡ヲモ相當考慮セザル可カラズ。從ツテ經閉期前ノ婦人ニアリテハ病竈ノ一部ニ局限セルカ或ハ疾病ノ初期ニ於テハ、其等卵巢ニ固有組織ヲ有スルモノハ卵巢機能ヲ營ミ得ル可能性ヲ有スレドモ、全然之ヲ缺ケルモノニアリテハ全ク機能ノ消失ヲ惹起セラル、モノト解セラル。

結 論

1. 本篇ハ101例ノ病的人體卵巢ニ於ケル病理解剖學的並ニ組織學的研究殊ニ格子狀纖維ノ組織學的研究ニ關スル記載ナリ。

2. Krukenberg 氏腫瘍ニアリテハ、腫瘍細胞ヲ以テ胞巢狀ヲナセル部ニテハ纖維ナル格子狀纖維及細キ膠基纖維ヲ以テ周圍ヲ圍繞シ、細胞間ニ纖維ノ存在ヲ認メシメズ。間質結締組織間ニ腫瘍細胞ノ連珠狀又ハ數個柱狀ニ浸潤性増殖ヲ示セル部ニテハ周圍ニハ細キ黒染セ

ル纖維アレドモ，細胞個々ヲ圍繞セルモノ無シ。

3. 冠乳嚢性囊腫，腺腫，悪性腺腫等ノ腫腫ニアリテハ夫々多少纖維ノ排列ヲ異ニスルモ，一般ニ管腔ノ基部ヲナセル癌細胞ノ周圍間質中ニハ太キ褐染乃至帶褐黒染纖維アリテ，癌細胞間ニ纖維ヲ認メシメズ。

又實質性腫ニ在リテハ癌細胞ノ胞巢ヲ形成セル周圍ニ太キ褐染乃至帶褐黒染纖維アリ，而シテ其或モノニハ一般ニ顆粒狀沈着ヲ示シ，膨化變性セリ。

4. 假性粘液囊腫ナルト漿液性囊腫タルトヲ問ハズ，卵巣囊腫ノ上皮基部ノ周圍間質ニハ一般ニ褐染乃至帶褐黒染纖維ヲ認メシメ，格子狀纖維ヲ缺ケリ。而シテ其多クハ膨化變性セリ。

5. **イ**。囊狀畸形腫ノ實質突起ノ間質ニ一般ニ太キ膠基纖維ヨリ成リ，特殊ナル臟器ノ外ハ格子狀纖維ヲ認メシメズ。而シテ其或モノニテハ所謂眞皮ノ膠基纖維ハ膨化セルモノアリ。**ロ**。囊狀畸形腫ニ於テ實質突起以外ノ間質中ニハ一部ニ黒染纖維ヲ僅ニ混ゼルモノアレドモ，一般ニ太キ帶褐黒染纖維ヨリナリ，膨化變性シ，顆粒狀沈着ヲ示セルモノアリ。

6. 内被細胞腫ノ腫瘍細胞ガ索ヲナセル部ニハ其周圍ニ黒染纖維アリ，不規則ナル排列ヲナセル腫瘍細胞間ニハ細キ格子狀纖維存シ網狀ヲナセリ。

7. 粘液腫及粘液纖維腫ノ粘液組織中ニハ格子狀纖維ノ粗網ヲ認メシメ，石灰ノ沈着セル部(粘液纖維腫)ニアリテハ周圍間質纖維ト連レル比較的細キ黒染纖維ヲ認メシムルモノアリ。

8. 肉腫細胞ト格子狀纖維トノ關係ハ極メテ密接ナリ。即チ小圓形細胞肉腫，紡錘形細胞肉腫及纖維肉腫ニアリテハ細胞個々ノ間ニハ極メテ緻細ナル格子狀纖維アリテ，緻密ナル網絡ヲナシ，腫瘍細胞ト格子狀纖維トノ關係ハ實ニ密接セリ。

又纖維肉腫ニテハ太キ帶褐黒染纖維ト細キ格子狀纖維トヨリナリ，緻密ナル纖維網ヲ作り，太キ纖維ノ一部ハ顆粒狀沈着ヲ示セリ。

大圓形細胞肉腫ニ於テハ肉腫細胞個々ノ間ニハ一般ニ緻細ナル格子狀纖維ヲ以テ緻密ナル網絡ヲナシ，各細胞間ニ存ス。肉腫細胞ノ間質結締織中ニ連珠狀又ハ柱狀ヲナシテ，浸潤性ニ增生セル部ニテハ格子狀纖維ハ各細胞個々ノ間ニ存セザル所アリ。

9. 纖維腫ニテハ太キ帶褐黒染纖維ヨリナリ，格子狀纖維ヲ認メシメズ。纖維ハ一般ニ肥厚シ，束狀ヲナシ，種々ノ方向ニ走レリ。

10. 混合腫瘍

イ。筋・粘液・上皮腫ニアリテハ間質組織ハ一般ニ少數ノ細キ黒染纖維ト多數ノ太キ褐染纖維ヨリナリ，上皮腫ノ周圍ヲ圍繞セル格子狀纖維及膠基纖維ハ其ヨリ上皮細胞間ニ侵入セルモノ無シ。

ロ。筋・粘液・纖維腫ニテハ主トシテ纖維腫ヲ形成セル部ニハ太キ膠基纖維ノミヨリナリ，筋組織ヲ混ゼル部ニテハ少シク格子狀纖維ヲ混ゼリ。粘液腫ノ部ニハ細キ格子狀纖維ノ鬆粗ナル網絡ヲナセリ。

ハ、淋巴管筋腫ニ於テハ此兩組織ノ間質中ニハ細キ格子狀纖維ヲ以テ細網ヲナセドモ、硝子様物質沈着シ、肥厚變性强キ部ニテハ帶褐黒染セル膨化纖維ヲ認メシム。

ニ、纖維筋腫及筋纖維腫ニテハ一般ニ太キ膠基纖維間ニ、稍細キ同纖維ヲ混ジ、一部纖維ハ膨化シ、顆粒狀沈着ヲ示セルモノアリ。

11. 炎 症

イ、慢性卵巣炎ニテ 圓形細胞、「プラスマ細胞、單核細胞等ノ密集セル部及皮質表層肉芽組織ノ部ニテハ極メテ細キ格子狀纖維ヲ以テ鬆粗ナル網ヲナセルモノアルモ、其他ノ間質ニテハ一般ニ帶褐黒染セル太キ膠基纖維ヨリナリ、多クハ變性膨化セリ。

ロ、卵巣粟粒結核ノ周圍ニハ纖細ナル格子狀纖維網ヲ認メシム。其他小圓形細胞ノ浸潤セル部ニハ纖細ナル格子狀纖維ヲ以テ緻密ナル網狀ヲナセルモノヲ多數ニ認メシム。乾酪様變性ヲ示シ、壞死ニ陥レル部ニアリテハ、格子狀纖維モ遂ニ肥厚變性消失シ、認ムル事ヲ得ズ。

12. 黃體囊胞ニアリテハ黃體層ニハ纖細ナル格子狀纖維網ヲ認メシムルモ、纖維染色鮮明ナラズ。殊ニ黃體層内壁ノ硬固ナル結締織ノ部ニハ著明ナリ。而シテ間質ノ膠基纖維モ肥厚膨大セリ。

13. 石灰化シ又骨形成アル部ニテハ周圍皮質間質組織ト續ケル細キ黒染纖維ヲ多數ニ認メ得ル部アリ。纖維ハ一般ニ膨化シ、肥厚シ、顆粒狀沈着ヲ示セルモ、部位ニヨリテハ細キ網狀ヲナセル黒染纖維ヲ認メシム。

14. 卵巣ノ莖捻轉ヲ來シ、出血、水腫、壞死等退行變性ニ陥レルモノニアリテハ瀰漫性ニ纖維ハ黒染シ、一部ニハ細纖維ヲ以テ網狀ヲナセルモ、纖維ハ一般ニ太ク膨化シ、全ク壞死ニ陥レル部ニアリテハ纖維トシテ認メラレズ。

15. 血栓形成部ノ卵巣表層ノ核染色悪キ部ニハ纖維ノ大部分ハ染色セズ。纖細ナル格子狀纖維ヲ以テ僅ニ鬆粗ナル網ヲナシ、周圍間質ノ太キ膠基纖維ニ連レリ。

16. 卵巣ノ格子狀纖維ハ病的狀態(殊ニ石灰沈着、化骨形成)ニ於テ可ナリ強キ抵抗力ヲ有ス。然レドモ石灰沈着、硝子様變性、壞死、乾酪變性、炎症等ニアリテ病變ノ進行ニ伴ヒ、遂ニハ破壊消失ノ運命ヲ迎ル。

17. 膠基纖維及格子狀纖維ハ腫瘍ノ増大、囊胞ノ擴大ニヨリテ漸次壓迫セラレ、退行性病變ヲ示スニ至ル。

18. Bielschowsky 氏鍍銀法ヲ以テスル格子狀纖維ノ檢出ハ腫瘍鑑別(殊ニ癌腫ト肉腫)ニ資スル所多ク、一方發生母組織ヲ判定セシメ、且實質組織ノ増生ニ對スル間質組織ノ變化ヲヨリ精細ニ窺知スル事ヲ得セシム。

文 獻

- 1) Adachi, S., Ein Fall von Knochenbildung im Corpus albicans. Zent. f. allg. Path. u. path. Anat. Bd, XXIV 1913 S. 854. — 2) 足立修：所謂クルーケンベルヒ氏卵巣腫瘍ニ就テ、醫事新聞、第902號、大正3年、721頁。 — 3) Acconci, L., Ueber tuberkulöse Ovaritis. Cent. f. allg.

- Path. u. path. Anat. Bd. 5 S. 629. — 4) **Alterthum**, Neuere Arbeiten über die Infektionswege bei Urogenitaltuberkulose. Monat. f. Gyn. Bd. XIII 1901 S. 367. — 5) **Amann**, Ueber Ovarial-sarcome. Arch. f. Gyn. Bd. 46 1894 S. 484. — 6) **安藤蓮一**: 婦人科學各論, 増訂第4版, 昭和2年. — 7) **Autenrieth**, 安藤(6) = 據ル. — 8) **Bab. H.**, Ueber Melanosarcoma ovarii. Gleichzeitig ein Beitrag zur Physiologie des Pigments. Arch. f. Gyn. Bd. 79 1906 S. 158. — 9) **Bandler**, Die Dermoideysten des Ovariums, ihre Abkunft von dem Wolff'schen Körper. Arch. f. Gyn. Bd. 61 1900 S. 445. — 10) Derselbe, Zur Entstehung der Dermoideysten. Arch. f. Gyn. Bd. 60 1900 S. 377. — 11) **Basso**, Beitrag zur Kenntnis der gutartigen bindegewebigen Neubildungen des Ovariums, insbesondere der Myome. Arch. f. Gyn. Bd. 74. 1905 S. 70. — 12) **Baumgarten**, Ein Fall von Cystoma ovarii mit tuberculöser Entartung der Cystenwand, Exstirpation, Genesung. Pathologisch-anatomische Mittheilungen. Virchow's Arch. Bd. 97 1884 S. 11. — 13) **Bullitt**, 安藤(6) = 據ル. — 14) **Cleghorn**, 安藤(6) = 據ル. — 15) **Diepgen, P.**, Drei Corpus-luteum-Cysten. Beiträge zur Geb. u. Gyn. Bd. 8 1904 S. 52. — 16) **Dietrich u. Kellendonk**, Über Kugelbildung in Dermoid-Cysten. Virchow's Arch. Bd. 237 S. 326. — 17) **Elggenberger**, 安藤(6) = 據ル. — 18) **Emanuel, R.**, Ueber Teratoma ovarii. Zeit. f. Geb. u. Gyn. Bd. 25 1893 S. 187. — 19) **Fenger**, Plenz(134) = 據ル. — 20) **Fehling**, 安藤(6) = 據ル. — 21) **Feis, O.**, Ein Fall von Fibromyoma ovarii. Zent. f. Gyn. Jahr. 18 1894 S. 133. — 22) **Fischer**, Zwei Fälle von Krukenberg'schen Tumoren. Zent. f. Gyn. Jahr. 34 1910 S. 621. — 23) **Fitzgibbon**, 安藤(6) = 據ル. — 24) **Flaischlen**, Zur Pathologie des Ovariums. Zent. f. Geb. u. Gyn. Bd. 7 1881 S. 434. — 25) **Frank u. Orthmann**, Ein Fall von Tuberkulose der Eileiter und Eierstöcke. Berl. klin. Wochensh. 1898 No. 6. (zit. nach Grouzdew (42)). — 26) **Fraenkel, E.**, 折田(120) = 據ル. — 27) **Fraenkel, L.**, Ueber Corpus-luteum-Cysten. Arch. f. Gyn. Bd. 48 1895 S. 1. — 28) Derselbe, Der Bau der Corpus-luteum-Cysten. Arch. f. Gyn. Bd. 48 1895 S. 355. — 29) **Franqué**, 安藤(6) = 據ル. — 30) **Frericks**, Wolff(193) = 據ル. — 31) **Franqué**, Zur Tuberkulose der weiblichen Genitalien, insbesondere der Ovarien. Zeit. f. Geb. u. Gyn. Bd. 37 1897 S. 185. — 32) **Fritsch**, 安藤(6) = 據ル. — 33) **藤浜鑑**: 癌腫ノ病理(癌腫組織ノ増殖), 東京醫學會雜誌, 第19卷, 第12號, 557頁. — 34) **藤井保**: 癩結節ニ於ケル格子狀纖維ニ就テ, 北海道醫學會雜誌, 第1年, 第1號, 55頁. — 35) **Fürst, C.**, Knochenneubildung in der Wand einer Ovariencyste. Virchow's Arch. Bd. 97 1884 S. 131. — 36) **Gade, G.**, Cystis dermoidea, cystopapilloma proliferans et tuberculosis ovarii. Zent. f. Gyn. No. 25 1893 S. 597. — 37) **Garkisch, A.**, Tuberculöse Corpusluteumcyste. Zeit. f. Geb. u. Gyn. Bd. 63 1908 S. 66. — 38) **Gebhard**, Pathologische Anatomie der weiblichen Sexualorgane. 1899 S. 348. — 39) Derselbe, 安藤(6) = 據ル. — 40) **Glockner, A.**, Beiträge zur Kenntnis der soliden Ovarialtumoren. Arch. f. Gyn. Bd. 75 1905 S. 49. — 41) **Gloekner**, Demonstration. Zeit. f. Geb. u. Gyn. Bd. 60 1907 S. 320. — 42) **Grouzdew, W.**, Zur Frage der Cysten der Corpora lutea des Ovariums. Arch. f. Gyn. Bd. 79 1906 S. 347. — 43) **Grouzdew, V.**, Beitrag zur Frage der proliferierenden, aus Luteinzellen bestehenden Ovarialgeschwülste. Arch. f. Gyn. Bd.

- 70 1903 S. 445. — 44) 林郁彦：稀有ナル卵巢内被細胞腫ノ一例ニ就テ (Ueber einen Fall von seltenen Ovarialendotheliom) (極メテ多數ノ層疊石灰顆粒ヲ有スル多發性表在性乳嚙性淋巴管内被細胞腫), 癩第6年, 第2册, 1頁. — 45) Heinricius, G., Ein Fall von Endothelioma lymphaticum ovarii. Arch. f. Gyn. Bd. 73 1904 S. 323. — 46) Herxheimer, Zur Pathologie der Gitterfasern der Leber. Verhandlungen der deut. path. Gesellschaft, II Tagung S. 342. — 47) Heiberg, Wolff (193) = 據ル. — 48) 廣瀬豊一：黄体發性ニ關スル實驗的組織的研究, 東京醫學會雜誌, 第34卷, 第2號別刷. — 49) Hofmeier, 安藤(6) = 據ル. — 50) Hofmeier u. Veits, 安藤(6) = 據ル. — 51) Hoffmann, 安藤(6) = 據ル. — 52) Hörmann, Über das Bindegewebe der weiblichen Geschlechtsorgane. I Die Bindegewebsfasern im Ovarium. Arch. f. Gyn. Bd. 82 1907 S. 619. — 53) Derselbe, Die Bindegewebsfasern in der Schleimhaut des Uterus. Ach. f. Gyn. Bd. 86 1908 S. 404. — 54) 保々輝彦：膠様癌ノ組織學的檢索並ニ組織學的分類ト臨床的經過トノ關係ニ就キテ, 日新醫學, 第8卷, 大正8年, 795頁. — 55) Hussy, P., Beitrag zur Kenntnis der Krukenberg'schen Ovarialtumoren. Zent. f. Gyn. Jahr. 35 Nr. 45 S. 1580. — 56) 稻見武彦：クルッケンベルグ氏卵巢腫瘍ニ就テ, 日本婦人科學會雜誌, 第13卷, 第7號, 16頁. — 57) 池田：安藤(6) = 據ル. — 58) 池松武志：盲腸部ニ發生セル惡性腫瘍ニ就テ, 並ニ腫瘍發育中ニ於ケル組織形態ノ變化及其意義, 日本微生物學會雜誌, 第17卷, 第8號, 1331頁. — 59) 石川正臣：黄体細胞性卵巢肉腫(黄体細胞腫)ニ就テ, 日本病理學學會々誌, 第11年, 498頁. — 60) Jaffé, J., Blasenmole und Eierstock, ein Beitrag zur Pathologie des Corpus luteum. Arch. f. Gyn. Bd. 70 1903 S. 462. — 61) Karczewski, A., Ein Fall von Ovarialcyste bei einem 10 jährigen Mädchen mit Stieltorsion. Volvulus des S romanum. Zent. f. Gyn. Nr. 17 1904 S. 547. — 62) Kaufmann, 安藤(6) = 據ル. — 63) 北川之次郎：卵巢惡性腫瘍(クルーケンベルヒ氏腫瘍)ニ胃癌合併ノ一例, 中央醫學會雜誌, 第25卷, 第2號, 大正7年, 125頁. — 64) 小島清豊：「クルーケンベルヒ氏腫瘍, 金澤醫學專門學校十全會雜誌, 第25卷, 第8號別刷. — 65) 菊地武熊：「タンニン酸銀沈着ニヨル病的組織ノ研究, 京都醫學雜誌, 第13卷, 第5號, 143頁. — 66) 小山正直：卵巢ノ病理解剖學的並ニ組織學的研究 其ノ一, 胎兒, 初生兒, 少女及春機發動期前後ノ處女期ニ於ケル生理的人卵巢殊ニ其ノ所謂格子狀纖維ニ就テ, 金澤醫科大學十全會雜誌, 第35卷, 第6號別刷. — 67) 同人：卵巢ノ病理解剖學的並ニ組織學的研究 其ノ二, 成熟期經閉期及老年期ニ於ケル生理的人卵巢殊ニ其ノ所謂格子狀纖維ニ就テ附黄体ノ發生, 金澤醫科大學十全會雜誌, 第35卷, 第9號, 1681頁. — 68) Kon, Das Gitterfasengerüst der Leber unter normalen und pathologischen Verhältnissen. Arch. f. Entwickl. mechan. der Organismen. Bd. 25 Heft 3 1908 S. 492. — 69) Köttschau, Über Endothelioma ovarii. Zent. f. Gyn. Nr. 44 1896 S. 1118. — 70) Kraus, E., Ueber das Zustandekommen der Krebsmetastasen im Ovarium bei primärem Krebs eines anderen Bauchorgans. Monat. f. Geb. u. Gyn. Bd. XIV 1901 S. 1. — 71) Krzywicki, Neunundzwanzig Fälle von Urogenitaltuberkulose, darunter ein Fall von Tuberkulose bei der Ovarien. Beiträge zur path. Anat. u. zur allg. Path. Bd. III 1888 S. 295. — 72) Krukenberg, R., Beitrag zur Kenntnis des Perithelioma ovarii. Zeit. f. Geb. u. Gyn. Bd. 41 1899 S. 473. — 73) Krukenberg, F., Ueber das Fibrosarcoma ovarii mucocellulare(carcinomatodes). Arch. f. Gyn. Bd. 50 1896 S. 287. —

- 74) **Kuru, H.**, Differentialdiagnostische Untersuchungen zwischen Sarkom und Karzinom mit Hilfe der Gitterfaserfärbung. Verhandl. d. deut. path. Gesellschaft 13 Tag. 1909 S. 386. — 75) **Kubo, T.**, Ueber das Lymphangioendothelioma ovarii, Ein Beitrag zur Kenntnis der endothelialen Geschwulstbildungen im Eierstock. Arch. f. Gyn. Bd. 87 1909 S. 664. — 76) **楠田彰司** : クルーケンベルヒ氏腫瘍ノ1例, 日本婦人科學會雜誌, 第11卷, 第2號(大正5年), 106頁. — 77) **Kworostansky, P.**, Zur Aetiologie der epithelialen Eierstockgeschwülste und Teratome. Arch. f. Gyn. Bd. 57 1899 S. 1. — 78) **Laidley, H.**, Fibroma of the ovary. American Journ. of Obst. Bd. XLII 1900 P. 661. — 79) **Langer, A.**, Ueber einen Fall von Sarcoma ovarii. Arch. f. Gyn. Bd. 49 1895 S. 508. — 80) **Langer**, Grouzdew (43) = 據ル. — 81) **Langer**, 安藤(6) = 據ル. — 82) **Lebert**, 安藤(6) = 據ル. — 83) **Leopold, G.**, Die soliden Eierstocksgeschwülste. Arch. f. Gyn. Bd. 6 1874 S. 189. — 84) **Leopold**, Stauder (170) = 據ル. — 85) **Leopold u. Flaten**, 安藤(6) = 據ル. — 86) **Lippert, W.**, Beitrag zur Klinik der Ovarialtumoren. Arch. f. Gyn. Bd. 74 1905 S. 389. — 87) **Lippert**, 安藤(6) = 據ル. — 88) **Madlener, M.**, Tuberkulöse Ovarialcyste und tuberkulöser Uteruspolyp. Zent. f. Gyn. Nr. 22 1894 S. 529. — 89) **Marchand**, 安藤(6) = 據ル. — 90) **Marckwald**, Ein Fall von Angioma cavernosum ovarii. Virchow's Arch. Bd. 137 1894 S. 175. — 91) **Martin**, Diepgen (15) = 據ル. — 92) **Martin**, 安藤(6) = 據ル. — 93) **Martin**, Stauder (170) = 據ル. — 94) **Masler**, Wolff (193) = 據ル. — 95) **増野純亮** : クルーケンベルヒ氏卵巣腫瘍 = 就テ, 岡山醫學會雜誌, 第261號, 6頁. — 96) **Marton E. Hall**, Ein Fall von sog. Krukenberg'schen Ovarialtumor (Proceedings of the New-York path. Soc. N. S. Vol. XII Nr. 3 u. 4.). Zent. f. Gyn. Jahr. 37 1913 S. 77. — 97) **松井芳雄** : 生理的及病的狀態 = 於ケル脾臟ノ格子狀纖維 = 就テ, 北越醫學會雜誌, 第29卷, 第1號及第2號, 大正3年, 1頁及115頁. — 98) **松田茂** : 生理的及病的腎ノ組織的研究殊 = 其所謂格子狀纖維 = 就テ, 金澤醫科大學十全會雜誌, 第29卷, 第9號別刷. — 99) **Methner**, Waldeyer (188) = 據ル. — 100) **Menge**, Grouzdew (42) = 據ル. — 101) **光井貞八** : 兩側卵巣肉腫ノ一例 = 就テ, 岡山醫學會雜誌, 大正12年, 90頁. — 102) **Mirabeau, S.**, Perithelioma ovarii cysticum. Monat. f. Geb. u. Gyn. Bd. X 1899 S. 462. — 103) **Mühlenbein**, 安藤(6) = 據ル. — 104) **Müller**, Ueber Carcinom und Endotheliom des Eierstockes. Arch. f. Gyn. Bd. 42 1892 S. 387. — 105) **Mundé, P.**, Drei Fälle von Schwangerschaft, kompliziert mit Ovarialtumor. Zent. f. Gyn. Nr. 4 1888 S. 64. — 106) **Neuhäuser, H.**, Ueber die teratoiden Geschwülste des Eierstockes. Arch. f. Gyn. Bd. 79 1906 S. 696. — 107) **中村八太郎** : 小兒 = 發生セル肝臟原發癌 (Primaerer Leberkrebs bei einem Kinde), 癌大正5年, 123頁. — 108) 同人 : 胃肉腫 = 就テ, 附胃癌腫 = 關スル一二ノ記述, 癌5年, 第2冊, 86頁. — 109) **Neumann, O.**, Das grosszellige solide Karzinom der weiblichen Keimdrüse. Das Karzinom der Scheinzwitter, Zwitter und der jugendlichen beiderlei Geschlechts nach Robert Meyer. Zeit. f. Geb. u. Gyn. Bd. 98 Heft 1 1930 S. 78. — 110) **Neumann, S.**, Dermoidcyste eines überzähligen Eierstockes mit maligner (perithelialer) Degeneration der Cystenwand. Arch. f. Gyn. Bd. 58 1899 S. 185. — 111) **西岡道雄** : 所謂クルーケンベルヒ氏卵巣腫瘍ノ組織本態 = 就テ, 中外醫事新報, 第804號, 1232

- 頁. — 112) **Offergeld**, Organanlagen in den Ovarialembryomen mit besonderer Berücksichtigung pathologischer Vorgänge. Arch. f. Gyn. Bd. 75 1905 S. 165. — 113) **萩野久作** : 人類黃體ノ研究, 北越醫學會雜誌, 第38年, 第1號別刷. — 114) **緒方** : 安藤(6) = 據ル. — 115) **Olshausen, R.**, Ueber Metastasenbildung bei gutartigen Ovarialkystomen. Zeit. f. Geb. u. Gyn. Bd. 11 1884 S. 238. — 116) **Olshausen**, 安藤(6) = 據ル. — 117) **Oliva**, Grouzdew(42) = 據ル. — 118) **大貫安三** : 所謂クルッケンベルヒ氏腫瘍ノ1例, 癌 第6年, 217頁. — 119) **Oppenheim**, Wolff(193) = 據ル. — 120) **折田顯** : ルテイン嚢腫ニ就テ, 日本婦人科學會雜誌, 大正6年, 921頁. — 121) **Orthman**, Ovarialtumoren mit doppelseitiger Stieltorsion und vollkommener Atrophie der linken Tube. Zent. f. Gyn. Nr. 49 1902 S. 1346. — 122) **Orthmann**, Diepgen(15) = 據ル. — 123) **Orthmann**, Grouzdew(42) = 據ル. — 124) **Orthmann**, 安藤(6) = 據ル. — 125) **Orth**, Marckwald(90) = 據ル. — 126) **Outerbridge**, Krukenberg-Tumor des Ovariums. (Amer. Journ. of Obst. and Dis. of Women and Children 1911.) Zent. f. Gyn. Jahr. 36 1912 S. 343. — 127) **Papaïoannou, T.**, Zur Kenntnis der endothelialen und metastatischen Ovarialtumoren. Monat. f. Geb. u. Gyn. Bd. XX 1904 S. 802. — 128) **Pauly**, 安藤(6) = 據ル. — 129) **Pfannenstiel**, 安藤(6) = 據ル. — 130) **Pfannenstiel**, Diepgen = 據ル. — 131) **Pick**, Zur Frage der Eierstocksveränderungen bei Blasenmole. Zent. f. Gyn. Jahr. 27 Nr. 34 1903 S. 1033. — 132) **Plouquet-Autenrieth**, 安藤(6) = 據ル. — 133) **Polano, O.**, Ueber Pseudoendotheliome des Eierstocks. Zeit. f. Geb. u. Gyn. Bd. 51 1904 S. 1. — 134) **Plenz**, Zur Entstehung von Dermoidkugeln. Monat. f. Geb. u. Gyn. Bd. 36 1912 S. 696. — 135) **Pollak, E.**, Zur Kenntnis des Perithelioma ovarii. Monat. f. Gyn. Bd. 7 1898 S. 179. — 136) **Pozzi u. Bender**, Adachi(1) = 據ル. — 137) **Prüsmann, F.**, Zur Tuberculose der Eierstocksgeschwülste. Arch. f. Gyn. Bd. 68 1903 S. 769. — 138) **Rauth**, Plenz(134) = 據ル. — 139) **Répan**, 安藤(6) = 據ル. — 140) **Ribbert**, 安藤(6) = 據ル. — 141) **Rokitansky**, Plenz(134) = 據ル. — 142) **Rokitansky**, 安藤(6) = 據ル. — 143) **Rössle**, 安藤(6) = 據ル. — 144) **Rössle u. Yoshida**, Das Gitterfasergestüt der Lymphdrüse unter normalen u. pathologischen Verhältnissen. Beiträge zur path. Anat. u. zur allg. Path. Bd. 45 1909 S. 110. — 145) **Rosthorn**, Grouzdew(42) = 據ル. — 146) **Rosthorn**, Zur Kenntnis des Endothelioma ovarii. Arch. f. Gyn. Bd. 41 1891 S. 328. — 147) **Russakoff, A.**, Ueber die Gitterfasern der Lunge unter normalen und pathologischen Verhältnissen. Beiträge zur path. Anat. u. zur allg. Path. Bd. 45 1909 S. 476. — 148) **佐藤(松)** : 安藤(6) = 據ル. — 149) **佐藤(勤)** : 安藤(6) = 據ル. — 150) **Sänger**, Tuberkulöses Cystoma ovarii bei Tuben- und Bauchfelltuberculose. Zent. f. Gyn. Nr. 28 1890 S. 522. — 151) **Santi**, Die Pathologie des Corpus luteum. Monat. f. Geb. u. Gyn. Bd. 20 1904 S. 143. — 152) **Santi, E.**, Die Pathologie des Corpus luteum. Monat. f. Geb. u. Gyn. Bd. 20 1904 S. 76. — 153) **齋藤治** : 卵巢皮様嚢種病理知見補遺, 岡山醫學會雜誌, 第406號, 大正12年, 787頁. — 154) **貴家學而** : 所謂クルーケンベルグ(Krukenberg)氏腫瘍ニ就テ標本供覧, 癌 第5年, 69頁. — 155) **Savariend u. Gulbal**, 安藤(6) = 據ル. — 156) **Segalowitz**, 安藤(6) = 據ル. — 157) **Sekiba, D.**, Zur Morphologie und Histologie des

- Menstruationszyklus. Arch. f. Gyn. Bd. 121 1924 S. 36. — 158) **Schauta**, 安藤(6) = 據ル. — 159) **Schauta-Herzfeld**, Stauder(170) = 據ル. — 160) **Schenk, F.**, Primärer Krukenberg'scher Ovarialtumor. Zeit. f. Geb. u. Gyn. Bd. 51 1904 S. 277. — 161) **Schlagenhauser, F.**, Ueber das metastatische Ovarialcarcinom nach Krebs des Magens, Darmes und anderer Bauchorgane. Monat. f. Geb. u. Gyn. Bd. XV 1902 S. 485. — 162) **Schmidt, E.**, Über die Stützsubstanz der Leber im normalen u. pathologischen Zustande. Beiträge zur path. Anat. u. zur allg. Path. Bd. 42 1907 S. 906. — 163) **Schröder**, Adachi(1) = 據ル. — 164) **Schröder**, 安藤(6) = 據ル. — 165) **Schröder, R.**, „Gallensteine“ in einem Dermoid. (Zur Frage der Kugelbildung in Dermoidgeschwülsten). Monat. f. Geb. u. Gyn. Bd. 48 1918 S. 98. — 166) **Schottlaender, V.**, Ueber die Tuberkulose des Eierstocks und der Eierstocksgeschwülste nebst einigen Bemerkungen über die Tuberkulose des Eileiters. Monat. f. Geb. u. Gyn. Bd. V 1897 S. 321. — 167) **Schottlaender**, Santi(151) = 據ル. — 168) **Schwertassek, F.**, Sarcomatöse Degeneration einer mit einem Teratom combinirten Ovariencyste. Arch. f. Gyn. Bd. 47 1894 S. 568. — 169) **Spaeth**, Wolff(193) = 據ル. — 170) **Stauder, A.**, Ueber Sarkome des Ovariums. Zeit. f. Geb. u. Gyn. Bd. 47 1902 S. 357. — 171) **Steinhoff, J.**, Über Zähne in Ovarialteratomen. Arch. f. Gyn. Bd. 116 S. 51. — 172) **Steinhoff**, 安藤(6) = 據ル. — 173) **Steffeck, P.**, Zur Entstehung der epithelialen Eierstocksgeschwülste. Zeit. f. Geb. u. Gyn. Bd. 19 1890 S. 236. — 174) **Sternberg, C.**, Ein Fall von multiplem Endotheliom („Krukenberg'schen Tumor“) des Knochenmarks. Zent. f. allg. Path. u. path. Anat. Bd. XII Nr. 15 1901 S. 625. — 175) **Strassmann**, Ueber Embryoma ovarii. Arch. f. Gyn. Bd. 61 1900 S. 608. — 176) **Strassmann**, 安藤(6) = 據ル. — 177) **Stickel, M.**, Ueber doppelseitige metastatische Ovarialcarcinome. Arch. f. Gyn. Bd. 79 1906 S. 605. — 178) **Stronca**, Adachi(1) = 據ル. — 179) **田中祐吉**: 卵巣癌種ヨリ胃轉移癌ヲ發生シタル一例, 東京醫事新誌, 第999號, 1頁. — 180) **徳岡英**: 所謂クルーケンベルヒ(Krukenberg)氏腫瘍ノ標本供覽, 京都醫學雜誌, 第13卷, 第2號, 大正5年, 180頁. — 181) **Ulesko-Stroganoff**, Zur Histogenese der sogenannten Krukenberg'schen Eierstocksgeschwülste. Zent. f. Gyn. 1910 Jahr. 34 S. 1049. — 182) **Ulesko-Stroganowa**, Folliculoma ovarii carcinomatodes. (Zur Hystogenese der epithelialen Eierstocksgeschwülste.) Arch. f. Gyn. Bd. 121 S. 340. — 183) **Virchow**, Marckwald(90) = 據ル. — 184) **Voigt, M.**, Ueber Carcinoma folliculoides ovarii. Arch. f. Gyn. Bd. 70 1903 S. 87. — 185) Derselbe, Fall von Kaiserschnitt nach Porro in der Schwangerschaft wegen malignen Ovarialtumors nebst Beitrag zur Pathologie des Corpus luteum. Arch. f. Gyn. Bd. 49 1895 S. 43. — 186) Derselbe, Zur Kenntnis des Endothelioma ovarii. Arch. f. Gyn. Bd. 47 1894 S. 560. — 187) **Wallgren, I.**, Studien über das Fibrillenbildungsvermögen der Epitheloidzellen in tuberkulösem Gewebe. Arbeiten aus dem path. Institut der Universität Helsingfors. Bd. 6 1930 S. 51. — 188) **Waldeyer**, Die epithelialen Eierstocksgeschwülste, insbesondere die Kystome. Arch. f. Gyn. Bd. 1 1870 S. 252. — 189) **Wechsberg, L.**, Zur Tuberkulose der Eierstocksgeschwülste. Monat. f. Geb. u. Gyn. Bd. XVIII 1903 S. 752. — 190) **Wermuth**, 安藤(6) = 據ル. — 191) **Williams, W.**, Calcified tumors of the ovary. The

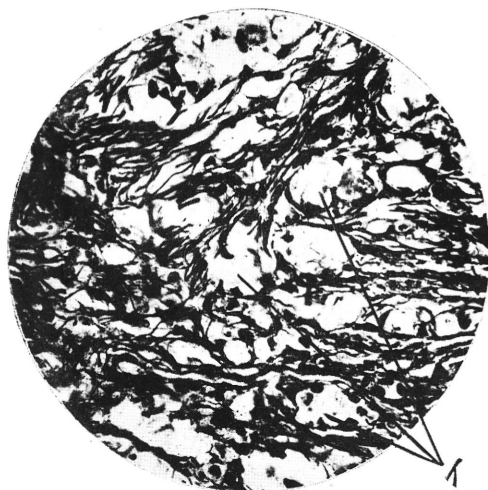
Amer. Journ. of Obst. Vol. XXVIII 1893 P. 1. — 192) William, Wolff (193) = 據ル. —
 193) Wolff, B., Ueber die Tuberkulose des Eierstocks. Arch. f. Gyn. Bd. 52 1896 S. 235. —
 194) Yamagiwa, K., Zwei Fälle von Dermoidcyste des Ovariums mit carcinomatöser Degeneration
 und Metastasenbildung. Virchow's Arch. Bd. 147 1897 S. 99. — 195) 山極勝三郎：病理總論
 講義，新訂9版。 — 196) 山崎：安藤(6) = 據ル. — 197) 山田：安藤(6) = 據ル. — 198)
 吉田：安藤(6) = 據ル. — 199) 横尾秋夫：先天性黴毒兒ノ肝及脾ニ於ケル格子狀纖維ニ就テ，
 日本病理學會々誌，第12年，大正11年，289頁。 — 200) Zweifel, 安藤(6) = 據ル. —

附 圖 說 明

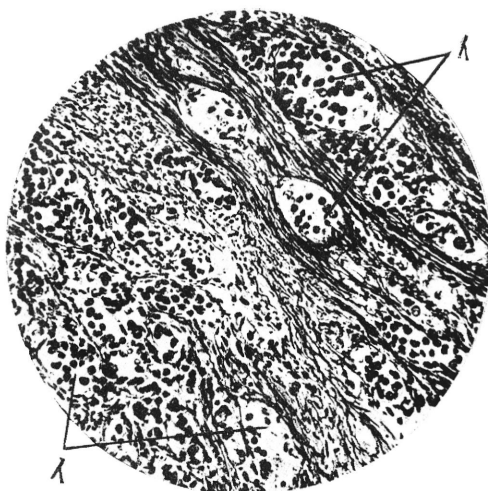
- 第1圖 Krukenberg 氏腫瘍，第1例 Bielschowsky 氏鍍銀標本(廓大200倍)，(Zeiss 顯微鏡，接眼鏡 Homal I. 接物鏡 A. P. 20X.)
 イ，印環狀細胞，其細胞群ヲ格子狀纖維ニテ圍繞セリ。
- 第2圖 腺癌腫，第5例 Bielschowsky 氏鍍銀標本，(廓大 Zeiss 顯微鏡，接眼鏡 Homal I. 接物鏡 A. P. 10X.)
 イ，腺管狀ヲナセル癌細胞群格子狀纖維ニテ腺管ノ周圍ヲ圍メリ。
- 第3圖 石灰沈着並ニ化骨セル部，第12節ノ例，Bielschowsky 氏鍍銀標本，(廓大270倍)，(Zeiss 顯微鏡，接眼鏡，Homal I. 接物鏡 A. P. 20X.)
 竈内ニ黒染纖維鬆組ニ排列セリ。

顯微鏡寫真撮影ニハ本學技術課廣瀬文雄氏ヲ煩ハセリ。茲ニ感謝ノ意ヲ表ス。

第一圖



第二圖



第三圖

